

之ヲ罰スルナリ

第六款

〔第二百八十四號〕 本款ニ於テハ其發言ノ承諾ヲ得サリシカ故ニ一人ニテ犯罪ノ決心ヲ爲シタルノミ且ツ其豫備ノ所爲ヲ行ハサリシヲテ假想セリト雖モ其犯罪ノ決心ヲ表シタル方法ヲ觀レハ必ラス害心ヲ抱キタルヲ明白ニシテ實ニ社會ノ危險ヲ顯セリ○然レモ其刑ヲ科スルニハ陰謀ノ刑ヲ科スルニ非ス何トナレハ道德ニ背反スルヲハ同一タリト雖モ社會ノ危險少ケレハナリ

第七款

〔第二百八十五號〕 本款ニ掲クル所モ亦國事犯ノ論理ヨリ借用セル一論理ナリ  
君主ノ身體ニ對シテ陰謀ヲ醸ストモ其犯罪ニ着手スルニ先チテ之レカ告發ヲ爲サシムルハ甚ダ希望スヘキヲニシテ之レカ爲メ一大不幸ヲ免カル、ヲ得可シ法律ハ此結果ヲ得ント欲シテ最先ニ陰謀ヲ告發セル犯者ニ其罪ヲ免カル、ヲ得セシメタリ  
斯ル告發ハ社會ノ危險ヲ消滅セシム良シヤ消滅セシムルニアラサルモ大ニ其危險ヲ減少ス可シ此告發ニ依テ官君主ノ身體ニ對シタル犯罪ヲ豫防ス可キ緊要ノ所爲ヲ盡スヲ得レハナリ且ツ告發者ハ他ノ犯人ニ比スレハ惡心淺クシテ早ク悔悟シテ善心ニ復シタルカ故

ニ之レヲ罰ス可カラス

然レモ法律ハ此告發者ヲ免スニ左ノ五箇ノ條件ヲ設置シタリ、第一 未タ些モ其重輕罪ニ着手セサルヲ要ス、第二 未タ何等ノ搜索ヲモ始メサルヲ要ス、第三 告發者其同謀人名ヲ指名スルヲ要ス、第四 罪人自カラ縛ニ就クヲ要ス、第五 最先ニ其陰謀ヲ告發セル者ニ非サレハ罪ヲ全免セス故ニ罪人中ノ一人既ニ其告發アリタルヲ知リ且ツ自己ノ爲メニ搜索ノアルヲ知テ而シテ後チ其陰謀ヲ告發シ以テ自己ノ罪ヲ免ガレントスルモ決シテ其罪ヲ免スルヲナシ○而シテ其新告發者最先ニ告發者アリシヲ知ラサル旨ヲ證セシキト雖モ亦其罪ヲ免セサル可シ是レ其同謀中ノ一人ニ因テ告發セラル、ノ恐レカ告發ノ決心ニ躊躇スル犯人ヲシテ速カニ之レヲ爲サシメンカ爲メナリ  
然リト雖モ其時機ヲ失シテ悔悟シ官ニ告發セシ者ト雖モ亦之レニ減輕情狀ノ利益ヲ與フルヲ至當ト云フ可シ

人或ハ云ハシ法律上告發者ニ刑ヲ科セサル場合ニ於テ其自カラ縛ニ就クヲ要スルハ怪ム可キノ法ナリト然レモ其之レヲ要スル所以ノモノハ抑モ理由アリ是蓋シ裁判所ニ於テ其果シテ全免スヘキモノナルヤ否ヲ明知シ得ルト且ツ若シ眞ニ之レヲ放タハ同類ノ爲メニ脅迫若クハ威制セラレテ再ヒ之ニ與ミスルナキヲ保セサレハ宜シク之レニ與ミセサラシ

天皇陛下等ノ身體ニ對スル重罪及ヒ輕罪

ムルヲ要スルナリ

### 第八款

〔第二百八十六號〕 告發者ニシテ既ニ其搜索ノ始マリタル後ニ告發シ且其身モ既ニ捕縛セラレタルキハ前款ニ掲クル所ノ告發者ノ如キ利益ヲ受ケサル可シ何トナレハ其社會ニ對シテ爲セル所ノ勤勞少ナク其眞ニ悔悟セルヤ否ヤモ亦疑フ可キカ故ナリ然リト雖モ其告發者ハ管ニ共同類ヲ告クルノミナラス其中ノ重立タル者ヲ捕縛セシメタルキハ之レヲ全免ス此賢良ナル寬典ハ以テ社會ノ危險ヲ避クルヲ得ヘシ勿論之ヲ全免スルハ犯罪ニ着手セサル時ニ限ルナリ

前款及ヒ本款ニ掲クル隨意告發ノ場合ハ第九十七條ニ從ヒ刑一等ヲ減スル告發ノ場合トハ大ニ異ナレルヲ見ル可シ第九十七條ノ場合ニ於テハ既ニ重輕罪ヲ遂ケタルモノニシテ法律ノ目的ハ隨意告發者ニ利益ヲ與ヘ以テ有罪者ノ刑ヲ免カル、事ト搜索ノ爲メ無辜者ヲ困シマシムルカ如キ社會ノ危險トヲ豫防スルニ在リ○前款及ヒ本款ニ於テハ法律ノ目的ノ全ク之レト異ナリテ犯罪ヲ遂クルヲ豫防スルニ在リ是ヲ以テ未タ犯罪ニ着手セサル時ノ告發ハ最モ之レヲ賞美シ既ニ犯罪執行ノ端緒アリテノ告發ハ決シテ然ラサルナリ○前款及ヒ本款ニ掲クル二箇ノ場合ニ於テ共謀人ノ名ヲ指示スルノ義務ハ固ヨリ存スルモノ

ナレトモ第九十七條ノ場合ニ於テハ存在セサルモノナリ(第九十七條註解第七十九號參觀)

### 第九款

〔第二百八十七號〕 本案以下ニ定ムル所ノ諸條例ニ於テハ法律上監視ヲ命スルヲ希ナリ而シテ刑ヲ宣告スル時ニ於テモ裁判所ノ適宜ニ監視ニ付スルモノ多シ然レトモ本款ノ如キハ法律ノ明文ヲ以テ監視ニ付スルモノニシテ裁判所ハ必ラス之レヲ宣告セサルヲ得ス其權内ニ在ルハ唯期限ノ長短ヲ定ムルニ止マレリ

本條ハ總則中第五十一條及ヒ第七十一條第二項(監視ヲ主刑ノ附加トセスシテ唯此刑ノミナ科スル場合ノ一ナリ)

以上ノ諸條例ハ司法省委員ノ始メ採用シテ後チニ廢止セルモノナリ其之レヲ廢止スルヤ正理ニ背反スルナキヲ得ス而シテ頒布法典ニハ之レヲ設定セスト雖モ余ハ之レカ再設ヲ希望スルノミナラス又之ヲ再設スルハ緊要ナリト信ス

### 第三百二十二條

〔第二百八十八號〕 本條ニ掲ケタル規則ハ前條ノ一般ノ原則ニ違ヘル法律ニシテ尊族親ニ對シタル同種ノ罪ヨリ更ラニ其罪ヲ嚴重ニスルモノナリ

天皇陛下等ノ身體ニ對スル重罪及ヒ輕罪

茲ニ法律ハ「<sup>○</sup>チッ<sup>○</sup>フ<sup>○</sup>ア<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>ス」(不敬ノ重キモノハ其更ラニ甚シキ意味アル「<sup>○</sup>ア<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>ユ<sup>○</sup>ール」(無  
 禮)又ハ「<sup>○</sup>ウ<sup>○</sup>ー<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>ラ<sup>○</sup>ー<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>ユ」(無禮ノ甚シキモノ)ト稱ス可キニ至ルヲ豫知シタリ○歐洲ノ  
 言語ニ於テ此三語ノ意義ハ輕重ノ度ニ於テ少シク差異アリト雖モ其語ヲ以テ示ス可キ事  
 實ノ間ニ判然タル區域ヲ定メ難シ唯尊敬ヲ失ヒタルニ三等ノ差アルノミ然レモ其區域ヲ  
 定ムルヲ甚ク難キヲ以テ刑罰ニ三等ノ區別ヲ立テス唯最高點ト最下點トノ間ヲ廣クシ唯  
 タ裁判官ヲシテ不敬ノ輕重ニ從ヒ適當ノ刑罰ヲ見出サシムルノミ  
 其他第百三十二條ハ更ニ直接ニ刑罰ノ大小ニ影響ヲ及ホス可キ一箇ノ區別ヲ爲シタリ即  
 チ天皇、皇后、皇太子ノ「御座前」ニ於テ不敬ノ所爲ヲ爲シタル時ト否ラサル時トヲ區別セリ  
 其御座前ニ於テ之レヲ爲シタル場合ノ如キハ天皇、皇后、皇太子之レヲ知ラサルヲナシ且  
 ツ直接ニ其耻辱ヲ受ケタルモノナリ故ニ一層其罪ヲ重クスルヲ必要ト信ス然リ而シテ之  
 レニ反スル場合ニ於テハ天皇、皇后、皇太子之レヲ知ラス或ハ之レヲ知ラサルヲ往々ニシ  
 テ之レアリ故ニ之レヲ罰スルハ斯ル事例ヲ懲ラスノ必要ナルカ爲メナルノミ  
 本條ノ罪ハ毫モ國事犯罪ノ中ニ入ラス若シ否ラサレハ輕禁錮ニ處ス可キナリ  
 「第百八十九號」不敬ノ罪ハ御座前ニ於テ犯セル時モ否ラサル時モ必ラス其公ケナルヲ  
 要ス○御座前ニ於テ犯セルキト雖モ傍觀者其場ニ在ラサレハ罪ヲ論セス○天皇、皇后、皇

太子ニ對シタル不敬ノ言語手姿タリトモ外ニ知ル者ナケレハ其威嚴ヲ傷クルヲナキヲ以  
 テ之レヲ不敬ノ罪トセス○且其犯罪ノ傍觀人少ナクモ一人アリテ之レカ證人トナリ之ヲ  
 法官ニ訴フルヲ必要トス故ニ若シ此事ナケレハ其罪ヲ裁判スルヲ得サルナリ  
 人或ハ云ハシ此公行ノ制限ヲ削除シ以テ證人ナキ直接ノ不敬ヲモ罰ス可シト然レモ此場  
 合ニ於テハ假令ヒ刑ヲ設クルモ之レヲ科スルヲ得サルヘシ何トナレハ天皇、皇后、皇太子、  
 其身ヲ低フシテ其害ヲ蒙レルヲ裁判所ニ訴フルヲナク且ツ新公法ニ於テハ其身自カラ  
 刑罰ヲ宣告シテ(輕キモノナリトモ)其受ケタル損害ヲ罰スルヲ得サレハナリ  
 本條ノ第二項ハ公ケニ不敬ノ所爲ヲ行フタル二箇ノ手段ヲ記載スル而已即チ印刷及ヒ演  
 説是ナリ然レモ吾人ハ之レニ加フルニ「又ハ其他ノ手段ヲ以テ」ノ文字ヲ以テセリ其故何  
 トナレハ文書ヲ配附シ又ハ家屋ニ繪ヲ畫キ記標ヲ出タシ若クハ公然人ノ眼目ニ觸ル可キ  
 像碑等ヲ以テ不敬ノ所爲ヲ行フヲ得レハナリ

第百三十三條

「第百九十號」前條ニ掲ゲタル場合ノ外ニモ尊族親ニ對スル罪ノ輕キモノニ付テハ或ハ  
 重罪ノ刑ヲ輕罪ノ刑ニ下ス可キ減輕理由アルニ依リ或ハ削除セラレタル條款(此條款ノ説ハ  
 リ)ヲ再設スルハ禁錮ノ刑ヲ宣告スルヲアル可シ

天皇陛下等ノ身體ニ對スル重罪及ヒ輕罪

此ノ如キ場合ニ於テ其犯人ニ禁錮ヲ受ケシメタル上ニ又一年以上三年以下ノ監視ニ付スルヲ得可シ○此監視ハ第三百三十一條第九款ニ豫定セル監視ト異ナリテ裁判官必ラス之レヲ命スルニ及ハス唯其適宜ニ委ス而已故ニ裁判官之レヲ宣告スルヲ待テ後ニ科セラル、ナリ

第二章 國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

帝權ニ對スル犯罪

第三百三十四條

日本ノ皇統ヲ顛覆シ又ハ帝位ヲ嗣クノ適法ノ順序ヲ變更シ若クハ日本國又ハ其屬國ノ一部分ヲ天皇ノ權威ヨリ潛領シ若クハ國政ニ關スル天皇ノ權利及ヒ特權ヲ減少スルヲ目的トシタル内亂、謀反又ハ兵器ヲ携ヘタル一揆ニ與ミシタル總テノ有罪者ハ其犯罪加効ノ度ニ從ヒ左ノ如ク處斷ス

- 第一 犯罪ノ煽動者タリシ者及ヒ其内亂、謀反又ハ一揆ニ付キ巨魁トナリテ指揮ヲ爲セシ者ハ無期ノ流刑及ヒ四百圓以上四千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二 總テ其他ノ指揮又ハ威權アル事務即チ職務ヲ爲セシ者ハ有期ノ流刑及ヒ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三 謀反ニ與ミシテ(兵器ヲ携ヘサリシト雖モ)前項ニ掲ケタル何等ノ指揮又ハ何等ノ職務ヲ行ハサリシ者ハ重禁獄ニ處ス(刑、第三百二十一條○草、零○佛刑、第八十七條)

中央官廳ニ對スル犯罪

第三百三十五條

内亂謀反又ハ兵器ヲ携ヘタル一揆ノ目的ハ一箇又ハ數箇ノ中央官廳又ハ其長官ノ職掌ヲ紊亂シ或ハ變更スルニ在ルカ若クハ其官廳ニ於テ爲シタル一箇又ハ數箇ノ政策上又ハ施政上ノ處分ヲ廢止シ若クハ中止スルニ在ルキハ左ノ如ク處斷ス

- 第一 謀反ノ煽動者及ヒ其巨魁ハ有期ノ流刑及ヒ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 第二 其副魁ハ重禁獄及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 第三 其他ノ干與者ハ輕禁獄ニ處ス(刑、零○草、零○佛刑、第九十一條第九十六條)
- (協議シテ一時ニ二箇又ハ數箇ノ府縣ノ官廳ニ對シ謀反ヲ爲セシキハ前ト同様ニ處斷ス可シ)(刑、零)

數多ノ町村ノ官廳ニ對スル犯罪

第三百三十六條

前條ニ豫定セル目的ヲ以テ一府縣ノ官廳ニ對シ又ハ一箇若クハ數箇ノ町村ノ官廳ニ對シ謀反ヲ爲セシキハ左ノ如ク處斷ス

- 第一 煽動者及ヒ巨魁ハ重禁獄及ヒ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 第二 副魁ハ輕禁獄及ヒ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 第三 總テ其他ノ干與者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス(刑、零)
- 第三百三十六條第二 (謀反又ハ兵器ヲ携ヘタル暴動ハ日本政府ニ於テ認知シ若クハ認知セサル宗教上ノ講説ヲ有効ナラシメントシ又ハ設置セシメントスル目的ヲ有セシキハ有罪者

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

ノ干與ノ度ト妨害ヲ蒙リタル府縣ノ數トニ從ヒ前二箇條ニ掲ケタル刑ヲ適用ス可シ(刑、零  
○草、零○佛刑、第九十一條第九十六條)

中央官廳  
ニ對スル  
暴行又ハ  
脅迫  
第百三十七條 兵器ヲ携ヘ又ハ兵器ヲ携ヘスシテ集合セル暴徒第百三十五條ニ豫定セル官  
廳ノ一ニ對シ其集會及ヒ其議事ヲ妨ケンカ爲メ又ハ強テ其意ニ反スル決議ヲ爲サシメンカ  
爲メ暴行又ハ脅迫ヲ行ヒシキハ其犯人ニ對シ行爲ニ干與スルノ度ニ從ヒ第百三十六條ニ記  
載セル刑ヲ適用ス可シ

其他ノ官  
廳ニ對ス  
ル犯罪ニ  
付テハ他  
ノ條ニ送  
リテ爲ス  
事  
第百三十六條ニ豫定セル官廳ノ一ニ關スルキハ其場合ハ第百六十七條及ヒ第百六十八條  
ニ規定ス(刑、第百三十六條第百三十七條第百三十九條○草、零○佛刑、第九十七條第九十八  
條第百九條以下)

執行ノ端  
緒  
第百三十八條 前五箇條ニ記載セル刑ハ其條ニ豫定セル犯罪執行ノ端緒アルキニ之レヲ科  
ス可シ(刑、第百二十四條○草、零○佛刑、第八十八條)

同視シタ  
ル場合  
前五箇條ニ豫定セル目的ヲ以テ脅迫又ハ欺計ヲ用ヒ左ノ諸件ヲ犯シタルキハ假令ヒ戰闘ヲ  
カリシトモ亦前五箇條ニ記載セル刑ヲ科ス可シ

- 第一 兵器、彈藥、彈丸、海陸軍ノ軍裝又ハ糧食等軍備品ノ奪領
- 第二 海陸軍ノ武庫、屯所若クハ政府ニ屬シ又ハ政府ノ使用スル船舶ノ占領又ハ強奪

第二 同上ノ手段ヲ用ヰテ兵隊又ハ公力者(主トシテ巡査、警兵等ヲ云フモノナ)ノ屯集運動ヲ妨ケ  
若クハ一揆ヲ豫防シ又ハ鎮壓スル爲メニ送リタル通知書又ハ命令狀ノ送達人ノ通行ニ  
加ヘタル妨害刑、第百二十二條○草、零○佛刑、第九十二條乃至第九十七條)

豫備ノ所  
爲第一ノ  
場合  
第百三十九條 兵隊ヲ招募シ又ハ編成シ若クハ兵器、彈藥、彈丸、軍裝、糧食等ノ軍備品ヲ備ヘ  
以テ單ニ前條々ニ記載セル犯罪ノ一又ハ數多ノ豫備ノ所爲ヲ爲セシキハ犯人ノ身分ニ循ヒ  
第百三十四條乃至第百三十七條ニ定メタル刑ニ各一等ヲ減ス

第二ノ場  
合  
總テ其他ノ豫備ノ所爲ニシテ犯人意外ノ情狀ニ因リ執行ノ繼續ナキキハ少ナクモ本刑ニ二  
等ヲ減ス可シ(刑、第百二十五條○草、零○佛刑、第八十九條第一項及ヒ第九十二條)  
第百四十條 二人又ハ數人ニテ前條々ニ豫定セル犯罪ノ協議決心ノヨチ爲セシキハ該條々  
ニ定メタル刑ニ三等ヲ減ス

陰謀ノ發  
言  
陰謀ヲ發言シタルモ之レカ承諾ヲ得サルキハ本刑ニ四等ヲ減ス可シ(刑、零○草、零○佛刑、第  
八十九條第二項、第三項及ヒ第四項)

完全ノ宥  
恕第一ノ  
場合  
第百四十一條 謀反ノ煽動者ニ非ス又謀反ニ付キ何等ノ指揮若クハ威權アル職務ヲ行ハサ  
ル者直接ニ犯罪執行ニ干與セスシテ自カラ脫黨シタルキハ完全ノ宥恕及ヒ免刑ヲ受ク可シ  
第二ノ場  
合  
陰謀ニ付キ威權アル職務即チ事務ヲ行フト雖モ犯罪執行ノ端緒ニ先タチ且第百三十八條ニ  
關シ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

豫定セル行為ノ前ニ自カラ縛ニ就キ陰謀ヲ告ケ巨魁ヲ指名シタルキハ亦前項同一ノ完全ノ宥恕ヲ受ク可シ

監視

但シ前二項ノ犯者ハ二年以上五年以下ノ監視ニ付スルヲ得(刑、第二百二十六條○草、零○佛刑、第百條)

刑ヲ減スル事

第四百二十二條 煽動者及ヒ巨魁犯罪執行ノ端緒アルノ前及ヒ第三百二十八條ニ豫定セル行為ノ前ニ降伏シテ自カラ縛ニ就キ其重立タル共犯及ヒ從犯ヲ告知シタルキハ豫備ノ所爲及ヒ陰謀ニ付キ第三百二十九條及ヒ第四百十條ニ記載シタル刑ノ二等ヲ減ス可シ(刑、零)

承前

第四百二十三條 總テ有罪人(巨魁ト巨魁ニ非サル者トヲ區別セス)謀反ノ結局ニ至ラサル前ニ自カラ縛ニ就キタル時ハ各々其處セラル可キ本刑ノ一等ヲ減セラル可シ(刑、零)

通常ノ重罪及ヒ輕罪

第四百二十四條 總テ犯人第三百三十四條以下ノ數條ニ豫定セル犯罪ヲ行ハシカ爲メ人民ノ財產若クハ身體ニ對シ通常ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者ハ常律ノ刑ニ處セラル可シ

何レノ場合ニ於テモ軍使、俘虜、人質又ハ其他接戰ニ加ハラザリシ者ヲ殺シタル者ニハ死刑ヲ宣告ス

承前

若シ兵器ヲ携フル一揆カ前以テ指名シタル一人若クハ數人或ハ衆人ヲ殺戮シ又ハ公私ノ財產ノ毀壞若クハ強奪ヲ以テ目的ト爲シタルキハ單ニ常律ノ刑ノミヲ適用ス可シ

刑ノ免除及ヒ減輕

第三百二十八條乃至第四百三十三條ノ條例ハ本條ニ豫定シタル重罪ニ適用ス(刑、第二百二十八條)

隊兵ノ供給者

第四百四十五條 下ニ掲クル所ノ第五百十四條ノ諸條例ハ反逆人ト接戰スル公力者ノ供給者(即チ俗ニ謂ユル用達ナルモノ)ニ適用ス

從犯

第四百四十六條 前條々ニ記載シタル犯罪執行ノ前後ニ於テ其行為ノ目的及ヒ性質ヲ知リナカラ隨意ニ其犯者ノ屯集ノ爲メ若クハ潜伏ノ爲メノ家屋ヲ供給シタル者ハ該條々ニ豫定セル犯罪ノ從犯トシテ之ヲ罰ス可シ

監視

然レトモ第四百八十七條ニ指定シタル血族又ハ姻族ニ付テハ該刑ヲ免除ス(刑、第二百二十七條) 第四百四十七條 總テ本章ニ豫定セル犯罪ニ付キ禁錮ノ刑ヲ宣告スル場合ニ於テハ犯人該刑ヲ受クルノ外ニ一年以上三年以下ノ監視ニ附セラル、コアル可シ

要旨

第二百九十一號 國事犯ノ重罪及ヒ輕罪ハ本章ト次章トノ主タル目的ナル事附該犯罪ノ性質

第二百九十二號 草案ハ國事犯ノ事項ニ於テ死刑ヲ廢止スル事附其三箇ノ理由

第二百九十三號(第一) 其廢止ハ賢良ナル事

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

第二百九十四號(第二) 其廢止ハ公平ナル事

第二百九十五號(第三) 其廢止ハ條理ニ適スル事

第二百九十六號(第四) 此點ニ關スル歐洲ノ主タル制法ノ形狀

第三百三十四條

第二百九十七號 本條ハ天皇ノ威權ニ對スル犯罪ヲ豫定ス附總テ此犯罪ハ兵器ヲ携ヘタル謀反ヲ以テ其手段ト爲ス事

第二百九十八號乃至第三百一號 此犯罪ノ各自ノ性質

第三百二號 此等四箇ノ重罪ニ關スル注目

第三百三號 此等ノ重罪ノ刑ノ等級ハ其刑ノ變狀ニ因テ定ムルニ非ス犯人ノ加功ノ度ニ循フテ之レヲ定ム

第三百四號 其刑ノ最初ノ二箇ノ等級ニ附加シタル罰金

第三百五號 第三級ノ刑

第三百二十五條及ヒ第三百三十六條

第三百六號 中央府縣及ヒ町村ノ官廳ニ對スル犯罪附府縣ノ官廳ニ付テハ區別ヲ設ケタル事

第三百七號 此種々ノ場合ニ於テ附ス可キ刑ヲ規定スル事

第三百二十六條第二

第三百八號 宗教上ノ一揆附歐洲ニ於テハ之レカ爲メ生スル所ノ危險殆ント消滅シタル事

第三百九號 佛國ノ刑法ハ其條例ノ汎博ニ因テ之ヲ罰シタリ日本ニ於テハ佛國ニ於ケルヨリ其危險ヲ恐ル可キヲ少ナシト雖モ必ラス特別ノ一箇條ヲ設置ス可キ事

第三百三十七條

第三百十號 諸官廳又ハ其長官ノ自由ニ對シ暴行及ヒ脅迫ヲ用ヰタル企圖

第三百三十八條

第三百十一號 總テ此等ノ場合ニ於テ法律ハ既遂犯ヲ罰スルヲ得スシテ單ニ闕効犯若クハ犯罪着手ヲ罰スル而已附此理由ヨリ引致シタル國事犯ノ事項ニ於ケル死刑ニ付テ反

對ノ辨論

第三百十二號 法律上未遂犯ト同視シ又ハ執行ノ端緒ト同視シタル場合

第三百二十九條

第三百十三號 豫備ノ所爲ニ二箇ノ階級アル事附其場合ニ從ヒ刑一等又ハ二等ヲ減スル國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

事

五九二

第四百十條

第三百十四號 陰謀及ヒ陰謀ノ發言

第四百十一條

第三百十五號 完全ノ宥恕附區別アル二箇ノ場合

第四百十二條及ヒ第四百十三條

第三百十六號 煽動者及ヒ巨魁ノ刑ノ減輕

第三百十七號 承前

第四百十四條

第三百十八號 國事犯ノ罪ヲ行ハシカ爲メ常律上ノ罪ヲ犯ス事

第三百十九號 一般ノ原則

第三百二十號 最モ重劇ナル場合ニ適川ヲ爲ス事

第三百二十一號 謀反又ハ一揆ニ付テ罪ヲ犯シタルモ通常ノ刑ニ止マル事

第三百二十二號 刑ノ免除及ヒ減輕

第四百十五條

第三百二十三號 反逆人ト接戦スル公力者ノ供給者ノ重罪及ヒ輕罪

第四百十六條

第三百二十四號 犯者ニ屯集又ハ潜伏ノ場所ヲ供シタルコ因レル從犯ノ特別場合○其

潜伏場所ノミヲ供シタル場合ニ於テハ二三ノ血族又ハ姻族ノ爲メニ例外アル事

第四百十七條

第三百二十五號 禁錮ノ場合ニ於ケル監視

(第三百九十一號) 本章及ヒ次章ノ主タル目的ハ純粹ノ國事犯罪ヲ豫定シテ之レヲ罰スル

ニ在リ然レトモ國事犯罪ヲ行ハシカ爲メニ犯シタル通常ノ犯罪モ亦序テナカラ之レヲ罰

シタリ

今爰ニ國事犯ノ數多ノ特別場合ヲ調査スルニハ先ツ其總体ニ就テ論スルヲ宜シトス

夫レ政事ハ國ノ廣大無上ノ施治ニシテ政府ノ行爲タリ、國事犯ハ此施治ニ抗シ此政府ニ

反スル所ノ罪ナリ而シテ日本ニ於テハ此施治此政府ノ無上ノ長タル者ハ天皇ニシテ其施

治ノ機關ハ諸官廳、參議、卿、縣令、郡區長ナルカ故ニ國事犯ハ此人々此官廳ノ法律上ノ權利

ニ對シテ犯スモノナリトス

第三百三十四條ハ唯天皇ノ權威ニ對シタル罪ヲ豫定シ第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ハ中

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

五九三



中央官廳又ハ地方官廳ニ對シタル罪ヲ豫定シ第三百三十七條ハ直チニ官廳ニ對スル罪ニ非ス  
シテ官廳ノ議事及ヒ動作ノ自由ニ對スル罪ヲ豫定ス  
フチンクシヨシメズ

右ノ諸條ハ各犯人カ其犯罪ニ方リテ行ヒタル職務ヲ區別シテ其刑ニ多少ノ輕重ヲ設ケタ  
リ

次キニ法律ハ其犯罪ヲ遂クルニ至ラスシテ發生スル所ノ種々ノ變態ヲ豫想シテ之レヲ罰  
シ又國事犯ト同時ニ常事犯ヲ行ヒタル場合ヲ掲ケテ其刑ヲ規定セリ

〔第二百九十二號〕 此等ノ困難ナル諸件ヲ論究スルニ先ダテ余ハ此ニ掲ケタル刑罰ノ最  
モ重キモノハ無期ノ流刑ニシテ草案中何故ニ國事犯ノ事項ニ於テ死刑ヲ廢止シタルヤノ  
ヲ論セシ

〔附言〕 頒布法典ハ國事犯ノ事項ニ付キ死刑ヲ保持シタルハ人ノ知ル所ナリ○斯ク頒  
布法典ニハ死刑ヲ保持シタルモ吾人ハ以テ此重大ナル事項ニ付キ吾人ノ考案ヲ採ラサ  
ルノ理由ナリトハ信シ難シ吾人カ茲ニ呈出スル所ノ考案ハ他日當路者ノ更ラニ調査シ  
テ以テ決定セラレシコトヲ希望ス

吾人ハ最モ重劇ナル常事犯ニ付キ死刑ヲ用ユルノ正否ハ復タ論セス○蓋シ此事ニ關スル  
吾人ノ説明ハ既ニ已ニ揭示セシ所ナリ(第十七條註解第五十二號)○而シテ草案ニハ常事

犯ノ罪ニ死刑ヲ存シタレトモ舊法制ニ比スレハ其場合少クシテ唯甚タ重劇ナル若干ノ場  
合ニ限制セルノミ

今茲ニハ唯草案ノ起草者カ國事犯ノ事項ニ付キ死刑ヲ廢止スルノ理由ヲ陳述セン

斯ノ如ク國事犯ニ死刑ヲ廢止スルノ論ハ大膽ナル說ノ如シト雖モ賢良公平ニシテ且條理

ニ適スルモノナリ而シテ司法省委員ニ於テ之レヲ決定セシハ頗ル熟慮シ頗ル討論シタル

後チニアリタリ○扱テ此事項ヲ討論セシキハ西南ノ恐ル可キ謀反ノ最中ナリシカハ人ヲ

シテ國事犯ノ刑ヲ嚴ニセシメントスルノ勢アリキ實ニ此擾亂ハ久シク平定セサリシチ以

テ自カラ内亂ニ關スル向來ノ制法ヲ編纂スル者ヲシテ嚴格ヲ可ナリトセシメサルヲ得サ

リキ然レトモ其人々ノ心ニ眞理ト認メタル事ハ之レカ爲メ撓屈スヘキニ非サレハ我邦舊

來ノ慣習ニ出テ且西南事件ノ爲メニ助ケラレタル僻論ハ卒ニ死刑廢止ノ正論ニ勝ツヲ得

サリシナリ

余ハ已ニ國事犯ノ事項ニ付キ死刑ヲ廢止スルハ賢良公平ニシテ且條理ニ適スルモノナリ

ト述ヘタリ○然レトモ吾人若シ其死刑廢止ニシテ果シテ此三名稱ヲ具備シ其證明ヲ爲ス

キハ草案ノ正非モ亦隨テ證明セラル、ナリ

〔第二百九十三號〕第一 國事犯ノ事項ニ付キ死刑ヲ廢止スルハ賢良ニシテ即チ道理ト知覺ト

ニ恰合スルモノナリ

死刑ヲ以テ威嚇スルモ決シテ謀反人ヲ止ムルヲ得サルコトハ本邦及ヒ諸國ノ史上ニ歴々見ル所ナリ此徒ハ貪意ヲ以テ一身上ノ名譽ヲ得ント欲シ或ハ善意ヲ以テ國是ト信スル所ノ事ニ熱心シ以テ大事ヲ舉クルモノニシテ此二箇ノ情欲タル夫ノ死刑ヲ恐ル、心ノ爲メニ制セラル、モノニ非サルナリ○又其謀反ノ巨魁及ヒ始謀者ヲ死刑ニ處シタルノ後チ度々右同様ノ謀反ヲ起シタルコトモ亦本邦及ヒ他邦ノ歷史上ニ見ル所ナリ

且ツヤ此性質ノ犯罪タル一人一個ノ企テニアラスシテ一黨派ノ企圖スル所ニ係ルモノナリ抑モ黨派ハ多少ノ人數ヨリ成リ大小ノ首魁ト其徒黨トチ有セリ而シテ其徒黨ノ者モ首魁ノ亡ヒタル後ニ至リテハ代リテ首魁トナルコトアリ○故ニ首魁ヲ死ニ處スルモ以テ社會ノ危險ヲ消滅スルコトナク却テ之レカ爲メ憤怒ノ情及ヒ報仇ノ念ヲ醸成ス可シ其死セル者ハ常事犯ノ如ク人ニ蔑視セラル、ニ非スシテ却テ其黨ノ爲メニ名譽アルモノト看做サル可シ故ニ他人ヲ威嚇シ未來ノ安全ヲ計ルチ目的トスル所ノ死刑ハ全ク此目的ヲ達セサルノミナラス再ヒ同様ノ罪ヲ犯サシムルノ辭柄トナルノミ而シテ其謀反人ヲ罰スルヤ前者ヨリ後者ニ嚴ナルカ故ニ一揆ノ精神益々過激トナリ其暴發モ愈々猛烈トナル可シ  
由此觀之ハ國事犯ノ事項ニ付キ死刑ヲ廢止スルハ賢良ト謂ハサルヘカラス詳言スレハ道

理ト經驗トニ恰合スルノ處分ト謂ハサル可カラス

又死刑ニ處スルモ左程人ヲシテ威嚇セシメサル邦國アリトセハ是レ即チ日本國ナリ其辨明ニ至リテハ余輩之ヲ探求セス蓋シ其説明ニ付キ討論ス可キコトアル可シト雖モ其事實ニ付テ顯然タルモノナレハ唯茲ニ之レヲ記憶スル而已

〔第二百九十四號〕第一 死刑ヲ廢止スレハ國事犯ト常事犯トチ同視スルノ不公平ヲ免ガルルヲ以テ其處分ハ公平ナリトス

抑モ國事犯ハ概チ一個人ニ對シテ犯スモノタル夫ノ常事犯(法律上死刑ニ處スル犯罪)ニ比スレハ社會ノ危險ヲ現出スル甚タ大ナリ然レトモ其最モ重キ罪ナリトモ道德上ノ點ニ於テハ常事犯ノ如キモノニ非ス何トナレハ既ニ前ニモ記スルカ如ク此ノ如キ罪ヲ犯スハ眞實ニ社會ヲ改良シ國政ヲ變革スルノ目的ニ出テ、恕ス可ク又豪俠トモ云ツ可キモノ往々之レアレハナリ

斯ノ如ク道德上ノ點ニ於テ輕キモ社會損害ノ點ニ於テ重キニヨリ輕重相償フト論スル者アレトモ是レ決シテ公平ナル論理ト云フ可カラズ詳言スレハ道德上ノ點ニ於テ重キモノヲ以テ社會損害ノ少ナキモノト相償ハシメ且其社會ヲ損害スルコト少ナキニ因リ甚タ不道德ナル行爲ト雖モ其刑ヲ減輕スト云ハ、寧ロ反對ノ結果ヲ生スルニ至ル可シ○勿論輕罪

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

又ハ中等ノ罪ニ於テ法律ハ暗ニ此ノ如ク相償ハシメ社會ノ害ト道德ノ害トヲ相同クセサル罪ヲ罰スルニ同刑ヲ以テスルヲ得ヘシト雖モ其相償ヲノ極遂ニ死刑ニ至ルキハ其相殺ハ嫌惡ス可ク且理ニ當タラスト謂フ可シ

此國事犯ノ問題ニ於テ吾人尙ホ一步ヲ進ムレハ道德上ノ點ニ於テ國事犯ノ大ニ常事犯ト異ナルヲ認知ス可シ否認知セサラントスルモ能ハサルナリ

余今佛國ノ例ヲ採テ以テ其差異アルヲ證明セン

佛國ニ於テハ勿論其他何レノ國ニ於テモ謀殺、毒殺、放火ハ最モ惡ムヘキ罪ナリトシテ死刑ヲ以テ之ヲ罰シタルハ古今一轍ノ如シ但シ往々陪審ノ巧ミニ此刑ヲ免カレシメ又ハ執行權ノ首長ニ於テ之レヲ減輕シタル事アルハ別段ナリ(第十七條註解第五十二號參觀而シテ此等ノ國ニ於テ此政府ヲ顛覆シテ彼ノ政府ヲ設立セシメ履々ナリシニ各政府ハ其永續セル間常ニ死刑ヲ以テ謀反者ヲ畏嚇シテ其威權ヲ維持セント思ヒタリシカ皆ナ漸次ニ滅亡セサルナシ而シテ正道ハ威力ト共ニ變スルニ似タリ是レ正理ノ原則ニ非サルヲ論チ俟タサルナリ

初メ佛國ノ君主獨裁時代ニ在テ共和政治ヲ設立センカ爲メニ着手シタル犯罪ヲ死刑ニ處セシメハ須ラク痛歎スヘキナリ何トナレハ他日此共和政体ハ佛國ヲ治ムルニ至リタレハナリ

此徒ハ正當ニ設立セル君主獨裁政ノ時ニ方リテ自カラ之レヨリ善良ナリト信セシ政体ヲ立テンカ爲メニ暴行ヲ用ヰテ政府ヲ顛覆セントセシ者ナレハ其罪ス可キハ論チ俟タサルナリ然レトモ其實此徒ノ過失ハ其目的及ヒ其原因ニ非スシテ其用ヒタル手段即チ其暴行ニ在リトス何トナレハ後ヲ遂ニ其目的ハ正當ニシテ且國民ノ望ミニ適ヒシ事ノ顯ハレダレハナリ

斯ク國ノ政体上ニ於テ變改アルヲ觀レハ國事犯ニ關シテハ一定不易ノ眞理アラサル明カナリ故ニ此事項ヲ統理スル法律ノ唯一ノ原則ハ他ナシ現在正當ニ設立セル政府ヲハ宜シク尊重ス可ク且何人ト雖モ猥リニ其官廳ヲ侵害スルノ權利ナシ是故ニ正當ノ政府ハ自己ノ特權ヲ妨害スル者ヲ退クルヲ得可ク又之レヲ退クルヲ要スルナリ即チ政府ハ自己ノ爲メニ正當ノ權利ト正當ノ力(官兵等ヲ云フ)トヲ有シテ其正當ノ權利ヲ保護センカ爲メニ其正當ノ力ヲ用ユルヲ得可ク否之ヲ用ヒサルヲ得サルナリ然レトモ政府ハ其敵視スル者ヲ以テ人ヲ殺シタル者ノ如ク取扱フ可カラス是レ交戰國ノ間ニ於テ勝者ハ怨恨侮慢ヲ以テ敗者ヲ取扱フ可カラサルト異ナル無キナリ

此比較ヲ追論センニ外國トノ交戰後ニ至リ勝者ハ敗者ノ再舉襲撃ヲ妨止スルノ處置ヲ爲

シ以テ敗者ニ金錢上ノ責任ヲ負ハシメ敗者ノ戰艦兵器ヲ取上ケ又時トシテハ其州郡ヲ取ルト雖モ其國ヲ滅スルニ非サルナリ又内亂ノ後ニ至リ勝者ハ必ラス其敵ヲシテ再ヒ己レヲ侵害スルヲ得サラシムルコト力ヲ盡スヘキナリ而シテ其手段ハ乃チ刑罰ニ處スルコアリトス然レトモ之レガ爲メ死刑ノ必要タルニ非ス假令ヒ必要タルモ未タ之レヲ以テ死刑ニ處スルコトヲ證明スルニ足レリトセス况ンヤ其既ニ必要タラサル以上ハ尙ホ更テ死刑ニ處スルヲ以テ正當ノ事ト爲サス否決シテ正當ノ事ニ非サルナリ

〔第二百九十五號第二〕 死刑ヲ廢止スル事ハ法律上ノ條理ニ於テ要スル所ナリ

〔第二百九十四條〕 記載スル刑即チ最モ重キ國事犯罪ノ諸刑ハ「犯罪執行ノ端緒アレハ」之レヲ科スルコトハ第百三十八條ニ於テ之レヲ見ル可シ○凡ソ國事犯罪ハ之レヲ遂ケサル時ノ外罰スルヲ得サルモノニシテ是レ實ニ國事犯罪固有ノ性質中ノ一ナリトス蓋シ若シ之レヲ遂クレハ則チ謀反ハ勝利ヲ得タルモノニシテ勝者ハ其既ニ紊亂セシ所ノ法律ニ服從セサル可ク亦既ニ其法律ヲ以テ勝者ニ適施スルヲ得ル裁判官決シテアラサル可シ  
由是觀之國事犯罪ノ罰スルヲ得可キモノハ着手シタル犯罪又ハ闕効犯ニ止マルモノナリ」蓋シ未遂犯罪ハ本刑ノ一等或ハ二等ヲ減シ又ハ二等或ハ三等ヲ減スルニ非サレハ罰スルヲ得サル法律ニシテ若シ夫ノ着手ニ止マリ又ハ効力ヲ闕キタル國事犯罪ヲ罰スルニ死

刑ヲ以テスルハ不條理ナル法律ト謂ツ可シ

此考案ハ國事犯罪ノ事項ニ死刑ヲ非ナリトスル論者ノ恐ラクハ未タ之レヲ開陳セサル所ニシテ人ノ精神ニ殘レル最終ノ惑ヲ解クニ適セリ○此考案ハ日本ニ於テ充分其力アリトス何トナレハ草案ニ於テハ既遂犯罪ト着手ニ止マリ又ハ効力ヲ闕キタル犯罪トノ間ニ大區別ヲ立ツレハナリ

〔第二百九十六號〕 此論ヲ終ラントスルニ臨ンテ一事ノ附記ス可キアリ何ソヤ曰ク外邦ノ過半ハ他ノ諸件ト同シク國事犯罪ニ關シテモ佛國ノ例ニ從フテ其死刑ヲ廢シタルコトナリ然ルニ此外邦ノ政体ハ多クハ君主獨裁或ハ王國帝國ナリトス

佛國ニ於テ此死刑ヲ廢止シタルハ第二共和政治ノ時(千八百四十八年)ニ係レリ第二ノ帝政ニ至リテモ此廢刑ノ法則ヲ遵守シタリ而シテ第三ノ共和政治ニ至リテハ國事犯罪上ノ死刑ヲ復スルモノタルニ非サルコト確實ニシテ寧ロ常事犯罪ニ付テモ死刑ヲ廢スルニ至ラントスヘシ何トナレハ此主義ノ意見ハ佛國ニ於テ甚タ盛ナルコト恰モ伊太利ニ於テ盛ナルカ如クナレハナリ(第十七條註解第五十二號參觀)

第百二十四條

〔第二百九十七號〕 今ヤ最モ重劇ナル國事犯罪ヲ豫定スル第百二十四條即チ本條ヲ詳細ニ

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

解説ス可シ而シテ此犯罪ハ天皇ノ主治ノ諸權利ニ對シテ企テタルモノナリ  
法律ハ四箇ノ國事犯罪ヲ列記セリ但シ法律ニ記載セル刑ハ皆ナ同一タリト雖モ其罪ノ輕  
重全ク同シキニ非ス然レトモ其之レヲ同シク處シタルハ是レ其刑ノ輕重ヲ立テントスレ  
ハ最終ノ場合ニ至リテ輕キニ過クルニ至ルヲ以テナリ

〔第二百九十八號〕 此第一ノ犯罪ハ皇統ヲ顛覆セントスルモノナリ

前既ニ述ヘタルカ如ク日本ノ皇統ハ連綿二千五百有餘年ニ至レルモノニシテ今世ニ於ケ  
ルノミナラス又歷史上ニ於テ全世界中ノ最モ舊キモノタルヤ必セリ

又謀反ヲ企圖シテ將軍ノ權威ヲ回復セントスル犯罪ハ此第一ノ場合ニ入ラサル可シ何ト  
ナレハ往昔諸將軍ノ時代ニ於テ既ニ例アリシ如ク皇統ヲハ必ラス尊敬ス可ケレハナリ而  
シテ此犯罪ハ後ニ説述ス可キ第四ノ場合ニ屬スルモノナリ

故ニ此第一ノ犯罪ハ必ラス本朝ヲ顛覆シテ新朝ヲ以テ之レニ代ントスルモノタルカ(是  
レ必ラス有ルヘカラサル事ナリ)或ハ君主獨裁政体ヲ廢止シテ共和政治ヲ以テ之レニ代  
ヘントスルモノタリト想像スルヲ要ス○(此危險モ亦同シク有ラサルヘシト雖モ)我法律  
上ニ於テハ若シ此犯罪アレハ之レヲ豫防シ之レヲ責罰スルノ處置ヲ設ケスンハアルヘカ  
ラサルナリ

〔附言〕 日本又ハ其他諸國ノ讀者諸君ヨ吾人カ右ノ如ク揭示セシヲ以テ吾人ハ佛國人  
民ノ服従スル共和政体ヲ希望セサル者ナリトノ疑團ヲ懷カレサランコトヲ熱望ス蓋シ佛  
國、亞米利加、瑞西ノ三共和國ノ立法者等ニ於テモ敢テ立君獨裁國ノ政体ヲ尊重ス可カ  
ラスト爲スニアラス則チ日本國ニ關シテハ殊更亦吾人ト同一ノ説ヲ維持シタル可シト  
信用スル所ナリ

2

〔第二百九十九號〕 此第二ノ犯罪ハ皇統ヲハ尊敬ス可シト雖モ皇嗣ノ順序ヲ紊亂シテ以テ

皇統ヲ衰ヘシメントスルモノタルヘシ○禪讓ノ正シキ事ハ實ニ日本國皇統連綿タル原由  
中ノ一ナリトス

歐羅巴諸邦ニ於テ立君獨裁政ノ亡ルハ多ク先ツ禪位ノ紊亂ニ依テ衰ヘタリシコト史乘家ノ  
普ク知ル所ナリ

正當即位ノ原則ヲ尊重セサルニ至リシトハ直チニ帝位ヲ覬覦スルノ非望百出シ皇族ハ都  
テ篡位ヲ希望シ内亂其國ヲ壞亂シテ皇統全ク泯滅スルコトナキヲ得ス何トナレハ一名將ノ  
其軍隊ニ黨派ヲ成シテ遂ニ自己ヲ以テ天皇ト稱ヘシムルニ至リシ如キコト之レアレハナリ  
併シ是レ主トシテ羅馬帝國ノ沿革ニシテ亦其零落泯滅ノ沿革ナリトス

3

〔第三百號〕 第二百二十四條ニ記載セル第二ノ犯罪ハ日本帝國ノ邦土ノ一部分ヲ竊ニ占領ス

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

ルモノニシテ其實此部分ニ就テ皇統ヲ顛覆スルモノト云フ可シ何トナレハ此部分ヲ以テ他ノ管轄ニ屬スルモノナレハナリ○例ハ琉球島ヲ以テ日本ノ他邦ト全ク相同シキ政治上ノ制度ト爲シタル後ニ至リ更ラニ之レヲ副王ノ管轄ニ復センカ爲メ該島ニ於テ叛逆起リシ時ハ此場合ニ至ルヘシ

〔第二百一號〕 此第四ノ犯罪ハ稍ヤ輕キモノニシテ皇統皇嗣ノ順序及ヒ天皇ノ管轄シ玉フ邦土ヲハ必ラス尊敬シテ非望ヲ抱クコトナカルヘシト雖モ政府ノ首長トシテ天皇ノ有シ玉フ威權ヲ滅殺セントスルニ至ル可シ

今爰ニ此例トシテ提出セントスル所ノモノハ草案編纂ノ時ニ於テ既ニ吾人ノ論述セシモノニシテ當時ニ在リテハ一層世人ヲ感動セシメ而シテ現今ニ至リテモ實際法律上ノ効力ヲ失ハサルナリ

既ニ數年來日本國ニ於テ民選議院ノ制ヲ移入セントスル說ノ顯然言論ニ發シタルコト人ノ知ル所ナリ○且ツ日本帝國政府自カラ民人ノ幾何カ國事ノ管理ニ與カルコトヲ拒マサルヲ豫見セシメタリ蓋シ政府ハ既ニ府縣町村會ノ設立ヲ允許シタレハナリ

然リト雖モ其職掌ノ權限ヲ擴充シテ議定局即チ眞ニ謂ユル民選議院ヲ設立スルコトハ時節ト機會トノ問題ニシテ之レヲ裁決スルハ特リ政府ニ在リテ之レヲ監定スルハ獨リ天皇ニ

### 屬ス可シ

日本ノ憲法(明文ナケレトモ明カナル)ニ依レハ天皇ハ政略施治ノ事ニ於テ主治ノ權ヲ有スルモノニシテ唯法令ニ因テ其權ニ制限ヲ設ケタル而已而シテ此法令モ亦天皇ノ特リ製スル所ナリ故ニ最モ善良ナル改革タリトモ天皇ノ意ニ出ルニ非サレハ之レヲ爲スヲ得ヘカラスシテ天皇ニ追テ改革ヲ爲サシメントスルノ舉ハ皆其主治ノ權ヲ害スルモノタリ抑モ天皇ハ屢々國民ノ幸福ヲ計リ輿論ニ從フノ意アルコト示シ玉フモノナリ故ニ明治十四年十月十二日ノ法令ヲ以テ天皇ハ國民ニ向テ明治二十二年(西曆千八百九十年)ニ至ラハ民選議院即チ國會ヲ開設ス可シト宣ヘ玉ヘリ是レ蓋シ二回ノ(「シテ、ガエ」即チ將來ノ日附ノ定メナキモノ)救諭ヲ實行アラセラレンカ爲ノニ確定ノ時期ヲ定メ玉ヒシモノトス

以上揭示セル所ニ於テハ國事犯ノ事項ニ付キ善モナク惡モナク唯全ク終始改良セントノ探究アリトスル吾人ノ維持說ノ論據トナル可キ新理由ナラスヤ又國事犯ノ事項ニ於テ時期ハ人民ノ社會ニ生活スル條件ヲ變スルト共ニ其權利ヲモ變スルコトアリトノ新證據ナラヌヤ○而シテ其常ニ罪惡アリテ又常ニ罰セサルヲ得サルモノハ最モ正當ニシテ又最モ希望スヘキ改革ナリトモ之レヲ行ハンカ爲メノ暴行ニアリ

扱テ此國會開設ニ係ル法令ナカリシ時ニ於テ政府ヲシテ強テ國會開設ヲ爲サシメントス

ル謀反アリシカ又其法令出テヨリ(即チ現今チ云フ)其定期ヲ速カニ爲サンカ爲メノ謀反アリト想像センニ(是レ蓋シ恐ルヘキノコニ非ス)是レ「國政ニ於テ天皇ノ權利及ヒ特權ヲ滅却セント欲スルモノニシテ即チ第四種ニ入ル可キ犯罪ナリトス

近時西南ノ亂ハ皆此四種ニ入ル可キモノトス何トナレハ其亂ヤ目的ヲ明言セスト雖モ皇統ヲ顛覆セントスルモノニ非サルカ如シ又皇國ノ一部ヲ侵奪スルヲ欲スルモノニ非サルカ如シ唯暴行ヲ以テ天皇ノ權利ヲ滅却スヘキ改革ヲ爲スヲ欲スルモノ、如キヲ以テナリ或ハ云ハン其目的ハ更ニ之ヨリ輕キモノニシテ諸卿若クハ其數名ヲ免黜スルニ在リシナラント

然リト雖モ綿密ニ言ヘハ天皇ニ迫テ其宰相ノ一個若クハ數個ヲ免黜セシメントスルノ謀反ハ即チ天皇ノ權利特權ヲ滅却セントスルモノナリ何トナレハ天皇ハ獨リ其宰相ヲ擧用シ其適當ト認ムル以上ハ常ニ之ヲ退ケサルノ權利ヲ有スレハナリ然レモ若シ果シテ諸卿ヲ免黜センカ爲メノ謀反ナルキハ是レ別ニ次條ノ豫定スル所ニシテ其刑ハ一等ヲ輕クセ

西南ノ亂ノ如ク謀反人其目的ヲ明言セサル時ハ法律ノ實行ニ於テ大ナル困難ヲ現出ス可シ且ツ謀反人ハ其目的ヲ隱匿シ又ハ詐テ小ナル目的ヲ示スコヲ務ムルヲキテ保セス故ニ

之レヲ判決スルハ其明言セル目的ニ基ツクヘカラス唯其眞ノ意思ニ基ツクヘシ蓋シ争鬪ノ終リシ後ニ至リテ其意思ヲ知ルハ常ニ爲シ得ヘキヲ以テナリ

將軍制度又ハ總テ其他ノ封建制度ヲ再興セントスル者アラハ亦第四種ニ入ルヘキヤ勿論ナリ

〔第二百二號〕 本條ニ豫定セル四種ノ國事犯ニ付キ緊要ノ注目ヲ要スルコトアリ何ソヤ國事犯ノ者若シ天皇ノ身体ニ對シテ或ル罪ヲ企テタルキハ其行爲タル全ク性質ヲ變シテ第一章ニ入ルヘキコト是レナリ

例ヘハ國事犯ヲ遂ケンカ爲メニ天皇ノ生命若クハ自由ヲ危クスル時ハ其犯罪ハ純乎タル國事犯ト爲スヲ得ス故ニ第一章ノ刑ノ第百三十四條ノ刑ヨリ重キモノナルキハ總テ該章ノ刑ヲ科ス此場合ニ於テノ手段ハ其目的ヨリ罪ノ重キモノナレハナリ

之レニ反シテ犯罪ノ目的タル充分國事犯ニ入ル可キモノニシテ内亂若クハ一揆ヲ其手段トセル時ハ假令ヒ其犯人謀故殺ノ如キ罪ヲ犯ストモ尙ホ國事犯ヲ以テ論ス可シ實ニ暴行手段ハ國事犯ト分離スルヲ得ス即チ之レヲ加重スルノ理由ニ非ラスシテ之レヲ構成スルノ理由ナレハナリ

國事犯ニ用ケタル手段ノ刑罰ヲ變スルハ其手段惡ムヘクシテ且ツ國事犯ノ目的ト分離ス

國ノ内部ノ安寧ニ淵スル重罪及ヒ輕罪

ルヲ得ルモノ詳言スレハ國事犯ヲ遂クルニ必要ナラサルヲ要ス可シ後條俘虜ノ謀故殺放  
火等(第四百四十四條參觀)ヲ常事犯トシテ罰スルハ即チ是ナリ

〔第二百三號〕 最モ重キ四種ノ國事犯ヲ掲ケタル後法律ハ其之レニ附ス可キ刑ヲ示シタリ  
而シテ其刑ハ犯人加功ノ度ニ循テ異ナレリ

法律ハ茲ニ甚ダシク細目ニ涉ルヲ得サルカ故ニ唯其犯人ヲ三箇ノ等級ニ分テルノミ

第一 謀反ヲ教唆醸成シタル者即チ煽動者ナリ勿論此徒ハ謀反人中最モ罪ミス可キ者ニ  
シテ主犯即チ無形上ノ本人タリ(第一百八條第二百三十號及ヒ第一百八條註解第二百三  
十五號參觀)○又法律ハ一揆ノ首將トナリ指揮ヲ爲セル者ヲモ之レト同様ニ處シタリ蓋  
シ其指揮ヲ爲シタル者ハ道德上ノ害惡少ナシトスルモ社會ノ損害ヲ醸シタルヲ大ナレハ  
ナリ

茲ニ其首將トナリテ指揮ヲ爲セル者數名ノ場合アルヲ注視セシムルハアル可ラス○此徒  
ハ謀反ノ始メニ先ツ其方向ヲ定メンカ爲メ又ハ其執行ノ爲メニ集會ヲ爲スヘクシテ其一  
且總休ノ方向ヲ定メタルキハ一人ニシテ他ノ指揮官ノ命令ヲ受ケサルモ自カラ一方ノ首  
將トナリテ働クヲ得可シ故ニ此ノ如キハ謀反ノ大ナル者ニシテ殊更數州ヲ占領セントス  
ル時ニ之レアル可シ又謀反ニ關スル他ノ所爲ニ全ク獨立シタル所置ナシテ異別ノ土地

ヲ襲撃シ若クハ既ニ占領セシ箇所ヲ守護シ或ハ豫定ノ事務ヲ醸成スルカ如キ他ノ者等ト  
全ク異ナリタル職務ヲ帶ヒタル者ハ皆巨魁トナリテ指揮ヲ爲ス者ト見做スヲ得可シ  
法律ハ巨魁トナリテ指揮ヲ爲シタル場合ヲ限定セサルカ故ニ裁判官ハ此事實ニ立入り以  
テ適宜ニ之レカ査定ヲ爲ス可シ

總テ此巨魁即チ首將トシテ指揮ヲ爲ス者ニハ最モ重キ刑即チ無期流刑ヲ適用ス可シ無期  
流刑ノ性質ハ既ニ第一篇ニ説明セリ

第二 下等ノ指揮ヲ爲シ或ハ威權アル職務ヲ爲シタル者

此等級内ニ入ル可キ犯人ハ第一級ノ内ニ入ル可キ者ヨリモ一層多カルヘシ○而シテ其刑  
ハ前刑ヨリ一等ヲ輕クス何トナレハ此等級内ニ入ルヘキ者ハ發議者ニ非サルヲ以テ道德  
ノ害少ナケレハナリ又社會ノ害モ前級ニ比スレハ僅少ナリ何トナレハ其共同行爲ハ前級  
ニ於ケル如キ直接ノ影響ヲ謀反ニ附與セサレハナリ

〔第二百四號〕 第一第二ノ兩等級ノ犯人ニハ罰金ヲモ科スルナリ

法律上重罪ノ刑ニ罰金ヲ附加スルヲ希ナリト雖モ本條ニハ此事アリ何トナレハ謀反ノ巨  
魁ハ其以前ノ地位又ハ其資産ノ爲メニ威勢アルモノナルヘク且ツ此徒ハ其財ヲ散ラシテ  
大擧ノ手段ニ用ユルヲアルヘキカ故ニ其財産ニ就テ之レヲ罰スルハ理ノ當然ニシテ且有

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪



益ナル可キヲ以テナリ○第二級ノ犯人ニ付テハ主刑ヲ減スルヲ一等ニ過キスト雖モ附加刑即チ罰金ニ至リテハ第一級ノ場合ヨリモ四分ノ三ヲ減シタルニ因リ乃チ三等ノ減輕アリト云フ可シ○蓋シ此理由ハ第二級ノ犯人ハ第一級ノ犯人程ノ資産ヲ有セサルモノト想像スルニ因レリ

〔第二百五號〕 第三級ノ犯人ニ「一揆ノ兵卒」ト名ツク可キ者ノ外ニ含蓄スルモノナシ何トナレハ此徒ハ何等ノ威權ヲモ振ハス唯國事犯ノ巨魁ノ命ニ從ヒタルノミナレハナリ  
勿論此徒ハ人ニ強制セラレテ犯罪ニ與ミシタルニ非ス唯自カラ好テ加袒シタル者ヲ云フナリ○故ニ若シ此徒ニシテ脅迫強令ノ爲メニ餘義ナク犯罪ニ與ミシタリト言フキハ宜シク之レヲ證明セサルヲ得ズ蓋シ法官ノ推測ハ其行爲ヲ自由好意ニ出テタルモノト爲スニ在レハナリ○而シテ此徒ヲ罰スルニ方リテ教唆者及ヒ巨魁ノ刑ヨリモ輕クシタルハ甚タ當テ得タルモノナリ何トナレハ教唆者及ヒ巨魁ニ比スレハ道德上ノ罪輕ク且甚シキ社會ノ危險ヲ醸成シタルハ此徒ノ罪ニ非サレハナリ○故ニ其罪ハ更テニ一等ヲ輕クシ十六年以上二十年以下ノ重禁獄ニ處シ罰金ヲ科スルヲナシ  
以上掲ケタル所ハ國事犯中ノ最モ重キ刑罰ナリ  
第三百二十八條ニ於テハ國事犯罪ノ唯着手ニ止マリ又ハ其効力ヲ闕キタルモノニ係ルヲチ

明記ス而シテ前ニモ記シタルカ如ク國事犯罪ノ罰ス可キハ實ニ唯此場合アル而已蓋シ若シ然ラスシテ既遂犯ナルキハ刑罰權ハ其地位ヲ代ヘテ犯人モ刑罰モナカル可ク唯主謀者ノ報償セラル可キ改革アルヘシ

第三百三十五條及ヒ第三百三十六條

〔第二百六號〕 純粹ノ國事犯罪ヲ重劇ナラシムルモノハ其用井タル手段ヨリモ寧ロ其目的ニ在ルヲ既ニ吾人ノ説明セシ所ナリ

茲ニ犯人ノ使用スル手段ハ第三百二十四條ニ豫定セル場合ノ手段ト同様ニシテ殆ント常ニ故殺ヲ惹起ス可キ内亂、謀反ナリトス

然レモ其目的ハ道德上ヨリ論スルモ又社會公益上ヨリ論スルモ前條ニ比スレハ輕キモノナリ是レ其目的ハ既ニ帝權ヲ妨害セントスルニ非ス帝權ノ次ニ位スル中央官廳ノ一ヲ妨害セントスルモノダレハナリ

前ニ犯罪ノ手段ヨリモ其目的ヲ主トス可シト掲ケタリトモ其手段ノ如何ナルヤハ措テ問ハスト云フノ義ニ非ス一揆ノ手段トシテハ其必ラス兵器ヲ携フルヲ要ス故ニ若シ唯一揆ノ人數ノ集合シタルノミニシテ兵器ヲ携ヘス是レヲ使用セサルカ又一揆ヲ爲サントノ文書言論ヲ發シタル動作而已ナルキハ第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ヲ適用ス可キニ非

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

又其目的ハ前條ニ豫定スル所ノ一ニアリトモ尙該條ヲ適用スルニ非スシテ第六十七條以下又ハ印刷演說ニ關スル特別法ヲ以テ其行爲ヲ罰スル而已

本法草案ハ中央官廳ヲ以テ府縣ノ官廳(府縣會、府知事、縣令、裁判所指令官)ト同等ニ處シタルハ恐クハ少シク嚴肅ニ過ク可シ何トナレハ府縣ノ官廳ヲ妨害セントシタルキノ社會ノ害ハ中央官廳ヲ害セントシタルキヨリ輕少ナルハ勿論ナリ故ニ吾人ハ第三百二十五條ノ末項ト第三百三十六條トノ目的タル一箇ノ區別ヲ加ヘタリ最モ犯人協議シテ數多ノ府縣ヲ妨害シタルキハ社會ノ損害ハ中央官廳ニ對スルキニ殆ント等シキモ罪ノ輕重ノ點ニ於テハ幾分カ劣ル所アル可キナリ

〔附言〕 草案ノ正條ニハ別記方法ヲ以テ中央官廳トシテハ官院省使、地方官廳トシテハ府縣ナリト揭示セリ○吾人ハ今之レヲ廢シタリ何トナレハ官廳及ヒ總テ公務ヲ司トル役所ノ名稱往々變スルヲアレハナリ加之往々新タナル役所ヲ創設スルヲアリテ將來ノ憲法モ亦更ニ創設スル所アルヘケレハナリ是ヲ以テ刑法ノ正條中ニハ官院省使府縣等ノ語ヲ記スルハ不都合アル可キナリ

草案ニハ郡區ノ官廳ニ對スル犯罪ノヲ記載スルヲ怠レリ是レ一箇ノ闕點ナレハ吾人之レヲ補充スルニ躊躇セス前ノ諸規則ニ指定スル所ニ從ヒ更ニ刑一等等ヲ減輕シタルナリ

府縣ノ官廳ト町村ノ官廳トノ間ニ存スル所ノ官廳ヲ揭示スルハ或ハ至當ナリシヤモ量ラレスト雖モ此場合ニ於テハ唯撰擧會ヲ用ヒサル夫ノ「スープレフェー」ニ郡區長ノ存在スルニ過キサルノミナラス此等ノ者ニ對スル謀反ハ決シテ發生スルヲナカルヘシ由シヤ其謀反アリト爲シテ其刑ヲ定ムルニ付キ法文ヲ探求セハ府縣廳ノ場合ト同視ス可カラスシテ町村ノ官廳ニ付テ定メタル條例ヲ適用ス可キナリ

第三百二十五條ニ豫定セル場合ハ頗ル衆多ナルヲ以テ國安ヲ妨害スヘキ諸種ノ謀反着手ニ對シテ充分ニ國家ヲ保護スルニ足ルヘシ即チ左ノ如シ

- 第一 中央若クハ地方官廳ヲ傾覆スル事
- 第二 該官廳ヲ變更スル事詳言スレハ其組織若クハ其職掌ヲ變更スル事
- 第三 其長官ヲ變更即チ黜除スル事是レ大臣、參議、諸官廳ノ卿、長官、府知事、縣令、軍事ニ關スル指令官ヲ保護スルモノナリ
- 第四 諸制度若クハ諸官廳ノ組織職掌ヲ變更スルノ意ナクシテ政策上又ハ施政上ノ處分ヲ廢シ若クハ中止セシムル事

〔第三百七號〕 第三百二十四條ニ於テ犯人加功ノ度ニ從ヒ爲シタル區別ハ此ニモ之レヲ爲ス可キナリ

最初草案ハ刑ノ規定ヲ簡單ナラシメンカ爲メニ第三百二十五條ノ場合ニ於テハ第三百二十四條ノ刑ニ一等ヲ減ス可シト述フルニ止マリシカモ之レカ爲メニハ難事ヲ創出スルニ至レリ其故何トナルニ第三百三十四條第二項ニ掲ケタル刑ヲ以テ煽動者及ヒ巨魁ニ適用シ第三項ニ掲ケタル刑ヲ副魁ニ適用シ而シテ其他ノ干與者ハ輕禁獄ニ處ス可キモノナルヤ又ハ之レニ反シテ刑ヲ漸次ニ減輕スル一般ノ規則ニ從フ可キモノナルヤ人之レヲ確知スルヲ得サリキ而シテ其一般ノ規則ニ從フキハ附加刑タル罰金ヲ消滅セシムルニ至ル可シ何トナレハ刑ノ通常ノ程度ニ於テ罰金ハ流刑禁獄ノ附加刑ニ非サレハナリ(第八十七條參觀)

是ヲ以テ吾人ハ犯罪加功ノ各等級ニ付キ一箇ノ確定シタル刑ヲ設置セサル可カラスト信シ乃チ有期ノ流刑ニ罰金ヲ加ヘ又重禁獄ニモ罰金ヲ附スルニ至リシナリ數多ノ府縣ノ官廳ニ對スル犯罪ニ付テ新々ニ提出シタル區別ハ既ニ充分ニ辨明シタリ即チ同時ニ二箇若クハ數多ノ府縣ノ官廳ニ對シ且犯人協議ノ後ニ罪ヲ犯スルニ非サレハ中央官廳ニ對スル犯罪ノキト同視スル程ノ社會ノ損害ナキ事是レナリ一府縣廳ニ關スル場合ニ至リテハ第三百三十四條ノ場合ヨリモ刑二等ヲ輕クセリ而シテ新法文ニハ此場合ニ於テモ亦漸次ノ減輕ノ思考ヲ遠ケテ加功ノ各等ニ付キ一々刑ヲ定メタリ

其外草案ノ闕點ヲ補フタル事アリ即チ左ノ如シ草案ハ郡區ノ官廳ニ對スル犯罪ヲ豫定セサリシナリ假令ヒ兵器ヲ携フルモ此類ノ謀反ノ罪ハ充分ナル政治上ノ利益ヲ闕クニ因リ前々記載スル所ノ犯罪程ニ恐ル、ニ及ハスト雖モ其之レヲ法律ニ掲ケサルハ蓋シ遺憾トスル所ノ闕點ナリ○而シテ犯罪ノ區別ヲ餘リ繁雜ナラシメサルカ爲メ吾人ハ此類ノ犯罪ヲ以テ彼ノ一府縣ノ官廳ニ對スル犯罪ト同視セリ

然レトモ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ罰金ヲ附加セズ何トナレハ最後ノ刑ハ多分之ヲ辨濟シ得サル者ニ宣告スルモノナレハ乃チ嚴正ニ其目的ヲ達シ得サレハナリ

第三百二十六條第二

(第三百八號) 草案ニハ此條例ヲ記載セサリシト雖モ吾人之レヲ加フルヲ必要ト信ス

概チ歐洲諸國ニ於テ内亂ノ原由ヲ探究スレハ一箇ノ宗教上ノ講說ヲ以テ他ノ宗教上ノ講說ヨリモ有効ナラシメントスルコアル事歴史上其例多シトスル所ナリ又之レニ混スルニ政治上ノ欲情アルヲ往々ナレトモ此欲情ヲ支配スルモノハ亦此宗教上ノ思想ニシテ假令ヒ此思想ハ政治上ノ舉動ヲ隱蔽セントシテ發生スルモノナリトモ殊更ニ此思想ヲ先キトスルモノナリ

現今ニ至リテ宗教上ノ爭鬪ハ殆ント其跡ヲ歐洲ニ絶ツニ至レリ其故何トナルニ宗派相互

ノ忍容ヲ始メタル以來之レカ爲メ諸宗又ハ一宗ノ各宗徒ノ熟練者ハ各相頓着セサルニ至  
リタレハナリ

回々教徒ノ基督教徒ニ對スルカ又ハ基督教徒中ニテ猶太人ニ對スルノ外毫モ宗教ニ感溺  
セル者アルヲ見ス

基督教徒ト猶太人トニ於ケル宗教上ノ不忍容ハ最モ重劇ナルモノニシテ是レ蓋シ眞ニ人  
民相敵視スルニ因レリ抑モ猶太人ハ固有ノ生國ヲ有セス其己レヲ制シ其己レニ向ツテ往  
々苛酷ノ處置ヲ下ス者ト同國同村ノ人ナレハナリ而シテ其國ノ官廳ハ常ニ有罪人ヲ罰ス  
ルカ爲メニ充分ナル制法ヲ有セス且其豫定シ得サリシ所ノ暴行ヲ警戒スル程ノ權威ヲ往  
々有セサルモノナリ

〔附言〕 佛國ニ於テハ革命以來總テ猶太人ハ諸般公私ノ自由ヲ有シ其同國人ノ爲メニ  
憂苦罵詈暴行ヲ受ケサルニ至レリ魯西亞洪萬利、ルーマニー國ニ於テハ此ノ如キコ非  
ス此等ノ邦國ニ於テハ舊セミー國ノ風習ヲ充分帶ヒタレハナリ

〔第二百九號〕 佛國ニ於テ宗教ノ原由ニ就テ謀反一揆ノ與ルキハ同國ノ刑法ハ之レヲ罰ス  
ルノ手段ヲ失ハス乃チ其之ヲ罰スルニ方リテハ最モ重劇ナル國事犯ニ關スルキト同等ノ  
嚴罰ニ處シタリ即チ同刑典第九十六條ハ其豫定スル所ノ廣ロキニ因リ茲ニ論スル場合ニ

モ適用ス可シ但シ該兩條ニハ尙ホ死刑ヲ掲ケタリト雖モ該刑ハ城塞内ノ無期ノ流刑ニ因  
テ代リタルモノナリ(千八百四十八年ノ憲法第五條)

故ニ我草案ハ佛律ニ倣ヒテ補充セスンハアルヘカラス然レトモ佛律ノ如クニハ嚴肅ノ處  
置ヲ用ヒサル可シ

勿論日本ニ於テハ佛蘭西ニ於ケルカ如ク諸宗派ヲ允許セシ以來俄カニ宗教ヲ頓着セス現  
今ハ殆ント其惑溺心ヲ絶ツノ輿論ニ歸シタリ由シヤ之レヲ以テ輿論ト爲サ、ルモ概テ國  
民ノ精神ハ政策上、財務上、商業上及ヒ學文著述上ノ利害ヲ考フルニ在リテ此考ヘテ以テ  
足レリトスルモノナレハ宗教上ノ事ハ措テ問ハサルニ至リタリ○是ヲ以テ政府ノ認定シ  
且ツ概テ國民ノ信好スル宗教間ニ於ケルト更ニ日本ニ允許シタル外國ノ宗教ニ對スルト  
ヲ問ハス一切宗教ニ關スル爭鬭ヲ恐ル、ニ及ハサルナリ

其レ然リ故ニ其爭鬭ノ發生スヘキニ非スト雖モ之レカ刑ヲ豫定スルハ立法者ノ本分ナリ  
而シ立法者日本ニ於テ更ニ原則ヲ掲クルニ何等ノ犯罪ト雖モ法ニ明文ナキモノハ之レ  
ヲ罰スルヲ得ス(第二條)トノ事ヲ以テシ加之第百三十四條以下ノ數條ハ前述ノ佛蘭西刑  
典第九十一條第九十六條ト異ナリ謀反一揆ヲ罰スルニ方リテハ佛蘭西法典ニ倣ハス犯人  
採ル所ノ目的ニ因テ罰スル以上ハ一揆ノ原由宗教上ノ惑亂ニ出ルモノヲ豫定シ且ツ之レ

ヲ罰スルヲ必要トス

本條ハ刑ノ適用ニ付キ前二箇條ノ區別ニ關シ即チ刑ノ輕重ノ點ヲ各犯人謀反ニ干與スル度ト其妨害セントスル邦土ノ廣狹トニ割合シテ定メタルモノナリ

宗教上ノ一揆ヲ處スルニ國事犯ニ關スル一揆ト異ナリテ處スルハ立法上ニ於テモ條理ニ於テモ其當ヲ失スルモノナリ何トナレハ宗教上ノ一揆ハ社會ヲ害スルモノト雖モ常ニ多少高尚ニシテ又怨ス可キ理由ニ出テ即チ過度ノ赫炎タル心證ニ基キ惑亂シタルヘシト雖モ其心裡忠實ナルニ因レハナリ

第三百二十七條

〔第三百十號〕 本條ニ豫定スル犯罪モ亦諸官廳ニ對シテ企テタルモノニシテ茲ニモ亦中央官廳府縣郡區ノ官廳ノ區別ヲ爲スモノナリ然レトモ其前數條ニ著シク異ナルモノハ目的及ヒ手段ニシテ二者共ニ前數條ヨリ輕ク從テ刑罰モ自カラ輕シ其目的ハ諸官廳ノ組織又ハ職掌ヲ傾覆變更スルニ在ラスシテ官廳ノ議事集會ヲ妨害シ之レヲシテ強テ決議ヲ爲サシムルニ在リ○畧言スレハ其目的ハ官廳ノ自由ヲ妨害セントノ企テナリ

其手段ハ兵器ヲ弄シタル謀反ニ非ス詳言スレハ多少重劇ナル兵器ノ使用ヲ爲シタルニ非ス唯數人集合シテ有形上ノ暴行脅迫ヲ爲スニ在リ但シ暴行脅迫ノ爲メニ毆傷故殺ヲ爲ササルキヲ云フ最モ謀反人ハ兵器ヲ弄スルコアルヘシト雖モ唯脅迫ノ爲メニ之レヲ使用スル場合ヲ想像スルモノナリ

佛蘭西ニ於テ或ル擾亂ノ時期ニハ斯ノ如ク集會ノ自由ヲ妨害セントシタルコ屢々アリタリ

茲ニハ第三百二十五條ノ場合ニ於ケルヨリモ必ラス刑罰ヲ輕クセサルヲ得ス乃チ法律ハ刑罰ノ一部ヲ第三百三十六條ヨリ借用シ又他ノ一部ヲ總テ謀反ニ關スル正條ヨリ借用セリ本條ニ豫定セル企圖ハ第三百二十五條及ヒ第三百三十六條ノ犯罪ノ如ク官廳ノ長官ニ對シテ行フコアルヘシ然ルキハ長官ノ職務ノ自由ヲ妨クル犯罪ナリ例ヘハ長官ヲシテ強テ議員ヲ招集セシメ又ハ其長官ヲシテ議員ヲ招集スルコトヲ妨ケタルキノ如シ

第三百二十八條

〔第三百十一號〕 本條ハ重要ナルモノナリ何トナレハ國事犯ノ事項ニ付キ死刑廢止ノ爲メニ最モ強キ論據ヲ供スルモノハ即チ本條ナリ

此事項ニ付キ既ニ吾人カ論セシ如ク(第二百九十五號第三)國事犯ノ性質上ニ於テ殊更其重劇(第三百二十四條)ナルモノ、性質ハ執行ノ端緒アルニ過キサルキニ完全ノ刑ニ處セラ

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

ル、トチ要シタリ。○若シ法律ニシテ茲ニ既遂犯ノミチ罰スルモノトセハ其刑ヲ適施シ能ハサル可シ何トナレハ國事犯ニ關スル既遂犯ハ謀反ノ勝利ト制度ノ紊亂トニ外ナケレハナリ。○故ニ法律ハ執行ノ端緒犯罪着手又ハ闕効犯ヲ以テ其犯罪自カラトシテ罰セサルヲ得ス。

總テ外國ノ制法ハ國事犯ニ就テ斯ノ如キ特別ナル事件アルヲ指定セリ。

然レトモ此特別ナル事件ハ死刑廢止ノ爲メノ論據ヲ破毀スルモノニ非ス何トナレハ是レ常ニ犯罪着手ニ付テ死刑ヲ宣告スルモノナレハナリ而シテ其死刑ヲ宣告スルハ尋常未遂犯ノ場合ニ於テ刑ヲ減輕スルノ制法ニ在テハ不條理ニシテ又正當ヲ失スルモノナリ。

本條ニ豫定セサル所ノ端緒トシテ吾人ハ官廳ニ對スル企圖ニ關シテハ其議事席ヲ強奪シ及ヒ集議ヲ妨ケンカ爲メニ議事席ノ圍繞ノ土地ヲ占領シタル場合ヲ引用ス可シ尤モ開會中ト否ラサルトチ問ハサルナリ其他會長又ハ他ノ頭役ヲ捕縛シ又其職務上ノ行爲ヲ爲サシメス又ハ其職務ニ反スル行爲ヲ爲ス可シトノ強令シタル場合ヲモ引用ス可シ。

〔第二百十二號〕 法律ハ嚴重ノ點ニ於テ尙ホ一步ヲ進メタリ即チ嚴ニ論スレハ豫備ノ所爲トシテ見做サル、ニ過キサル所爲ヲ以テ犯罪着手即チ執行ノ端緒ト同視セル事是レナリ。○然レトモ此等ノ所爲ハ法律上戰闘ト同様ニ認定シ得ル程ノ重劇アルモノナリ何トナレ

ハ此等ノ所爲ハ戰闘ヲ確固タルモノト爲サシメ且殊更戰闘ヲ以テ謀反人ノ爲メニ利益アルモノト爲サシムレハナリ。

本條ニ掲クル最初ノ二箇ノ所爲ハ謀反人ニ兵器及ヒ糧食等ノ軍備ヲ得セシメ第三ノ所爲ハ官兵ノ集合又ハ其抗抵ヲ妨害スルモノナリ。

第一ノ場合ニ於テ吾人ノ注視ス可キモノアリ即チ法律上明文ヲ以テ兵器及ヒ糧食等ノ軍備品カ政府ノ貯蓄所ニ於テ奪取セラレタル旨ヲ掲ケスト雖モ理ニ於テ斯ノ如クナラサルヘカラス然レトモ海陸軍ノ兵器軍裝ノ供給者ノ私有ニ屬スル貯蓄所ヨリ強奪シタル場合ハ之レト異ナリテ此場合ニ於テハ次條ヲ適用スル而已。

第二ノ場合ハ刑罰ノ爲メニ有益ナル場所ヲ占有スルモノニシテ一旦謀反人ノ占有シタル以上ハ襲撃又ハ防禦ノ爲メニ謀反人ニ大勢力ヲ與フルモノナリ。

第三ノ場合ニ於テ吾人ノ注視ス可キモノアリ即チ法律ハ通知書ノ送達人ノ通行ヲ妨ケタル事ニ付テ適用スルノミニシテ通知書ノミノ通行ヲ妨ケタルヲニ付テ之レヲ適用スルニ非サルト是ナリ故ニ電信線ヲ絶チタル罪事ハ次章ニ於テ重ク罰シ(第百五十二條)他章ニ於テ更ニ輕ク罰スル所ニシテ(第百六十條)本條ニハ入ラサルナリ蓋シ茲ニハ一揆ノ所爲アリト雖モ兵器ヲ弄シタル一揆ノ所爲アラサレハナリ。○是ヲ以テ本條ヲ適用スルニ常ニ

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

謀反人カ兵器ヲ採テ行爲ヲ爲スヲ要トス乃チ通知書ノ送達人ヲ捕縛シタル場合はナリ而シテ玆ニ法律ハ既ニ嚴重ニ處分シタルニ因リ明文外ノ事ニ迄之レヲ適用ス可カラス是レ法律ノ精神ヲ超過セサルノ最良方法トス故ニ若シ謀反人カ送達人ノ所持スル通知書ヲ奪ヒシノミコテ放テテ官兵ニ接近スルヲ得セシメタルハ該送達人ハ前後ノ景狀ヲ通知ス可キヲ以テ之レカ爲メ官兵ハ諸般ノ處分ヲ爲ス可シ故ニ此場合ニ於テハ社會ノ損害少ナクシテ次條ニ於テ罰ス可キ豫備ノ所爲ノミアルニ過キス

### 第三百二十九條

〔第三百十三號〕 若シ前條ニ於テ海陸軍武庫ノ占領及ヒ強奪ノ性質ヲ明言セサレハ此行爲モ亦犯罪執行ノ端緒ニ入ラスシテ唯内亂ノ豫備ノ行爲ト見做ス可シ

實ニ第一篇第八章(第二百二十五條註解第二百六十二號)ニモ記シタルガ如ク豫備行爲ト犯罪執行ノ端緒トヲ區別スルハ頗ル微妙細密ナルヲハ吾人ノ知了スル所ナリ○而シテ法律其見ル所ニ於テ第三百二十八條ニ豫定セル行爲ハ執行ノ端緒ヲ構造スルニ付テ充分重劇ナルモノト決定セリ

之レニ反シテ本條ニ豫定スル行爲ハ純粹ノ豫備ノ行爲ナリ何トナレハ現在ノ事物ニ對シテ何等ノ企圖ヲモ爲サルモノナレハナリ此行爲ハ單獨ニ企ツルヲ得ルノ行爲ニシテ其以後ノ目的ニヨリテ僅カニ犯罪ノ性質ヲ有スルモノナリ且ツ豫備行爲ト犯罪着手トノ區別ヲ知ルニ一徵候アリ即チ左ノ如シ假リニ或ル行爲ヲ以テ中斷モナク妨碍ニモ逢ハスシテ繼續スルモノト想像セヨ犯罪ヲ遂クルニ至ルヘキモノハ犯罪執行ノ端緒ナリ之ニ反シテ犯罪ノ其性質ヲ變セス且ツ執行トナラスシテ繼續スルモノハ必ラス豫備ノ行爲ナリ

第二百二十四條ニ曰ク豫備ノ行爲ハ概テ之レヲ罰セス何トナレハ其行爲タル曖昧ノ性質ヲ有スルモノニシテ其目的ヲ明カニセサルカ故ナリ然レトモ國事犯ノ事項ニ付キ例外アルヲハ是レ亦吾人ノ説述セシ所ナリ

其例外トハ即チ本條ヲ指スモノナリ○此例外ヲ設クル所以ハ本條ノ如キ毫モ目的ヲ疑フヲ要セサルニ由レリ兵隊ヲ編成シ兵器彈藥彈丸ヲ豫備スルハ正當ナル目的ヲ有セサルヲ明カナレハナリ○政府ノ武庫又ハ貯蓄所ヲ強奪シタルハ此場合ニ入ラス即チ前條ニ罰スル所ナリ而シテ本條ノ場合ニハ兵器ノ製造其買得若クハ人民私有ノ貯蓄所ヲ強奪シタルハ其想像スルヲ要ス

糧食ヲ集備スルヲ如キハ犯罪ノ性質ヲ有スルニ付テハ他ノ疑フ可キ行爲ト合發スルヲ要トス蓋シ若シ他ニ疑フ可キ行爲ナキハ其行爲ハ正當ナル交易上ノ所爲ト混同スルニ

至レハナリ

六二四

〔附言〕糧食ヲ集備スルノ事ハ本條第一項ニ於テ豫備ノ行爲トシテ揭示セリ余ハ之レヲ削除セン事ヲ良シトス但シ此事ハ第二項ニ入ル事ヲ得可シ

本條第一項ニ(制限シテ)豫定セル豫備ノ行爲ハ法律カ一等以上減輕スルヲ得スト信スル程ノ充分重劇ナルモノナリ

總テ其他ノ豫備ノ行爲ニシテ前項ニ豫定セサルモノコ付テハ本條第二項ニ於テ本刑ノ二等ヲ減シタリ

其場合ニ從ヒ或ハ一等ヲ減シ或ハ二等ヲ減スルノ基礎トナル所ノ刑ハ第三百三十四條乃至第三百三十六條ノ各條ニ記シタル本刑ナリ而シテ犯罪ニ加功セシ度ニ從テ差異ヲ爲スモ亦該條ニ倣フ可シ蓋シ豫備ノ行爲ニ付テモ煽動者、上等ノ指令官、下等ノ指令官及ヒ指令ヲ爲サスシテ唯之レニ與ミシタルノ曲事タル者トノ區別アルヲ得ヘケレハナリ

#### 第四百十條

〔第三百十四號〕道德ノ害及ヒ社會ノ害ノ減スルニ從テ漸次刑ヲ減輕スル事ハ既ニ前章ニ於テ論述セル所ナリ

第一章(即チ)ニ豫定セル犯罪ハ國事犯ノ性質ヲ帶ヒサルモノニシテ是レ吾人ノ知了スル

所ナリ然レトモ陰謀ノ手段ニ因リテ犯罪ノ豫備ヲ爲スヲ得ルカ故ニ犯罪ノ階級ハ刑罰ニモ亦階級ヲ設クルヲ要シタリ

本條第一項ニハ豫備ノ行爲ナクシテ唯陰謀ヲ爲シタルヲ罰シタリ斯ノ如ク法律ヲ以テ犯罪ノ決意ヲ罰スルハ例外ノ事ナリト雖モ本條ノ如キハ衆人ノ決意ニ出テタルモノナルカ故ニ社會ノ危險頗ル大ナレハナリ

第二項ハ陰謀ヲ發言スルモ他人ノ同意ヲ得サリシヲ以テ陰謀ヲ醸シタルニ非ス然レトモ別人ニ此事ヲ發言セハ同意ヲ得ル事アランモ量リカタシ故ニ社會ノ危險無シト云フヲ得ス

#### 第四百十一條

〔第二百十五號〕本條ハ完全ノ宥恕ヲ與フルヲ前章ニ比スレハ更テニ其區域ヲ廣クシ犯罪ハ既ニ其執行ノ端緒アリテ即チ第二百二十八條ニ從ヘハ全ク遂ケタル犯罪ト見做ス可キモノニ迄至リシモ唯豫備ノ行爲ニ干與シタルノミニテ犯罪執行ニ加功セサル者自カラ隨意ニ徒黨ヲ脱スレハ(且何等ノ指揮ヲモ爲サ、レハ)刑ヲ免除シ之レニ加フルニ法律ハ其自カラ縛ニ就クヲ要セス又其陰謀ヲ告クルヲ要セス何トナレハ戰爭既ニ始マリタルニ因リ官之レヲ知リタル場合ナレハナリ

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

六二五



之レニ反シテ下等ノ指令ヲ行ヒタル犯人ハ總テ執行ノ端緒アル前及ヒ第三百二十八條ニテ執行ノ端緒ト見做シタル總テノ行為アル前ニ降伏シタルニ非サレハ法律上完全ノ宥恕ヲ與フルニ足レリトモス故ニ此場合ニ於テハ豫備ノ行為又ハ唯陰謀アルトモ限ルモノニシテ乃チ此陰謀ヲ告ケ其巨魁ヲ指名シ且自カラ縛ニ就クヲ要ス

此完全ノ宥恕ヲ得タル者ハ監視ノ刑ヲ免カル、ヲ得ス最モ此監視ヲ宣告スルハ裁判所ノ權能ニ屬スルモノニシテ法律ヨリ裁判所ヲシテ必ラス宣告セシムルモノニ非ス  
斯ノ如ク自カラ犯罪ヲ中止シテ之レヲ官ニ知ラシメタル者ニ法律上完全ノ宥恕ノ恩典ヲ與フルコトハ決シテ驚ク可キニ非ス何トナレハ此徒ハ社會ニ對シテ大ナル勤勞ヲナシタルニ因リ法律ハ免罪ヲ約シテ以テ之レヲ獎勵スルモノナレハナリ

第四百十二條

〔第三百十六號〕 内亂ノ煽動者及ヒ巨魁ハ決シテ刑ノ免除ヲ受クルノ權利ヲ有セス其最モ恩典アル場合ハ此等ノ者執行ノ端緒アル前ニ自カラ縛ニ就キ以テ其陰謀及ヒ重立タル共犯從犯ヲ告知シタル場合はナリ此場合ニ在テハ此等ノ者ハ刑ノ起算點トシテ第三百二十九條及ヒ第四百十條ニ掲ケタル刑ニ照シテ其二等ノ減輕ヲ受クルナリ而シテ此兩條ノ刑ハ豫備ノ行為及ヒ陰謀ニ付テ掲載セルモノニシテ既ニ第三百二十四條以下數條ノ本刑ヨリ數

等ヲ減シタルモノナリトス

第四百十三條

〔第三百十七號〕 法律ノ主旨ハ總テノ謀反人ニシテ假令ヒ諸首魁ナリトモ(殊更諸首魁トモ謂ツ可シ)之レヲシテ其謀反ノ結局ニ至ラサル前ニ自カラ降伏セシムルコトヲ獎勵スルノ有益ナルヲ見タルニ因レリ即チ本條ニ記スル一等ノ減輕ハ其諸首魁中ノ者ヲシテ其犯罪ヲ固執セサラシムルコトヲ得可シ

第四百十四條

〔第三百十八號〕 凡ソ歐羅巴中國事犯ニ付テ死刑ヲ廢止シタル諸邦ニ於テハ謀反ノ際ニ犯シタル通常ノ重罪ニ關シテ重大ナル爭論ヲ提出セリ即チ法ニ明文ナキヲ以テ常事犯ヲ國事犯中ニ入ラシムルモ亦常事犯ヲ國事犯ヨリ分離スルモ何レニシテモ困難アリタリ○千八百七十一年巴里ニ於テ起リタル恐ルヘキ謀反ハ俘虜及ヒ人質ヲ殺害シ公ケノ建造物ヲ燒失シ又其謀反ノ際ニ爲セシトハ雖モ毫モ内亂ノ所爲ノ性質ヲ有セサル私有財産ノ強奪ヲ爲スニ至リタリ

斯ル事實ヲ軍法會議ノ裁判ニ付シタル上ニテ遂ニ之レヲ死刑ニ處シタリ但シ其死刑宣告ノ過半ハ裁判所へ闕席ノ儘ニテ受ケシメタルモノナリ○而シテ受刑人中多クハ瑞西白

國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

耳義へ脱走シ且英吉利ニスラ脱走シタリ、當時佛蘭西政府ニ於テハ此罪人ヲ引渡スヲ要求セサリシカレ之レヲ要求セシモ恐クハ拒マル可シ(第六條註解第三十六號)而シテ最モ事理ニ通曉シタル法律學士輩ハ常ニ此常律上ノ重罪ハ其憎ムヘキ罪質ヲ失フテ謀反ノ事實ニ混入セラルヘキモノト思考セサルナリ

日本ニ於テモ右ニ類スル罪事ハ近時ノ謀反中ニ發生セリ蓋シ之レヲ巴里ノ謀反ノ時ノ罪事ニ比スレハ輕ク又少ナシト雖モ斯ク謀反中ニ生スル事アルヲ以テ我草案ニ於テハ大ニ注意シテ之レヲ國事犯外ニ置キ常律ノ刑ヲ適施シ以テ其眞ノ性質ヲ之レニ有タシメタリ本條ハ此事ヲ明瞭ニ説明セリ

〔第二百十九號〕 本條ノ第一項ハ一般ノ原則ヲ揭示ス○茲ニ記載スル所ノ重罪輕罪ハ國事犯ノ序ヲ以テ執行シ國事犯トハ附從ノ關係ヲ有スルニ過キスシテ國事犯ノ執行ヲ容易ナラシメントノ手段ニ出テタルモノニ非サレハ第三百三十條ニ從ヒ犯者ノ刑ヲ加重セス却テ國事犯罪ニ附シタル減輕ヲ受ク可シ又有罪人ノ逃走ヲ助ケンカ爲メ或ハ其刑ヲ免カレシメントカ爲メ戰闘中ニ重罪輕罪ヲ犯セシト雖モ(是レ通常ノ場合ニ於テハ加重ス可キ情狀トナル可キ場合ナリ)茲ニハ其刑ヲ定ムルニ常ニ國事犯ナリトシテ之レヲ加重セサルナリ

〔第二百二十號〕 第二項ハ最モ重劇ナル場合ニ原則ヲ嚴重ニ適用セリ即チ或ル殺人罪ニ死刑ヲ適用スルコト是ナリ是レ蓋シ普通法ヨリモ加重シタルモノトス何トナレハ茲ニハ豫メ謀テ人ヲ殺シタル直接ノ證據ヲ必要トセサレハナリ

法文ニハ死刑ヲ適用スル三箇ノ場合ヲ明瞭ニ掲ケタリ、第一 軍使ノ殺害即チ政府又ハ公力者ノ指令官ヨリ戰爭ノ止息ヲ謀ランカ爲メ送リタル人ヲ殺シタル場合、第二 俘虜ノ殺害即チ兵器ヲ弄セス且鬪爭ヲ止メタル者ヲ殺シタル場合、第三 人質ノ殺害即チ謀反人カ或ハ政府ヲ恐怖セシムルノ手段トシ又ハ兵器ヲ採ル者ノ生命ノ擔保若クハ正當官廳ノ嚴酷ニ對スル擔保トシテ奪フタル多少著名ナル人ヲ殺シタル場合はレナリ

法律ハ此三箇ノ場合ニ制限シタルニアラス何トナレハ本條ノ法文ハ此三箇ノ場合ニ引續ヒテ且一般ニ渉ル方法ヲ以テ「其他接戰ニ加ハラサリシ者ヲ殺シタル云々」ト記シタレハナリ是レ謀反人中俘虜トナリタル者カ其看守ヲ殺害シタル場合ニ適用スルモノナリ放火及ヒ堤防ノ毀壞ニ付テハ法律上明瞭ニ記セス而シテ常律上ニ於テハ之レヲ罰スルニ死刑ヲ以テセルコト往々之レアリ斯ル犯罪ニ付テモ亦同上ノ區別ヲ爲ス可キナリ即チ戰闘ヲ始メタルヨリシテ其必要ノ果効ナリシヤ否ヤヲ區別スヘキナリ

公力者ノ據リテ以テ叛徒ヲ攻撃シ得ヘキ建造物ヲ占有スルヲ妨ケンカ爲メ若クハ公力者

ノ行軍又ハ行務ヲ停止セシムカ爲メニ火ヲ放チ又ハ堤ヲ毀壞セシキハ其犯罪ハ内亂ノ罪事  
中ニ屬ス可シ故ニ如何ニ遺憾トス可キモ主タル罪事ノ一部トシテニ非サレハ之レヲ罰ス  
ルヲ得ス此反對ノ場合ニ於テハ該犯罪ハ怨恨若クハ復仇ノ果効ニ過キサルヲ以テ決シ  
テ國事犯トシテ見做サレサルナリ

〔第二百二十一號〕 第二項ニ於テハ性質上ニヨリテ常事犯ノ罪ノ國事犯ニ附加シタルモノ  
ヲ論スルニ非ス性質并ニ目的ニヨリテ常律上ニ屬スル所ノ犯罪ヲ論スルモノナリ〔附言〕  
○其兵器ヲ携ヘタル一揆ハ尙ホ國事犯ノ手段タルニ似タリト雖モ決シテ國事犯ニ非ス何  
者其目的ハ諸制度ヲ顛覆シ若クハ變更スル事ニ關スルニ非スシテ〔諸族ノ人民相互ニ恨チ  
雪キ若クハ讐ヲ復スル事ニ關スレハナリ〕○歐洲諸邦ノ史乘ニ於テモ屢々此凶例ヲ載セタ  
リ就中佛國ニ在テハ種々ノ時代ニ於テ當時ノ貴族ノ特權ヲ怨テ以テ之レヲ殺害シ其財産  
ヲ燒キタルヲアリキ○又荒凶ノ時ニ方リテ飢餓ニ迫リ貧苦ニ苦シミテ狂惑シタル人民ハ  
以テ貪慾ナル投機商ノ穀類ヲ買占メシモノト思ヒテ〔時トシテハ理由ナキニ非ス〕屢々其  
財産ヲ強奪シ或ハ之レヲ毀壞セシヲアリキ

〔附言〕 草案ニハ前二箇ノ條例ト茲ニ述フル條例トヲ別ツテ二箇條ニ記載シタレトモ  
余今之レヲ唯一箇條ニ合記セリ蓋シ此二條例共常律ノ刑ヲ適用ス可キモノナレハナリ

此憎ム可キ所爲ハ人民ノ愚昧ナルト之レヲ煽動シタル者ノ罪トニ由ルト云フヲ得ヘシト  
雖モ然レトモ此所爲ハ國事犯罪ノ原由ニ出ル宥恕ヲ受クヘカラス故ニ常律ヲ以テ之レヲ  
論スルナリ

佛國ニ於テハ此犯罪ハ刑法第九十一條ニ記スル所ニシテ之レヲ國事犯ト見做シテ千八百  
四十八年ニ布令シタル死刑ノ廢止ニ加ハラシメタリ○然レトモ此寬典ナル決定ハ該犯罪  
ノ性質ニ基クヨリモ最初國事犯ト常事犯トノ別ナク共ニ死刑ヲ言渡セシヲ以テ此二犯罪  
ヲ區別スルヲ要セサリシ時代ノ錯雜ニ基クテ大ナリトス○是ヲ以テ第二篇第一章ニ豫定  
シタル諸般ノ重輕罪ハ國事犯ナリト決定スルニ至リタリ

〔附言〕 佛蘭西法典ノ編纂者ハ斷決シタル方法ヲ有セサリシモノ、如シ是レ蓋シ該編  
纂者ハ茲ニ吾人ノ論スル重罪ニ付キ死刑ニ及ハサル刑即チ一回ハ流刑〔第九十八條〕一  
回ハ有期ノ徒刑〔第九十九條〕ヲ宣告シタルニ因テ顯然タリ○尤モ千八百十年始メテ法  
典ヲ編纂セシ時期ニハ未ダ禁獄ノ刑ヲ掲ケサリキ然レモ該國事犯ノ刑ヲ設立セシ所ノ  
千八百三十二年ノ再閱ノ時ニ至リテ之レヲ有期ノ徒刑ニ換ヘサリシハ遺憾ノ事ナリ  
日本ニ於テハ此點ニ迄至ルヲ要スルモノト思ハサリキ是レ賢良ナル方法トスヘキナリ

〔第二百二十二號〕 本條ニ掲ケタル重罪ハ重劇ナルモノニシテ且ツ國事犯ノ性質ヲ帶ヒサ  
國ノ内部ノ安寧ニ關スル重罪及ヒ輕罪

ルニ因リ夫ノ有益ノ時間ニ陰謀ヲ告發スル者ニ與フル所ノ完全ノ宥恕ニ妨害トナラサルナリ又謀反ノ結局前自カラ縛ニ就キタル者ニ與フル刑ノ減輕ニ至テモ亦之レニ同シ是レ即チ本條末項ノ目的ナリ

第四百四十五條

〔第二百二十三號〕 本條ハ兵隊ノ供給者カ反逆人ト通謀シテ嘗テ約束セシ義務ヲ盡サ、リシコトニ係ルモノナリ而シテ茲ニ此條ヲ設置スルニ付テハ人ノ躊躇セシ所ナリ  
斯ル犯人ニ對スル法律ノ嚴重ノ處置ハ外國トノ戰爭ニ關シテ殊更ニ揭示セラレタルモノナリ(第百五十四條參觀)○最モ此百五十四條ニ加フルニ内亂即チ反逆人ニ對スル戰闘ノ場合ニモ適用ス可シトノ條例ヲ以テスルコトヲ得タル可シト雖モ左スレハ殆ント是レ法律ノ闕典ヲ補フモノト云フ可キナリ故ニ寧ロ茲ニハ尙ホ罰ス可キ一箇ノ犯罪アリト述ルノミニ止リテ其犯罪ヲ確定シ且甚々嚴重ナル刑ヲ證明ス可キハ他ノ箇條ニ讓ルヲ以テ最良ノコトス

第四百四十六條

〔第二百二十四號〕 此條例ハ本條ニ云ヘル犯者ヲ罰スル爲メニ必要タリ何トナレハ此犯者ハ第百二十二條ニ定メタル從犯ノ場合ニ於テ之レヲ明記セサレハナリ

然レモ本條ニ記スル所ハ唯甚々正當ト爲スノミ何トナレハ犯者ノ屯集ノ爲メ又ハ其潜伏ヲ容易ナラシムル爲メニ家屋ヲ與フル所爲ハ大ニ其犯罪ノ終成ヲ補助シ又犯者ノ追捕ヲ免カル、ヲ助ケテ以テ犯者ノ爲メニ其犯罪ヲ再ヒスルノ手段ヲ之レニ供スルモノナレハナリ

法律ハ之レヲ述ヘスト雖モ本條ハ必ラス謀反ノ終了セサル場合ニ關スルモノナリ實ニ該犯罪ハ性質上繼續ノモノニシテ(第十條註解第四十二號第二ノ中第四項參觀)犯者ノ屯集又ハ潜伏ノ場所ヲ與ヘタル事實カ本人(即チ屯集潜伏ノ場所ヲ與ヘタル者)ヲシテ謀反ノ附從ト爲スハ唯此繼續ノ時間ニ限ル而已而シテ一旦謀反ノ終了セルキハ右ノ事實ハ特別ノ輕罪ヲ構造スルニ過キス(第百八十五條參觀)而シテ此罪ハ茲ニ豫定セル重罪ノ附從犯ヨリ輕キモノナリ  
本條ハ本條ニ豫定セル所爲カ「原由ヲ知リテ且隨意」ニ行ハレタルコトヲ希望スルノ注意ヲ爲セリ其實此二箇ノ要件ハ犯人ニ通常責任ヲ負ハシムル所ノ要件ニ外ナラスシテ茲ニ之レヲ必要トスルハ敢テ論ヲ俟タスシテ明カナリ而シテ此二箇ノ要件ハ犯罪ノ意思ト行止ノ自由トノ二者ナリ抑モ此從犯ノコトハ或ル事項ニ特定ノモノナルカ故ニ(此事項モ亦自カラ特定ノモノナリ)茲ニハ唯此二箇ノ一般ナル要件ヲ追想スルヲ以テ有益ナリトス  
血族又ハ姻族ニ關スル例外モ亦道理ニ適スルモノナリ然レモ此例外規則ハ犯者ノ屯集ノ

ニ非スシテ隱匿所ヲ與ヘタル血族親又ハ姻族親ニ適用スルニ過キス此ノ如キ制限ヲ設ケタルハ是レ蓋シ法律上犯者ノ血族親又ハ姻族親ハ犯罪ノ目的ヲ以テ行爲スル者ニ非スシテ唯親愛ノ心ニ依テ行爲スル者ナリト推測スレハナリ  
此例外ハ第百八十七條ニ於テ囚徒ノ逃走ヲ容易ナラシメタル親屬ノ事ニ關シテ更ニ顯明ニ之レヲ許シタリ故ニ法律ハ唯之レヲ該條ニ讓ルニ止マルヲ以テ此件ニ關スルニ二三ノ敷衍ヲ爲スハ該條ニ於テス可キナリ

第四百七十七條

〔第三百二十五號〕 茲ニ法律ハ禁錮ノ刑ヲ言渡シタルコトヲ豫定スル而已何トナレハ若シ重罪ノ刑ヲ言渡シタルキハ當然永キ時間監視ニ附ス可キヲ以テナリ(第四十八條)之レニ反シテ輕罪ノ刑ニ付テハ法律上明文ヲ以テ監視ニ附ス可キ旨ヲ記シタル場合ノ外之レニ附スルコトナシ(第四十九條)  
本條ニ依テ宣告スル所ノ監視ハ裁判所ノ適宜ニ任カスモノニシテ必ラスシモ之レヲ宣告ス可キニハ非サルナリ

第三章 外患ニ關スル重罪輕罪

中村純九郎 譯

兵器ヲ非スル大逆

第四百四十八條 凡ソ日本人外國ト交戰中敵國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ其抗戰ニ加リタル日本ノ同盟國ニ抗敵シタル者ハ無期流刑ニ處ス(但シ敵ニ與シタル兵卒ニ關シテ軍律上ニ記載セル更ニ嚴ナル刑ニ抵觸スルコトナカルヘシ)

續キ敵軍ニ加ル事

交戰中日本ニ背叛シ又ハ日本ノ同盟國ニ背叛シテ敵軍ニ加ハリ若クハ敵軍ノ補助トシテ或ル名義ヲ以テ敵兵ニ附屬シタル者ハ日本及ヒ其同盟國ニ抗敵シタル者ト同ク論ス(刑)第百二十九條○草、第七十五條第七十九條

例外

〔醫師、外科醫、看病夫其他特ニ敵ノ病院若クハ病營ニ附屬シタル者ハ本條ノ規則ヲ以テ論スルノ例ニ非ス〕

續キ、敵ニ物ヲ交付スル事

第四百四十九條 外國ト交戰中敵國ノ兵隊其他敵兵ニ附屬スル者ヲシテ日本又ハ同盟國ノ管内ニ入ルヲ得セシメ若クハ日本及ヒ同盟國ノ都府、城塞、陸海軍陣營、港口、倉庫、造兵場、軍艦又ハ運漕船、兵器、彈藥廠、若クハ糧食裝具廠ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期流刑ニ處ス(刑)第百三十條○草、第七十七條

續キ

〔日本及ヒ同盟國ノ攻守又ハ安全ニ有用ナル其他ノ場所又ハ物件ヲ敵ニ交付シタル者ハ其情ノ輕重ニ由リ有期流刑又ハ兩禁獄(輕又ハ重)ノ一ニ處ス〕

續キ

第百五十條 戰時ニ在テ政府ノ官員若クハ屬吏又ハ其他ノ日本人其職務ニ因リ或ハ特別ノ

外患ニ關スル重罪輕罪

委任ヲ受ケタルニ因テ本國若クハ同盟國ノ外交商議ニ關スル密事ヲ知り又ハ陸海軍ノ機密  
ヲ知テ之ヲ敵國ノ官吏ニ漏泄シタル者ハ無期流刑ニ處ス（草、第八十條）

續キ

偽計賄賂若クハ暴行ヲ以テ前項ノ密事ヲ明カニスヘキ秘事、公書、圖面又ハ其他ノ書類ヲ得  
テ之ヲ敵ニ渡シタル者モ亦同シ（刑、第二百二十條、第二百三十一條、第八十一條、第八十二條）  
〔偶然其秘事若クハ公書ヲ知得テ之ヲ敵ニ渡シタル者ハ有期流刑ニ處ス〕

續キ

第百五十一條 凡ソ日本人敵國ノ間諜ヲ行ヒ以テ日本若クハ同盟國ノ兵隊又ハ艦隊ノ占ム  
ル地位其運動又ハ其軍勢軍備ノ景狀ヲ敵ニ通知シ或ハ内地、港口、都府又ハ城塞ノ細圖ヲ敵  
ニ交付シ若クハ敵ノ爲メニ便宜ナルカ又ハ危險ナル道路及ヒ通路ヲ敵ニ指示シタル者ハ無  
期流刑ニ處ス

續キ

凡ソ日本人日本及ヒ同盟國ノ管内ヘ敵國ノ間諜又ハ斥候ヲ入ラシメ之ヲ誘導シ若クハ之ヲ  
隱匿シタル者亦同刑ニ處ス（刑、第二百二十一條、草、第七十七條）

續キ、公  
信ノ妨害

第百五十二條 左ニ列記ノ者ハ無期流刑ニ處ス

- 一 敵國ヲ助クルノ目的ヲ以テ腕力又ハ偽計ニ因リ日本政府又ハ同盟國ヨリ送達スル命令  
書又ハ公信ヲ携帯スル者ノ通行ヲ妨ケシ者

二 同上ノ目的ヲ以テ公信ノ通達受信ヲ爲スヘキ電信機械ヲ破壊シ又ハ使用スヘカラサテ  
アツパレイユ、エレクトリック

シメタル者

三 同上ノ命令又ハ公信ヲ携帯發達又ハ受信スルノ任ヲ受ケテ之ヲ破壊シ迂廻シ遲延シ又  
ハ摩滅シタル者

〔電信杭ヲ倒シ電信線ヲ斷チ又ハ其他ノ方ニヨリ公信ノ發達受取ヲ延滞セシメタル者ハ各  
其情ノ輕重ニ從ヒ有期流刑又ハ兩禁獄（輕重ノ）ノ一ニ處ス〕

續キ、反  
逆ノ闕効

第百五十三條 前數條ニ記載シタル犯罪犯人意外ノ舛錯ニ因リ闕効シタル時ハ本刑ノ一等  
ヲ減ス

未遂

又犯罪ノ着手又ハ其施行ヲ始メタルニ過キスシテ未タ遂ケサル時ハ本刑ノ一等若クハ二等  
ヲ減ス

豫備

其犯罪ヲ施行スルノ目的ヲ以テ唯敵國ト通信シ犯罪豫備ノ行爲ニ止マリタル時ハ本刑ノ二  
等又ハ三等ヲ減ス

續キ、物  
品ヲ辨備  
セサル罪

第百五十四條 凡ソ日本人（自己ノ名ヲ以テ又ハ商業會社ノ社長トシテ）日本政府又ハ陸海  
軍官憲ヨリ陸海軍ノ爲メニ物品ヲ辨備シ若クハ工業ヲ執行ス可キ事ヲ任セラレタル者欲ト  
通謀シ或ハ内國人若クハ外國人ヨリ賄賂ヲ收受シテ故テニ其契約ニ定ムル期限内又ハ契約  
ニ定ムル方法ニテ其契約ヲ行ハサル時ハ重禁獄ニ處ス（且二百圓已上二千圓已下ノ罰金ヲ

外患ニ關スル重罪輕罪

科ス

若シ懈怠ニ因テ其契約ヲ闕キタル場合ニ於テハ六月已上二年已下ノ輕禁錮二拾圓已上二百圓已下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百二十二條○草、第四百二十條及ヒ其次條)

續キ、將ニ服ハシトスル際ノ罪

第三百五十五條 未タ交戦ニ至ラスト雖モ既ニ敵國ニ對シ戰書ヲ送ラントスル際ニ於テ前數條ニ記シタル罪ヲ犯シタル者亦各々其本條ニ從フテ處斷ス

外國人

第三百五十六條 日本ニ在留スル外國人第四百九條及ヒ其次條ニ記載シタル重罪及ヒ輕罪ヲ犯シタル時ハ其正犯又ハ從犯ハ各本條ニ記スル刑ニ照シテ一等ヲ減ス

第三百五十七條 此章ノ規則ニ依テ禁錮ヲ言渡シタル場合ニ於テハ都テ裁判所ニ於テ該犯ヲ一年已上三年已下ノ監視ニ付スルヲ得

要旨

第四百十八條

第三百二十六號 外患ニ關スル重罪輕罪ハ國事犯ノ性質ヲ有スルヤ否ノ研究

第三百二十七號 軍人ノ敵ニ投スル場合

第三百二十八號 日本國ノ外國ト交戦スルニ於テ本條ヲ適用スルノ必要

第三百二十九號 敵軍ノ補助トシテ敵兵ニ加リ又ハ附屬スル事

第三百三十號 敵ノ病院及ヒ病營ニ附屬スル者ノタメ設ケタル例外

第四百十九條

第三百三十一號 敵ニ我管内、都府、城塞等ヲ明ケ渡ス事

第三百三十二號 本條草案ニ要用ナル附則

第五百十條

第三百三十三號 外交商議ノ秘密又ハ軍略ヲ敵ニ漏泄スル罪

第三百三十四號 本條草案ノ附則

第五百十一條

第三百三十五號 間諜

第五百十二條

第三百三十六號 公信ノ通達ヲ妨クル事

第五百十三條

第三百三十七號 罪ノ闕効未遂又ハ豫備

第五百十四條

外患ニ關スル重罪輕罪

第三百二十八號 叛意ヲ抱キ又ハ懈怠シテ敵ニ物ヲ致ス重罪輕罪

第三百二十九號 將ニ交戦ニ至ラントスル頃ノ場合

第三百三十九號 將ニ交戦ニ至ラントスル頃ノ場合

第三百四十號 外國人ハ本刑ノ一等ヲ減スル事〇特ニ本條ヲ置クノ理由

第三百四十一號 監視

第三百四十八號

第三百四十九號 監視

第三百五十七號

〔第三百二十六號〕 本案編纂委員ノ主トシテ研究ス可キ事ト爲シタル第一點ハ本條ニ論ス

ル所ノ犯罪ハ國事犯ノ性質ヲ有スルカ又ハ之ヲ常事犯ト看做スヲ得可キカヲ知ルニアリ

タリ

抑々此犯罪ハ政府ノ制度ヲ改革スルノ希望ニ出ル所ノ國事犯ノ部類ニ屬スルモノトハ衆

人ノ見サル所ニシテ此犯罪ハ國體ヲ敗壞シ本國ノ獨立ヲ傾覆セントスルモノタルニ似タ

リ是レ則チ自國ニ對スルノ叛逆ニシテ所謂ル眞ノ大逆ヲ謀ルモノト言フヘシ然レモ歐洲

諸大國ニ於テハ之ニ反スル説行ハレタリ本案編纂委員モ激論ノ後遂ニ此反對説ヲ收用シ

タリ

蓋シ此反對説ニテハ外國トノ交戦ハ乃チ政事上ノ性質ヲ有スルモノタルカ故ニ一個人隨

意ニ其戰爭ニ加ハル事モ亦政事上ノ性質ニ外ナラサルモノト認メタルナリ加之ナラス外

國トノ交戦ハ必ス常ニ其國ノ獨立ヲ滅絶スルヲ以テ目的トスルニ非ス或ハ國境ヲ犯サハ

ラシメ或ハ條約ヲ遵守セシメ或ハ凌辱ヲ受ケタルノ恨ヲ雪クヲ以テ目的トスルコトアル可

シ故ニ若シ此解釋ヲ以テセサレハ必ス多ク犯罪上ノ區別ヲ爲サ、ルヲ得サル煩累ヲ招ク

可シ

本論ハ國事犯、常事犯、共ニ死刑ヲ用ヒシ時代ニ在テハ毫モ其益ナカリシト雖モ國事犯ニ

死刑ヲ廢シタル以來大ニ緊要ト成リタリ

佛國ニ於テ本條論スル所ノ犯罪ヲ常ニ國事犯ト看做シタルコトヲ證スルモノハ此犯罪ノ刑、

死刑ヨリ輕キ場合ニ於テハ法律ニ定メタル無期又ハ有期ノ徒刑若クハ懲役ノ刑ニアラス

シテ流刑禁獄又ハ追放ノ刑ヲ襲用セシ事是ナリ(佛刑法第七十八條第八十一條第八十二

條第八十四條及ヒ第八十五條)

故ニ本章ノ最モ重キ刑ハ無期ノ流刑ナリトス(附言參看)

〔附言〕 頒布ノ正條モ亦本犯ヲ國事犯ト看做シタリ然レモ最重ノ犯人ヲ死刑ニ處ス

外患ニ關ズル重罪輕罪



〔第二百二十七號〕 又本案最初ノ正條ニ於テハ逃亡シタル兵卒ニ關シテ本條ニ記入シタル例外ヲ存セスト雖モ然レモ兵卒ニ付テハ更ニ其刑ヲ加重セサル可カラサルコト明カナリ何トナレハ兵卒ハ國民タルノ本分ヲ闕キタルノミナラス又軍人ノ本分ヲ闕キ且ツ其所爲人ノ最モ視易キ所ノ重キモノニ係レハナリ故ニ逃亡シタル軍人ヲ本條ニ依テ論スルノ誤謬ナカラシメンカ爲メ爰ニ其制限ヲ記載ス

〔第二百二十八號〕 本條第一項ニ記載スル所ノ犯罪ハ外國トノ交戦ヲ想像シタルコト宜シク注意スヘシ故ニ内亂ノ場合ハ爰ニ豫見セサル所ニシテ此場合ハ前章ニ於テ之ヲ規定セリ實ニ内亂ニ於テ官軍ヲ攻撃スルハ本國ニ叛スルタメニアラスシテ國ノ制度ヲ改竄センカタメニ國家ニ竭クスト云フ辭柄ヲ有スルモノナリ

又日本ノ同盟軍ヲ攻撃シタル罪事ハ乃チ日本ノ軍隊ヲ攻撃シタル罪事ト同様ニ之ヲ罰スト雖モ其同盟軍ノ日本ト共ニ交戦スル際ニ限ルコトヲ注意ス可シ故ニ設ヘハ日本ノ同盟國外國ト戰ヲ交ヘ日本ニ於テ其交戦ニ加ハラサルコトアル可シ然ル時ハ第五百五十五條ニ記スルモノ、外本刑ヲ適用ス可カラサルナリ

〔第二百二十九號〕 本條第二項ハ日本ニ對シテ抗敵スルト云ヘル語ノ本義ヲ定メリ即チ其犯人ハ必スシモ現ニ戰爭ニ加ハリタル事ヲ要スルニ非ス交戦中日本及ヒ其同盟國ニ背テ自カラ敵國ノ軍隊ニ加ハリタルヲ以テ足レリトス加之敵軍ノ補助トシテ戰士ノ名義ニアラサル他ノ或ル名義ヲ以テ公然直接ニ敵兵ニ附屬シタル者ト雖モ本條之ヲ敵兵ニ加ハリタル者ト同視セリ例ヘハ敵軍ノ運送請負人、兵器工、廚夫、船舶水先人、會計役、測量師等ト爲リタル者ヲ云フナリ

〔第二百三十號〕 然レモ此規則ノ適用甚タ廣博ナルカ故ヲ以テ立法者ハ醫師若クハ看病夫トシテ敵ノ病院又ハ病營ニ屬シタル日本人ヲハ法律上ニ於テ明カニ例外トスルヲ要スルモノト信シタリ此例外ハ編纂委員ノ批難ヲ受ケ遂ニ之ヲ除去シテ唯後ノ參考ニ供スルノミナ許サレタリ(附言參看)

然レモ是レ遲疑シ得可キ事ニ非ス先ツ第一負傷者ヲハ既ニ敵視スルコトナク人間同類ノ扶助ヲ受ル權利アル者ト視ルコト人情ニ於テ然ラシムルノ道理アリ又第二ニ敵ノ病院ニ屬シタル本邦ノ醫師ハ同國人ノ爲メ大ニ裨益ヲ爲サント欲スルナル可シ何トナレハ戰時ノ病院ニ於テハ常ニ彼我兩軍ノ負傷者在ルモノニシテ敵ノ醫師敵ノ傷者ト共ニ受取リタルハ我カ傷者ノ施療ヲ怠ルノ恐アル可ク加之敵ノ醫師戰場ニ於テ我カ傷者ヲ遺棄スルノ恐アルヤ實ニ確乎奪フ可カラサルノ理ナレハナリ

此說ハ斷乎タルモノニシテ人亦之ヲ駁シ得タル者ナカリキ故ニ此除去セラレタル例外ヲ

外患ニ關スル重罪輕罪

ハ必ク速ニ本條ニ明記セサル可カラサルナリ

〔附言〕 頒布ノ正條ハ之ヲ記載セサルナリ

第四百十九條

〔第三百二十一號〕 本條ニ論スル所ノ犯罪ハ本國ニ對シ叛逆ノ性質ヲ表スル事前條ヨリモ尙ホ高度ニアリテ且ツ更ニ道德上ニ背クモノトス何トナレハ此犯罪ハ更ニ秘密ニ係ルモノニシテ身ヲ捨テ勇猛ヲ表スルコトサヘナキ卑怯ノ所爲ナレハナリ且又國安ヲ害スル事更ニ大ナリトス蓋シ一個人日本ニ抗敵スルノ所爲ハ直チニ日本ニ與フル損害ヨリモ寧ロ其惡例ヲ他人ニ示スニ依テ危險ナルモノナルニ況シテ城塞軍艦造兵塲等ヲ敵ニ交付スルノ所爲アラハ實ニ治スヘカラサル大害ヲ日本ニ與フ可ケレハナリ

然レ起草者ハ無期ノ流刑ヨリモ更ニ嚴ナル刑ヲ記載シ得サリキ何トナレハ更ニ嚴刑ヲ科セントスレハ死刑ニ處スルニ至ラサルヲ得スト雖モ一旦之ヲ國事犯ト同視シタル已上ハ死刑ヲ茲ニ適用ス可カラサルモノト信シタレハナリ故ニ前條ノ刑ヲ減輕スルニ非レハ本條ノ刑ヲ更ニ嚴ニスルヲ得サリシト雖モ是レ亦爲シ難キモノト信シタリ然レモ若シ此二個ノ場合ニ於テ強テ寬嚴ノ差ヲ立テント欲セハ前條ノ刑ヲ有期ノ流刑ニ降スモ大ナル不便ナカルヘシ但シ我輩ハ之ヲ發議スルニアラサルナリ

其他本條ニ記載セル重罪ハ兵隊司令官要塞司令官若クハ軍艦司令官ノ外之ヲ犯シ能ハサレハ陸海軍律ヲ以テ罰セラル、コト多カル可シ故ニ豫テ立法者カ希望スル如ク更ニ其刑ノ嚴ナルヲ見ルヘシ

〔第三百二十二號〕 本條第一項ニ枚擧スルモノハ其數ニ限ルモノト看做スヘシ本刑ノ特ニ嚴ナルヲ以テナリ然レモ物件ノ左程重要ナラサルモ國ノ安全即チ攻守ニ有益必用ナルモノヲ敵ニ渡ス者ヲ論シテ其刑ヲ免レシメンカタメ別ニ一項ヲ本條ニ加添スルノ要ナルヲ考ヘタリシカトモ然レモ敵ニ交付シタル物件ノ輕重要否ハ實ニ限リナクシテ豫メ之ヲ定メ難ケレハ寧ロ本條ニ記載セサル他ノ三箇ノ國事犯ニ適用スヘキモノ（但シ重罪ノ刑）ヲ採テ宣告スルノ權ヲ裁判所ニ委ヌルノ良策ニ如カストセリ

第五百十條

〔第三百二十三號〕 是レ亦惡ム可キ叛逆ノ一ニシテ本條之ヲ無期流刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ罰スルヲ得サルモノナリ抑々外交商議ノ密事特ニ陸海軍用兵軍略ノ機密ニ係ル書類ヲ敵ニ交付スルハ第一日本ヲシテ無功ニ至ラシメ第二遂ニ敗北ニ至ラシムヘキ事業ナリ戰時ニ在テ外交商議ノアランヲ慮ルコトハ豈ニ架空ノ想像ナランヤ凡ソ此際ニ當テ局外中立國ト日本國ト攻守ヲ共ニスルノ同盟ヲ謀ルタメカ又ハ局外國ヲシテ日本ノ爲ニ竭クス處ロ

外患ニ關スル重罪轉非

アラシメ又ハ止戦ノ仲裁ヲ爲サシムル等ノ商議アルヘシ又縦ヒ敵國ト雖モ休戦又ハ交和ノ端緒ヲ開クノ目的ヲ以テ豫メ商議スルコトアルヘシ然ルニ此ノ議未ダ雙方ニ熟セサルニ方テ敵ヲシテ之ヲ知ラシメハ日本國ノ害タル焉ヨリ甚シキハ莫ルヘシ乃チ敵ハ遠カニ方向ヲ轉シテ更ニ強ク攻撃ノ勢ヲ示シ遂ニ商議不調談判無益ト成ルニ至ルコトアルヘケレハナリ

本條先ツ首トシテ自己ノ職務ニ依リ又ハ特別ノ委任ヲ受ケタルニ依テ密事ヲ知り之ヲ敵ニ漏泄シタル者ヲ罰セリ蓋シ此者ノ罪ハ特ニ政府ノ信任ヲ害用シタルニヨルナリ其他危險ナル三箇ノ方法即チ偽計賄賂又ハ暴行ヲ行ヒ以テ公書其他前項ノ密事ヲ記スル書類ヲ奪ヒ之ヲ敵ニ交付シタル者モ亦本條ノ罰スル所ナリ

〔第二百三十四號〕 本案ハ叛應ノ罪人偶然其公書秘密ヲ得タルノ場合ヲ定メタリ蓋シ之ヲ敵ニ渡スノ所爲ヲ不問テ措クヘカラサルノ道理アリテ存スレハナリ唯其刑ヲ少シク減輕スルヲ以テ適當ナリトス故ニ余ハ之ヲ一等減輕シテ十六年已上二十年已下ノ有期流刑トシタリ是實ハ間諜ノ類ナレトモ次條ニ定メタル場合ノ如ク全ク偶然ノ情ナキモノヨリハ少シク其刑ヲ輕フセサルヲ得サルナリ〔附言參看〕

敵ニ本國ノ秘密ヲ漏泄スル總テノ場合ニ於テ苟モ其渡セシ物件ハ公信、圖面其他ノ書類

ナル已上ハ必シモ其原本ナルヲ要セスト云フコトヲ注意スヘシ其原本、拔萃細目要領等ニテ足レリトス茲ニ其斯ノ如クナラサル可ラサル所以ヲ證明スルモノハ法律ノ精神ニ於テ固ヨリ戰事ノ秘密ハ書面ニ調成セサルモノト雖モ書類ト同視スレハナリ抑モ亦口舌ヲ以テ傳フル秘密ハ初ヨリ原本ナシ犯人安ソソ之ヲ敵ニ渡シ得ルノ理アラソヤ

〔附言〕 本條ノ末項ハ固ト編纂委員ノ少數ニヨリテ起草セシモノニ過キス而シテ頒布ノ正條(第三百一十一條)ニ於テ衆皆ナ之ヲ可トシタリ惜ヒ哉其缺漏ヲ補セサリキ余ハ到底其所爲ノ輕重ニ循テ刑ノ輕重ヲ爲スヘキ差別ヲ維持スヘキモノト信スルナリ

第百五十一條

〔第二百三十五號〕 本條ニ論スル所ノ犯罪ハ前條ノ犯罪ト大ニ相類似スルモノニシテ皆本邦ノ利益ニ於テ敵ノ知ラサルヲ要スル所ノモノヲ敵ニ知ラシムルニアリ  
此犯罪ハ二箇ノ行爲ニ區別スルコトヲ得其一軍事ヲ探偵考察スル事即チ所謂真ノ間諜ヲ行フ事其二軍事ヲ敵ニ漏泄スル事是レナリ  
若シ犯人其第一ノ場合ニ於テ捕獲セラレシ時ハ唯其犯罪ノ着手ニ止マリタルモノト見サ

ル可ラス  
佛國ニ於テハ間諜ヲ罰スルニ其未遂犯罪ナルモ尙ホ既遂犯罪ニ於ケルト同シ是レ佛國ノ

外患ニ關スル重罪輕罪

クリム、コンソメ

常律トス然レ日本ニ於テハ之ト異ナル可キナリ  
 蓋シ本條ニ於テモ間諜ノ行為ヲ精密ニ定メスシテ嚴ニ之ヲ罰スルニ止マルヲ得可シト雖  
 モ是レ甚タ危險ナル大權ヲ裁判所ニ委ヌルノ恐アリ元來一個人ニ對シ其間諜ヲ行フタル  
 一ヲ鳴ラス時ニ方リテヤ世ノ形勢常ニ穩カナラスシテ邦人不安ヲ懷キ時トシテハ其邦危  
 急ニ迫ルヘシ故ニ裁判上公平寛大ヲ得ルヲ難ケレハナリ  
 佛國ノ軍律ニ於テハ軍人ノ行フタル間諜ハ勿論敵ノ行フタル間諜ト雖モ一般ニ死刑ヲ以  
 テ之ヲ罰セリ然レハ敵ノ行フタル間諜ノ場合ニ於テハ軍律ハ佛軍ノ陣營内又ハ佛軍ノ占  
 有地ニ於テ間諜ヲ發見シ之ヲ捕獲シタル事ヲ想像シタルモノナリ  
 本邦ノ新定軍律ニ於テハ陸軍裁判所ノ審判ニ付ス可キ數多ノ間諜ノ場合ヲ定メタリ其内  
 ニハ軍人ニアラサル者ノ間諜ヲ行フ場合ヲモ見ユ

第百五十二條

〔第三百二十六號〕 内亂ノ時ニ當テ法律ハ固ヨリ公信命令ノ往復通行ヲ妨クル者ヲ深ク注  
 意シタリ(第百三十七條第三項ヲ看ヨ)外患ノ時モ亦同ク更ニ條規ヲ設ケテ公信往復ヲ妨  
 シル罪ヲ豫メ杜絶シテ之ヲ罰スヘシ  
 本條ニ論スル處ノ所爲モ亦其所在ニ出沒變幻スルハ間諜ノ好惡ナルニ何ソ逕庭アラシ又

公信ヲ妨碍シタル結果ノ大ナルハ間諜ノ結果ト蓋ソ異ナル處アラシヤ故ニ十中八九ハ之  
 ヲ罰スルニ間諜ノ刑ト同一ニスヘキナリ  
 第一ノ場合ニ於テハ公信ノ送達人ニ直接ノ妨ヲナス事是レ最モ暴慢果敢ノ意想ヲ表シ最  
 モ重大ノ惡事ヲ顯ハスモノナリ第二ノ場合ニ於テハ機械ノ上ニ妨害ヲ與フ事然レハ其機  
 械ハ最モ通信ニ簡要ナル者ニシテ之ヲ修復シ又ハ取替ルニ多少ノ時日ト困難トナ來シ之  
 カ爲メ遂ニ大ニ公信ヲ延滞セシムヘキモノナリ第三ノ場合ハ命令ヲ携帶シ通達シ又ハ受  
 取ルヘキ一ヲ任セラレタル者カ忠實ニ達着セシメサル事此ノ特別ノ委任ヲ受ケテ之ヲ缺  
 クノ罪ハ適ニ以テ第一ノ場合ノ直接ノ所爲ニ代ルヘキ重罪ナリ  
 今ヤ右等ノ所爲ト同列ニ定ムヘキモノアリ乃チ其事ハ前段ニ記スルモノヨリ稍々輕シ且  
 之ヲ行フ人ノ資格ニ因テ自ラ其情ノ平易ナルモノ是ナリ此ノ事タル社會ニ關シテ惡害ヲ  
 醸スノ輕重大小舉テ豫メ定ムヘカラサルモノナレハ法律ハ之ヲ罰スルニ國事犯三有期刑  
 中ノ一ヲ適用スルノ權ヲ法官ニ委テタリ余カ本條ニ一項ヲ加ヘントスルノ目的モ蓋シ斯  
 ニ外ナラス

第百五十三條

〔第三百二十七號〕 本條ニ論スル所ノ犯罪ハ前章ニ記載シタル犯罪ト異ナリテ全ク之ヲ遂

外患ニ關スル重罪輕罪

ル時ハ之ヲ罰スル能ハサルヲ以テ其犯罪着手ノ時ニ於テ法律上最大ノ嚴刑ヲ適用ス可キ  
カ如キ性質ヲ有セサルナリ(治罪法草案第四百六十一條第四百六十六條及ヒ第四百七十  
六條ヲ看ヨ)故ニ罪ヲ遂クルコトノ遠カルニ從テ刑ノ漸次輕減スルアルヲ見ルヘシ  
本章ニ於テハ叛逆ノ重罪ヲ遂ケタリト雖モ然レモ國ノ大權敗類シタルニ非サルコトヲ想像  
シタルモノナリ故ニ猶ホ之ヲ彈壓スルコトヲ得ルヘキナリ

是ノ故ニ現ニ生シタル社會損害ノ度ニ從テ其刑ノ差等ヲ立ルコトハ法律ノ原則ニ於テ要ス  
ル所ナリ然レハ既遂ノ犯罪ヨリモ闕効ノ犯罪ニ止マリタルニ於テハ社會ノ損害寡ナシ犯  
罪ノ着手ニ止マリタルニ於テハ尙ホ寡シ豫備ノ行為ニ止マリタルニ於テハ其損害尙ホ一  
層寡シトス本條ハ豫備ノ所爲ヲ敵ト通信スルコト限定セリ敵國ト通信スルトハ例ヘハ未  
タ間諜ヲ始メス之ヲ行フ爲メニ贈物若クハ約束ヲ受ケタルヲ云フ  
此等ノ輕減ヲ以テ之ヲ一般常律ノ輕減ト誤解スヘカラス唯僅ニ一等ヲ減スルアルノミ  
(第百二十五條及ヒ第百二十六條ヲ比較セヨ)其斯ノ如ク刑ノ嚴ナル所以ノモノハ蓋シ本

國ニ叛クノ罪ハ深且重ケレハナリ  
本條ニ於テハ數人ノ協議ニ因リ又ハ一人ノ發意ニ因テ隱謀ヲ發シ因テ發覺シタル犯罪ノ  
決心ヲ豫定スルマテニ至ラサルナリ蓋シ此ノ如ク大逆ノ罪ヲ企ル事ハ最モ稀ナルカ故ニ  
餘裕ヲ有スルモノナリ

未必ノ豫定ヲ以テ明文ニ加フルヲ要スルモノト思ハサレハナリ是ノ故ニ法律ニ定メタル  
時間即チ罪ヲ實行スルノ前ニ隱謀ヲ告發シタルニ因リ生スル所ノ減輕ヲモ宥恕ヲモ記載  
セサルナリ若シ斯ノ如キ事情ノ出來スルアレハ裁判官ハ常ニ汎ク酌量輕減ヲ應用スルノ  
餘裕ヲ有スルモノナリ

第百五十四條

〔第百二十八號〕 本條第一項ニ記載シタル叛逆ノ場合ハ法律上ニ明記セサル可カラズ何  
トナレハ此場合ハ甚タ危險ナルモノニシテ他ノ叛逆ノ場合ト同シク恐ル可キモノナレハ  
ナリ此場合ハ佛國及ヒ其他ノ國ニ於テモ之ヲ律條ニ明記セリ

本刑ハ大逆ノ刑ヨリ二等輕シ何トナレハ社會ノ損害頗ル大ナラサルヲ以テナリ又全ク然  
ラストモ其損害僅少タルヲ得レハナリ蓋シ或ル辨備ヲ爲サ、リシカ又ハ或ル工業ヲ執行  
セサリシニ因テ必スシモ軍隊敗衄ヲ受ルニ至ラザル可シ故ニ本條ノ起草者モ一時ハ此犯  
罪ヨリ生シタル後果ニ依テ刑ノ輕重ヲ定メント考ヘタリト雖モ裁判所ニ於テ軍隊ノ敗衄  
果シテ此犯罪ヨリ生セシヤ否ヤヲ認ムルヲ得サル可ク又之ヲ認メ得ルモ甚タ稀ナル可シ  
ト悟リタリ

余ハ禁獄ニ苛重ノ罰金ヲ附加スルノ要用ナルヲ感シタリ何トナレハ本條ノ犯人タルヤ概  
テ外患ニ關スル重罪輕罪

子豪商富工ノ家ニ出ルモノナレハ唯其自由ヲ束縛スルノミニテハ之ヲ懲ラスニ足ラス故  
ニ其財産ヲモ併セ責ム可ケレハナリ  
又犯人ハ必ス或ル會社ノ役員ナル時ノ場合ヲ豫定シタルモノト信ス然ラスハ軍需ヲ辨  
備スルヲ任セラレタル者ト言フヲ得ス加之或ハ言ヒ遁レテ刑罰ヲ免カル者アルモ未タ  
知ル可ラサレハナリ

又眞ノ懈怠ニ依テ契約ヲ缺キタル罪ハ假令ヒ是レカ爲メ軍隊へ叛逆ト同一ノ危難ヲ生シ  
得ルト雖モ重罪ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ス故ニ本條ニ於テハ輕罪トシテ之ヲ罰セリ

第百五十五條

〔第三百二十九號〕 爰ニ論スル所ノ犯罪ハ交戦二國ノ間ニ於テ未タ敵對ノ所爲ヲ始メサル  
前ニ犯シタルモノナルカ故ニトテ其罪ノ重キヲ失ハサルヲ明カナリト雖モ亦本條ヲ設ケ  
サル可カラサルモノアリ何トナレハ前數條ハ叛逆ヲ爲シタル時ニ方テ「既ニ始マリタル  
戰爭」ノ場合ニ付テ記載シタルモノナレハナリ

本條ハ前ニ定メタル「重罪」ノミヲ記載スルノミ實ニ前條第二項ノ場合ヲ除クノ外ハ總テ  
前條ニ記載セル犯罪ハ重罪ナリ到底其重罪ノ性質ハ永ク失ハサルモノナリ何トナレハ若  
シ輕減ノ理由アルニ於テハ其刑ヲ降シテ輕罪ノ刑ニ減等スルヲアレハナリ〔第三百三十  
〇條〕

九葉ヲ看ヨ夫ノ前ニ記載セル懈怠ノ罪ニ就テハ必シモ嚴ニ本條ヲ適用スルヲ以テ正理  
トセス夫レ未タ兩軍敵對ノ始マラサルニ方テハ軍需ノ辨備者ハ左程重要ナルモノト信ス  
可ラサルモノアレハナリ

第百五十六條

〔第三百四十號〕 本條ハ常ニ犯罪ヨリ生シタル道德上及ヒ社會公益上ノ損害ノ度ニ照シテ  
刑ノ輕重ヲ定ムルニ從フヲ以テ茲ニ外國人ヲ處スルニ日本人ト異ナル方法ヲ以テセサル  
ヲ得サルナリ

本章ニ論スル所ノ重罪ハ外國人ノ之ヲ犯シタル時ト雖モ自國人ノ之ヲ犯シタル時ト同一  
ニ社會ノ損害ヲ生ス可キハ疑ヲ容レサル所ナリ然レモ道德上ヨリ之ヲ論スレハ外國人ハ  
其本國ニ叛キタルニ非サルノ旨趣ノミヲ以テ其罪ノ輕キヲ表ス可シ加之外國人ノ犯罪ハ  
其自國ヲ利スルヲアル可シ是亦日本國ニ害ヲ殘スト雖モ彼ニ取テハ其惡ヲ薄フスルモノ  
ナリ故ニ此ノ危ヲ避ンカタメ外國ト交戦ノ場合ニハ敵國ノ臣民ヲ内地ヨリ追還スルヲ以  
テ必要ナリトシテ此ノ方ヲ適用シ來レリ

若シ追還セサル時ニ方テ日本ニ住シテ以テ日本ニ叛クキハ大ニ道德上ト社會上トノ義務  
ヲ缺キタルモノナレハ本條之ヲ罰セサルヲ得スト雖モ外國人ト日本人トノ間ニ刑ノ差等

外患ニ關スル重罪輕罪

ヲ立ツルヲ以テ條理ニ適シ公平ヲ得タリトス  
其刑ヲ輕減スルハ刑等ノ循序ニ從フモノト解ス可ラス茲ニ唯一定ノ刑ヲ置カサルノミ  
(第二百四十一葉及ヒ其次葉ヲ比較セヨ)

又本條ノ外國人ニ適用スルハ日本法律ノ外國人ニ適用スル時ニ限ルヤ自然ノ理ナリ  
本條ノ明文(改正シタルモノ)ニ於テ第四百四十八條ノ場合ニ在ル所ノ外國人即チ日本ニ對  
シテ抗敵シタル外國人ヲハ毫モ罰セサルヲ宜シク注意ス可シ  
實ニ此場合ニ於テハ外國人日本ニ在留スルカ爲メニ交戰國中ノ一方ヲ擇ンテ與ミスルノ  
權利ヲ除去スルヲ得ス故ニ日本ニ在留スルノ故ヲ以テ日本ニ叛逆ヲ爲シタルモノト爲ス  
可カラス

然レモ若シ外國人日本ニ在テ敵兵ノ日本管内ニ入ルヲ助ケ或ハ自己ニ托セラレタル細圖  
公書若クハ密事ニ係ル書類ヲ敵兵ニ交付シタル時ハ之ト異ナル可シ  
此場合ニ於テハ外國人日本ニ住スルヲ以テ犯罪ヲ組成スル元素トス何トナレハ其犯罪

ヨリ生スル社會損害ノ重ナル原因ハ其日本ニ住スル事ダレハナリ故ニ是レ眞ニ叛逆ヲ爲  
シタルモノナリ然ルニ最初ノ場合ニ於テハ日本ニ住セサル外國人ト雖モ同シク容易ニ同  
一ノ所爲ヲナシテ日本ニ敵シ外國ノ軍隊ニ加入スルヲ得可シ故ニ必ス此所爲ヲ以テ之

ヲ罰スルヲ得サル可シ

外國人ノ身分ナルカ故ニ特ニ茲ニ設ケタル本刑ノ輕減ハ前章ニ記載セル國事犯罪ヲ外國  
人カ犯ス時ハ之レ有ルヘカラサルモノタルヲ注意スヘシ夫レ前章ニ記載スル所ノ罪ハ  
本章ニ記載スル罪ヨリモ其事、實ニ道德上ニ於テモ社會ノ影況ニ於テモ稍、輕シト雖モ外  
國人ニシテ國事犯ニ與ミスルトハ亦實ニ宥ルス可ラサルモノアリ元來外國人ハ國事政治  
上ノ利害ニ付テ内國人ノ切實ナルニ若カス彼レ素ヨリ公權ヲ有セス政府ノ形体ノ多少自  
由主義ニ傾クト擅制主義ニ向フトニ拘ラス何ソ深ク利害ノ關スル所アランヤ

第五百五十七條

〔第三百四十一號〕 監視ヲ附加スルハ犯罪ノ重クシテ犯人放免ノ後猶ホ再犯スルノ恐アル  
時ニ於テ本章ニ記載スル處ノ監視刑ハ概テ此ノ性質ヲ存ス(草、第四十七條及ヒ第四百  
八十七葉ヲ比較スヘシ)

第三章ノ二 萬國公法ニ對スル重罪輕罪

(本章ハ委員ノ少數ニ依テ成ル草案ナリ)

第一節 局外中立ヲ侵スノ罪

第一條 凡ソ日本ニ於テ戰書ヲ投セサリシ外國ニ向テ出發シタル海陸軍遠征ノ首謀トナリ

萬國公法ニ對スル重罪輕罪

之ヲ號令シタル日本人ハ重禁獄ニ處ス

其遠征ニ於テ威權アル職務ヲ行フタル者ハ輕禁獄ニ處ス

其他ノ共犯ハ都テ二年已上五年已下ノ輕禁錮ニ處ス

未遂犯

若シ唯其出發ニ着手シタルノミカ又ハ第三百二十八條ニ定メタル所爲ニ因リ犯罪ノ施行ヲ始

メタルニ止マル時ハ總テノ犯人ニ付キ各々本刑ノ一等或ハ二等ヲ減ス

豫備

兵隊ヲ招募シ又ハ陸海軍ノ糧食裝具ヲ準備シ以テ犯罪ノ豫備ヲ爲シタルニ止マル時ハ本刑

ノ二等或ハ三等ヲ減ス(刑法第三百二十三條○草第八十四條第八十五條)

前章(參照)

第二條 其犯人中第三百三十九條ヨリ第四百一一條迄ニ記載セル場合ニ入ル者ハ該條ニ定メタル宥恕又ハ輕減ノ恩典ヲ適用ス

外國人ハ第五百五十六條ニ照シテ一等ヲ減スルヲ得

此遠征ニ際シテ通常ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者ハ第四百四十四條ヲ適用ス從犯ニ付第四百

十六條ノ規則ト監視ニ付第四百四十七條ノ規則トヲ茲ニ並ヒ行ハルヲ要ス

若シ海賊ノ所業ヲナシタル時ハ次節ニ列記スル規則ヲ適用ス

沒收

其他遠征ヲ始メ又ハ遠征ヲ着手シタル總テノ場合ニ於テ其船舶、兵器、糧食其他遠征ニ關シタル物件ハ悉ク沒收ス

局外中立ヲ害スル

其他ノ暴行

第三條 二ヶ國又ハ數國ノ外國交戰ノ際日本ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其局外中立ヲ破ル所業ヲ爲シタル者ハ六月已上二年已下ノ輕禁錮十圓已上百圓已下ノ罰金ニ處ス(刑法第三百三十四條)

外交官ニ對スル重罪輕罪

第四條 凡ソ何人ヲ論セス日本國ニ駐在スル外國ノ外交官ニ對シ公ケニ讒謗、毀害、侮辱、罵詈訾ヲナシ又ハ書面又ハ舌頭ヲ以テ脅迫シ又ハ擅ニ其家宅ヲ侵シ或ハ其人ヲ監禁スルノ罪ヲ犯シタル者ハ若シ其所爲官ノ資格アルニ因リシナラハ各其本條ニ定メタル刑ノ至重ナルモノヲ以テ論ス

但シ同上ノ場合ニ於テ其禁錮ハ定役ニ服セス

外交官ニ對シ其私ノ資格ニ因リ其他ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ各其本條ニ定メタル刑ヲ變易スルナク其至重ナルモノヲ以テ論ス

外賓ニ對スル罪

日本政府ノ外賓トシテ待遇セラル所ノ外國ノ皇族貴賓ニ對シ同上ノ輕重罪ヲ犯セシ者ニモ亦同上ノ刑ヲ適用ス

第二節 海賊罪

海賊ノ性質

第五條 凡日本又ハ外國ノ船舶ニ乘リ日本ノ海上港灣又ハ遠洋ニ於テ脅迫若クハ暴行ヲ用ヒ自國ノ船舶若クハ外國ノ船舶ヲ強奪劫掠シテ以テ強盜ノ所業ヲ爲シタル者ハ海賊トシテ

萬國公法ニ對スル重罪輕罪



左ノ如ク處斷ス

刑ノ適用

- 第一 艦船者及ヒ船長若クハ司令長ハ無期ノ徒刑ニ處ス
- 第二 其他該船ノ士官ハ有期ノ徒刑ニ處ス
- 第三 都テ乗組人ハ重懲役ニ處ス

其船舶及ヒ船中ニ在ル所ノ諸物件ハ犯人又ハ其從犯人ノ所有ナル時ハ都テ之ヲ沒收ス  
 (千八百二十五年四月十日ノ佛蘭西法律ヲ參看セヨ)

續キ、殺害

第六條 若シ一人又ハ數人ヲ殺害シタル時直接ニ其殺害ニ加ハリタル諸人及ヒ之ヲ命令シタル者且之ヲ制止スルヲ得テ制止セサリシ船長ハ死刑ニ處ス

未遂犯

其他ノ士官ハ無期ノ徒刑ニ處シ乗組人ハ有期ノ徒刑ニ處ス

第七條 前二條ニ記載シタル重罪未遂ニ止リタル者ハ其各本條ニ記スル所ノ刑ニ照シテ一等或ハ二等ヲ減ス但シ第五條ニ記スル船舶等ノ沒收ニ觸ルコトナカル可シ

豫備ノ所爲

第八條 凡ソ船舶ノ保安ノ爲メニ必要ナル員數ヲ超過シ且其用具ニ勝ルヘキ兵器ヲ備ヘタル日本若クハ外國ノ船舶ニ乘リ其政府ノ旅券及ヒ成規ノ委任狀ヲ有スルコトナク而シテ前ノ第一條ノ場合ニモ居ラスシテ日本海ヲ航海スル者ハ海賊罪豫備ノ行爲ヲ犯セル者ト看做スヲ得可ク而シテ其事ノミヲ以テ左ノ如ク之ヲ處斷ス

刑ノ適用

- 第一 艦船者及ヒ船長ハ重懲役ニ處シ百圓已上千圓已下ノ罰金ヲ科ス
- 第二 其他ノ士官ハ輕懲役ニ處シ五拾圓已上五百圓已下ノ罰金ヲ科ス
- 第三 乗組人ハ二年已上五年已下ノ重禁錮ニ處シ二拾圓已上五拾圓已下ノ罰金ヲ科ス

從犯

第九條 凡ソ情ヲ知テ艦船者若クハ船長ノ爲メニ該船ノ保險ヲ爲シ又ハ該船ヲ賃貸シ若クハ之ニ其金ノ爲メ資金ヲ貸シタル者ハ前數條ニ記載シタル區別ニ從ヒ該犯ノ從犯ト看做シ以テ處斷ス

本犯ノ處分及ヒ其管轄

第十條 海賊罪ノ處分ハ日本人ニ對シテハ勿論日本船艦ニテ捕獲シタル外國人ニ對シテモ本案總則ノ第五條ニ要スル所ノ條款ヲ遵守スルコトナク日本ニ於テ之ヲ爲ス可シ但シ該犯未ダ外國ニ於テ終審ノ處斷ヲ受ケサルヲ要ス

第三節 奴隸買賣及ヒ自由人ヲ賣ル罪

第十一條 凡ソ日本人本國若クハ外國ノ船ニテ航海シテ某國ニ於テ奴隸ヲ買ヒ以テ海上之ヲ運輸シテ他國ニ於テ之ヲ販賣セル爲メ奴隸買賣ニ從事シタルノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ如ク處斷ス

刑用

- 第一 艦船者船長ハ重懲役ニ處シ百圓已上千圓已下ノ罰金ヲ科ス
- 第二 其他ノ諸士官及ヒ其金ノ社員(航海セサル者ト雖モ)ハ輕懲役ニ處シ拾圓已上百圓

萬國公法ニ對スル重罪輕罪

已下ノ罰金ヲ科ス

第三 都テ乘組人若クハ其企ニ用ヒラル、者ハ二年已上五年已下ノ輕懲役ニ處ス(千八百三十一年三月四日ノ佛蘭西法律ヲ參照セヨ)

其船舶ハ若シ日本法律ヲ以テ裁判スヘキモノナラハ其附屬品并ニ船中ニ在ル所ノ諸貨物ト共ニ之ヲ沒收スヘシ

殺害、毆打、創傷等

第十二條 一人若クハ數人ノ奴隸ヲ殺害シ故ラニ毆打創傷シ若クハ苛刻ノ取扱ヲナシタル時ハ之ヲ爲シタル者之ヲ命令シタル士官及ヒ之ヲ制止シ得テ制止セサリシ船長若クハ首魁ハ各此重輕罪ノ本刑ニ照シテ處斷ス但シ此ノ重輕罪ノ刑前條ノ刑ヨリ重キ時ニ限ル

第十三條 凡ソ日本人日本若クハ外國ノ港ニ於テ情ヲ知テ奴隸賣買ニ用ユル船ノ修理其糧食ノ充備若クハ其船ヲ航海シ得ヘキ景狀ト爲ス事ヲ取扱ヒ又ハ加擔シタル者ハ奴隸賣買豫備ノ犯罪人ト看做シ左ノ如ク處斷ス(但シ其船ノ内部ノ設置ノ模様又ハ犯罪人ノ記ルセシ書類ノ證憑ニ因テ賣奴ノ業ニ使用スルノ船タルコト判然ナル時ナリ)

刑用

第一 艦船者船長及ヒ該船ノ諸士官ハ六月已上三年已下ノ重禁錮ニ處シ十圓已上百圓已下ノ罰金ヲ科ス

第二 都テ乘組人并ニ職工及ヒ船具糧食等ノ辨備人ハ四月已上二年已下ノ重禁錮ニ處シ

四圓已上二十圓已下ノ罰金ヲ科ス

從犯

第十四條 凡ソ情ヲ知テ艦船者及ヒ船長ニ其船ノ保險ヲ爲シ又ハ其船ヲ賃貸シ若クハ之ニ其企ノ爲メ資本ヲ貸損得ニ拘ラス定數ノ利子ヲ以テシタル者ハ艦船者及ヒ船長ノ從犯ト看做シ之ヲ處斷ス

自由人ヲ賣ル事

第十五條 凡ソ日本人奴隸驅役ヲ准許スル國ニ於テ奴隸トシテ自由人ヲ賣リ若クハ之ヲ賣ランカ爲メ本人ノ承諾ナクシテ之ヲ其國へ運送セシメタル者ハ有期徒刑ニ處シ百圓已上千圓已下ノ罰金ヲ科ス

同上ノ目的ヲ以テ犯人ハ唯自由人ヲ買フタルノミニ止ル時ハ其賣人ト共ニ重懲役ニ處セラ

ル 縱ヒ犯人ニ隨行スルコト承諾スト雖モ十二歳已下ノ幼者ヲ賣買スル時ハ此刑ノ最重刑ヲ科ス

外國人ノ第十六條 本節ニ記シタル刑ハ日本ニ於テ同罪ヲ犯シタル外國人ニ之ヲ適用ス

刑 日本ニ於

第十七條 外國ニ於テ本節ニ記スル罪事ヲ犯シタル日本人ノ處置ハ外國政府ヨリ公然ノ告發ナク其他本案總則ノ第五條ニ要スル條款ナキモ日本ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ外國ニ於テ既ニ確定裁判ヲ受ケタル時ハ此限ニアラス

要旨

第三百四十二號 本章ハ固ト本案委員ノ少數ニ依テ成リシモノナレハ確定ノ草案ハ之ヲ  
刪除ス頒布ノ正條ニモ亦然リ之ヲ刪除シタルニ箇ノ理由

第三百四十三號 其第一ノ理由ヲ駁ス

第三百四十四號 其第二ノ理由ヲ駁ス

第三百四十五號 別段ニ條例ヲ設クルノ不便

第三百四十六號 「萬國公法」ニ對スルノ重罪ト謂ハサルヘカラサルモノ、萬國公法ニ二意  
義アリ茲ニ所謂萬國公法ハ其意義ニアラサル事

第一節 局外中立ヲ侵スノ罪

第一條

第三百四十七號 日本ニ於テ戰書ヲ投セサリシ外國ニ向テ官許ナシ遠征スルノ罪

第三百四十八號 其種様ノ場合ニ於ル刑

第三百四十九號 戰書ヲ投セシ場合ニ付テノ注意

第二條

第三百五十號 本條ノ多クノ參照ヲ他條ニナス所以

第三百五十一號 格別ノ沒收ヲナスニ付テノ説

第三條

第三百五十二號 隣國ノ交戦ニ干涉スルヲ欲セサル國ノタメ局外中立ヲ布告スルノ有益

第三百五十三號 本條罰スル所ノ局外中立ヲ犯スヘキ重要ノ場合

第四條

第三百五十四號 日本國ニ駐劄スル外國ノ外交官ニ對スル罪、外交官ノ一身上ニ對シ罪  
ヲ犯セシ場合ニ限リ本刑ヲ減スル事

第三百五十五號 日本政府ノ外賓トシテ待遇セラレ所ノ皇族貴賓等ニ對スル罪ニ本條ヲ  
適用スル事

第二節 海賊罪

第五條

第三百五十六號 海賊罪ノ本質、罪事ノ性質、犯罪ノ場所

第三百五十七號 犯人手ヲ下スノ輕重ニ從テ刑ノ適用

第六條

萬國公法ニ對スル重罪輕罪

第三百五十八號 本犯ニ付人ヲ殺シタルノ刑、普通刑法及ヒ其重加

第七條

第三百五十九號 本犯未遂犯ノ刑

第八條

第三百六十號 本犯豫備ノ所爲ノ刑

第九條

第三百六十一號 本犯ノ共犯

第十條

第三百六十二號 外國ニ於テ裁判セラレタル場合ヲ除クノ外日本國之カ裁判權ヲ有スル事

第三百六十三號 縱ヒ犯人ハ外國人ナリト雖モ日本國ノ裁判管轄ニ屬スル事、海賊ノ事  
件ニ就テハ治外法權ノ原則適用セサル事

第三節 奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ルノ罪

第三百六十四號 米國及ヒ歐洲人ノ殖民地ニ於テ漸次ニ奴隸ヲ廢止セシ事

第三百六十五號 一般ノ賣奴禁止

第三百六十六號 日本國モ亦賣奴禁止ニ加入ス可シ、日本國ハ既ニ頃口其實例ヲ履行シ  
タリ(秘魯國船「マリア、リユーズ」號ノ事件)

第十一條

第三百六十七號 禁罰スヘキ賣奴ノ本質

第十二條

第三百六十八號 賣奴ニ付人ヲ殺シ又ハ暴虐ヲ加ヘタルノ刑

第十三條

第三百六十九號 賣奴ヲ豫備スル所爲ノ刑

第十四條

第三百七十號 賣奴犯ノ共犯

第十五條

第三百七十一號 自由人民ノ賣買

第三百七十二號 原草案ニ必用ナル追加

第三百七十三號 其購買者ハ縱ヒ日本人民ナルモ賣奴ヲ禁セサル國ニ於テハ罰セラレサ  
ルナリ

第十六條

第二百七十四號 外國人ニ對スル條規、海賊罪ト其趣ヲ異ニスル所以

第十七條

第二百七十五號 既ニ裁判セラレタル場合ヲ除キ日本人民ヲ日本國ニ於テ處斷スルコトニ

付第五條ヲ履マサル事

〔第二百四十二號〕 本章ハ初次ニ方テハ司法省委員之ヲ討議シテ收用シタリト雖モ其後確

定ノ編纂ノ時ニ至リ委員少數ノ反對説アルニ拘ハラズ遂ニ削除セラレタリ

故ニ此ノ少數ノ委員カ政府ノ委員ト元老院ノ委員トニ成ル合同委員ノ討議ニ本章ノ草案

ヲ附シ得シハ最モ拮据龍勉ノ勞ヲ取リシニ因ル然レモ其勉勞ニ拘ハラズ右合同委員ハ僅

ニ本章第一節ノ局外中立ヲ侵ス事件ニ二條ヲ收用セシノミニシテ(附言參看)海賊罪ノ賣

奴、自由人ノ賣買ニ就キ絶テ一言ノ及フナシ

〔附言〕 頒布刑法ハ外患ニ關スル重罪輕罪ニ二條(第百三十三條及ヒ第百三十四條)ヲ添

補シ其第百三十三條ハ著シク省略ヲ加ヘタリ

司法省ノ委員ハ之ヲ削除スルニ二箇ノ理由ヲ與ヘタリ前キノ合同委員ノ説モ大略之ニ外

ナラサルヤ敢テ疑ヲ容レスト雖モ一モ其意義確定ナラサルカ如シ

其第一ノ理由ハ即チ日本ニ於テハ海賊罪及ヒ奴隸賣買ノ犯罪ハ曾テ知ラサル所ナリト第

二ノ理由ハ即チ之ヲ規定シ置クヲ以テ適宜トセハ別段ノ法律ヲ作ルヘシト

〔第二百四十二號〕 第一ノ理由ハ甚タ日本國ニ諛フノ説ニシテ既往ニ在テハ未タ疑ナキニ

アラスト雖モ之ヲ果シテ然カリト言フヲ得可ケン然レモ將來ニ於テハ決シテ然ラサル可

シ夫レ日本ノ舊制ニ於テ全ク外國ト交通ヲ絶チシ時ニ方テハ日本ノ漁船又ハ此港ヨリ彼

ノ港ヘノ沿岸航行若クハ輪漕ヲ爲セル船舶ヘノ外海賊ノ所業ヲ行ヒ得サリシナル可シト

雖モ固ト是等ノ船ハ海岸ヲ離ル、コト鮮キカ故ニ海賊之ヲ襲フコト危ミタリシナラン又一

方ニハ海賊ハ遠洋ニ於テ外國ノ船舶ヲ襲フ爲メニ微弱ノ小舟ニ乘シテ危險ヲ冒スヲ得サ

リシナル可シ況ヤ日本人カ其知ラサリシ所ノ奴隸國ニ往テ黑奴ノ賣買ヲ爲スコトハ夢想

ニモ考ヘ得サリシナル可シ

然レモ今日ハ日本海及ヒ其周圍ノ海ニ於テ貨物ヲ積載シタル外國船ノ往來スル時ニシテ

又加フルニ冒險ノ徒遠ク其惡業ヲ及ホス爲メニ十分堅牢ナル船舶ヲ容易ニ備フルヲ得可

キ時ニ在テハ論者ノ唱フルカ如ク此危險ハ妄誕ナルモノニ非サルナリ

加フルニ又内國ノ謀叛ニ於テ失敗シタル艦隊アル殘徒ハ能ク脱走スルノ手段ヲ得テ以テ

其内亂ニ於テ失フタル勝利ヲ海上ニ險ヲ冒シテ萬一ヲ倖ムルニ至ルコトナシト謂フ可ラス

萬國公法ニ對スル重罪輕罪

然レ此立法者ノ主張セシ削除論ノ全價ヲシテ喪ハシムルモノハ夫ノ海賊罪、奴隸賣買ノ  
 犯罪ニ於テハ當ニ其犯人ノ日本人ナル時ニ限ラサル理アルコト是ナリ夫レ此ノ二罪ハ固ト  
 萬國公法ニ對スル重罪ニシテ萬國俱ニ之ヲ制スルノ權アリ故ニ其何國人タルヲ問ハス又  
 之ヲ日本海ニ於テ逮捕シタルト遠洋ニ於テ逮捕シタルトチ分タサルナリ然レハ則チ支那  
 東京又ハ「フエリツヒン」島ノ海賊カ或ハ日本海ニ於テ海賊ノ所業ヲ爲シ劫掠ヲ行ヒ或ハ遠  
 洋ニ於テ日本ノ軍艦之ヲ逮捕スルコトアルハ何ソ意想外ノ事ナランヤ且夫レ今日日本ニ於  
 テ法律ノ正條ナクシテ擅ニ刑ヲ施ス可ラス(刑法第二條ヲ看ヨ)若シ茲ニ論スル所ノ二箇  
 ノ重罪ヲ豫メ法律ニ規定シテ之ヲ罰スルナクンハ之ヲ禁スルコト難カルヘシ夫レ普通刑法  
 ニ規定スル所ノ故殺、持凶器盜、又ハ擅ニ人ヲ監禁スルノ刑ト雖モ實際適用ス可ラサルコ  
 屢アルヘシ何トナレハ若シ此等ノ罪遠洋ニ於テ犯ス者アル時ハ之ヲ日本國ニ於テ犯シタ  
 ルモノカ又ハ外國ニ於テ犯シタルモノカ人得テ斷スル能ハサレハナリ蓋シ文明各國ニ於  
 テ遠洋ノ警察權ヲ自任セシ所以ハ此ノ裁判管轄權ノ大法ヲ實施スルノ難アレハナリ  
 [第三百四十四號] 今ヤ茲ニ論スル所ノ刑罰ハ之ヲ刑法中ニ編入スヘキカ或ハ唯ダ別段ノ  
 條例ヲ設クヘキカ否ヲ討究スルアルノミ  
 委員中之ヲ別段ニ規定スルコト否マサルノ論者ハ本章ニ記スル犯罪即チ海賊罪及ヒ黑奴

ノ賣買ハ別段ノ性質アルニ因リ之ヲ刑法ニ編入スルヲ欲セサルナリ而シテ其論者ハ佛國  
 ノ刑法及ヒ其他各國ノ法典中此事項ニ關スル規則ナキノ適例ヲ引證セリ固ヨリ佛國ニ於  
 テ此事項ハ別段ノ法律ヲ以テ規定セリ即チ海賊罪ハ千八百二十五年四月十日ノ法律ヲ以  
 テシ又黑奴ノ賣買ハ千八百三十一年三月四日ノ法律ヲ以テセリ  
 然レ此千八百十年、千八百二十二年及ヒ千八百六十三年ノ三回ヲ經タル改正佛國刑法ニ  
 於テ如何ナル理由ヲ以テ其規則中ニ之ヲ加入セカリシカヲ討究スルハ無用ト謂フ可シ  
 論少シク慢ニ屬スレ此當時ノ立法者ハ之ヲ其規則中ニ加入スルヲ思考セカリシコト想像  
 セスシテ當時ノ時勢ヲ回顧スルヲ以テ自然ノ理ナリトス夫レ然リ千八百十年ニ方テハ海  
 賊罪ヲ罰スルニ當時已ニ舊法ニ屬セシモ尙ホ現行セシ所ノ海上律就中千六百八十一年ニ  
 成ル有名ノ所謂海上令ヲ以テセリ故ニ亦更ニ之ヲ規定スルノ必用莫カリキ奴隸賣買ニ至  
 リテハ佛國未タ其藩屬地ニテ(外邦ノ殖民ニ於テモ亦然リ(附言アリ)奴隸ノ使役ヲ許セシ  
 カ故ニ黑奴ノ賣買ヲ禁スルコトヲ思考セカリシナリ而シテ千八百三十二年刑法改訂ノ時ニ  
 方テハ右二箇ノ別段ナル條例新ニ發シテ鈴未タ乾カサルノ時ナレハ之ヲ考ヘモセカリキ  
 又千八百六十三年ノ改訂ハ僅々一小部ニ止リ亦立法者ノ頭腦ニ此ノ二事件ヲ刑法中ニ編  
 入スルコトヲ思出サ、リシ蓋シ刑法ノ順序ヲ錯淆スルノ弊アレハナリ夫ノ千八百三十二年

萬國公法ニ對スル重罪輕罪

ニ方テモ如斯緊要ナルニ事件ヲ刑法中ニ編入セザリシハ刑法ノ順序ト正條ノ番號ヲ保續スヘカラサルヲ恐レテナリ

〔附言〕 佛蘭西ノ藩屬地ニ於テ一般ニ奴隸ヲ廢セシハ實ニ千八百四十八年ニ起元ス恰モ國事犯ニ死刑ヲ廢スルト同時ナリ是レ蓋シ第二共和政府ノ最モ美舉中ノ一ニ居ルモノナリ

然レモ日本ノ刑法ヲ編スルノ時ニ方テハ其情勢甚タ佛國ト異リ即チ日本ニ於テハ舊來ノ刑法ヲ改正スルニアラスシテ更ニ完ク新奇ノ刑法ヲ創造スルナリ且別ニ本件ヲ規定スルノ條例未ダナケレハ之ヲ刑法ニ編入スルハ容易ノ業ニシテ亦自然ノ理ナリ

又此犯罪ノ日本海ニ於テ稀ナルヲ許シ且ツ日本ノ軍艦カ遠洋ニ於テ海賊又ハ奴隸賣買人ヲ捕フルヲ鮮キヲ視テ此ヲ別段ノ法律ニ掲載スルノ理ナキナリ其レ然リ其刑ヲ刑法即チ一般ノ法典ニ掲ルカ若クハ別段ノ法律ニ掲ル所以ノモノハ犯罪ノ屢々ナルカ又ハ其稀ナルカ爲メニ非スシテ其刑罰ノ一定不變ナルヲ期シ或ハ不變ナラサルモ豫メ其アラソク先定スルノミ

其他刑法ハ犯罪ノ稀少ナルモノヲ規定シテ之ヲ罰ス其稀少ナルハ素ヨリ希望スル所ナリ例ヘハ鐵道ヲ破壞シ國璽又ハ投票ヲ廢滅シ堤防ヲ決潰シ船舶ヲ覆没スル等ノ數罪ナリ之

ヲ刑法中ニ列載セシ所以ノ理ハ其刑典ヲタモ善良ニ規定シ置クハ大抵其ニ泄レサレハナリ之ニ反シ出版及ヒ言論ニ關スル犯罪ニ付テハ其屢々出來スルニ拘ハラス之ヲ別段ノ法律ニ讓ル所以ノモノハ此事項ニ於ケル法律上ノ規則ハ國ノ政治上ノ情狀ニ基ヒテ設ルモノニシテ屢々之ヲ變更セサルヲ得サルニアルナリ

歐洲數國ノ刑法ニ於テモ亦佛國ノ刑法ニ於ケルカ如ク其規則中ニ海賊罪及ヒ黑奴ノ賣買ヲ掲載セスシテ之ヲ別段ノ條例トス然レモ眼ヲ轉シテ之ヲ觀レハ二三ノ國ノ更ニ新キ刑法ハ余カ今日本ノ爲ニ計ル方法ヲ以テ制定シタルモノアリ即チ英領印度ノ爲メニ設ケタル英ノ刑法ノ如キハ黑奴ノ賣買ヲ禁スル規則ヲ明記セリ又埃國ノ刑法ニ於テモ其規則中ニ黑奴ノ賣買及ヒ海賊罪ヲ加入セリ又最モ新シキ法タル墨西哥ノ刑法ニ於テモ之ト同様ニ制定セリ和蘭ノ新刑法ハ多分未ダ頒布ニ至ラザラン歟ト雖モ(余ハ未ダ其頒布ヲ明言スル能ハス)斯ノ如キ海國ノ法ニ於テハ此ニ罪ノ如キ深ク航海ニ關スルモノヲ其刑法ニ明記スルヲ解ラサル可キハ殆ト確實ナリトス

〔第二百四十五號〕 本論ヲ了ラントスルニ臨ミ茲ニ本件ノ規則ヲ別段ノ法律ニ讓ルノ大ナル不便ヲ言ハシ論者ハ此ノ法律ハ種々ノ條件ニ成リ特別ノ思想ヲ含ミ殊異ノ感情ヲ有シ且完ク新奇ニシテ日本ニ於テハ未ダ曾テ有ラサルノ罪ヲ制スルモノナレハ日本刑法ノ諸

條ト相容レスシテ合致セサランコト恐レタリ此ノ相容レサルノ宿弊ハ佛國及ヒ其他ノ法律ニ於テモ普通刑法ヲ以テ別段ノ條例ニ對照スルキハ往々其著シキヲ見ル日本ニ於テモ亦此ノ恐レ掛カラサルヘシ

故ニ到底余ハ本草案ニ於テ海賊罪奴隸賣買ノ罪ヲ規定シ併セテ自由人ヲ奴隸トシテ賣買スルノ罪ヲモ罰センコトヲ定立スルノ好機會ヲ得タリト信ス

局外中立ヲ侵スノ罪ニ付テハ嚴格ニ論スレハ之ヲ規定スルノ諸正條ヲ前章ニ列記スルヲ得ヘシ何トナレハ局外中立ヲ侵犯スルノ罪事ハ固ヨリ外患ヲ惹起スヘキモノナレハナリ

然レモ業已ニ「萬國公法ニ對スル罪」ノ一章ヲ設ケタル已上ハ局外中立ヲ侵スノ罪ハ本章中ニ列記セラルヲ以テ事理ノ自然ヲ得タルモノトス

〔第三百四十六號〕 茲ニ暫ク「萬國公法ニ對スル罪」ト云フ表題ニ付説ク所アラントス

夫レ萬國公法ナル語ハ二ノ意義ヲ包含スルヲ得而シテ二意義共ニ相似近スル處アレモ亦全ク同意一義ニアラサルナリ而シテ二者各其意義ノ在ル所ヲ茲ニ見ルヘシ其本源ノ意義ハ元ト羅馬人ニ淵源シ今日ニ於テモ尙ホ其意味ヲ以テ通用スルモノアリ即チ「各國内ニテ行ハル、處ノ各人民ニ普通ノ法律」ト云フ義ナリ其レ然リ實ニ「ジュヌスチニアン」帝（羅馬）カ之カ解ヲ爲セシハ次ノ如シ「自然ノ天理ニ因テ衆庶ノ間ニ行ハル法律ナリ而シテ亦均

ク各國人民ノ間ニ行ハル、モノナリ故ニ之ヲ名ケテ萬國通法ト稱フ其萬國ニ通用スル故ナリ（附言參看）「ジュヌスチニアン」帝ノ解ニ由テ之ヲ觀レハ帝ハ萬國通法ヲ公法ト考ヘシヨリモ寧ロ私法ト認メシモノ、如シ然レモ其公利公益ニ關スルト人々個々ノ私利ニ關スルトナ間ハス萬國公法ノ淵源ハ帝ノ言ヒシ如ク常ニ同一ニシテ乃チ自然ノ天理ニ基キ宇宙ノ間均ク行ハル、モノナリ

〔附言〕 天地自然ノ理ニ據テ衆庶ノ間ニ設ケ行ハル、法律ハ亦均ク各國人民ノ間ニ行ハル、ヲ以テ之ヲ萬國通法ト謂フ蓋シ殆ト各國ノ襲用スル所ナレハナリ（羅馬法典第一卷第二章第一項）（羅典文）

今其第一ノ意義ニ照ラスキハ海賊罪及ヒ奴隸賣買ノ罪ハ性法即チ人間法ヲ犯スモノナリ（附言參看）

〔附言〕 然レモ羅馬時代ニ在テハ奴隸賣買ハ萬國公法ニ對スル罪ニアラサリキ何トナレハ奴隸ハ公法ノ容ル所ニシテ又殆ト當時各國之ヲ容ルシタレハナリ  
第二ノ意義即チ「萬國公法」ナル語ハ輒近國ト國トノ關係ヲ指ス所ノ所謂「國際法」ナル語ト同字義ナリ其國ト國トノ關係トハ乃チ或ハ締盟ノ條約ニ因テ成リ或ハ唯天地ノ公道萬國ノ通義ニ因テ成ルアリ



局外中立ヲ侵スノ罪ハ則チ前記ノ意義ニ少シク收縮ヲ加ヘタル所ノ萬國公法ニ對スル犯罪ナリトス

第一節 局外中立ヲ侵スノ罪

第一條

〔第二百四十七號〕 本條ニ記載スル主要ノ規則ハ原ヨリ新奇ノ法制ニアラス乃チ佛蘭西刑法ノ二條(第八十四條及ヒ第八十五條)ヲ寫シタルモノナリ其他外邦ノ法典中ニモ亦多ク散見スルアリ(附言參看)然レ此等各國ノ法典中未タ嘗テ罪事ノ情况ニ從テ法律ヲ適用スルニ要用ナル細則コ入りタルモノアラス

〔附言〕 日耳曼ノ法典第百二條白耳義ノ法典第百二十三條伊太利ノ草案第百二十八條此規則ハ日本ニ於テ別段ノ裨益有ルカ如シ本邦ニ於テ維新以來威權ヲ有シ特ニ舊士族ノ人望ヲ得タリシ數輩屢々征韓ノ說ヲ主張シ政府ニ於テ朝鮮ニ對シ親睦平和ノ處置ヲ爲セルヲ誹謗セシコアリタリ且ツ是等ノ諸人ハ日本ニ於テ太々遺憾ニ堪ヘサルコアレヒ平和懇親ヲ存セント欲シタル此隣國ニ對シテ私ニ遠征ヲ企ツルノ念ヲ離レタルコナカル可シ斯ノ如キ企圖ハ不平黨ノ起シタル内亂ニ比スレハ必ス國ノ不幸甚ナカリシナラン然レヒ初メ刑法ヲ編スル時ニ方テハ其他ノ惡謀ト同ク之ヲ豫定スルヲ得ヘシ加之ナラス内亂ニ

對スルカ如ク此企圖ニ對スル刑ヲ記載スルヲ以テ賢良ナリトス  
日本人政府ノ允許ナクシテ斯ノ如ク日本人ヲ以テ遠征ヲ企ツル時ハ政府チノ襲撃セラレタル國ヨリ重大ノ復讐ヲ受ルニ至ラシムルノミナラス其同盟國ヨリ重大ノ復讐ヲ受ルニ至ラン且ツ是レカ爲メ日本チノ外國ト交戦スルニ至ラシムルヲ得可キヲ疑ヲ容レサル所ナリ

〔第二百四十八號〕 爰ニ本條ニ記シタル刑ノ性質及ヒ程度ニ就テ聊カ説明ス可キモノアリ先ツ此ノ性質ノ犯罪ニ適スル國事犯ノ性質ヲ有ス又頗ル寛大ナリ何トナレハ何レモ無期ノ刑ニ非ルノミナラス十六年ヨリ二十年マテノ有期流刑ニ至ラサレハナリ實ニ本條ニ關スル所ノ行爲ハ次ノ二節ニ論スル所ノ他ノ行爲ニ比スレハ道德ニ背クコト大ニ少フシテ毫モ本國ニ對スル叛逆ノ性質ヲ有セス寧ロ無謀不法ナル過激ノ熱心ヨリ起リタルモノト云フヘシ是余カ之ヲ前章ヨリ離シタル所以ナリ

本條ニ於テハ其遠征中ニ犯人ノ爲シタル職務ノ輕重ヲ酌量シ其首魁及ヒ其首謀ト成リ權威ヲ行フタル者ト尋常ノ共犯トヲ區別セリ

又既遂犯罪ト未遂犯罪ト唯タ豫備ノ犯罪トノ要用ナル區別ヲ存セリ

法律ハ豫メ茲ニ未遂犯及ヒ豫備ノ所爲ト成ルヘキ事件ヲ定メタリ(第四項及ヒ第五項)

局外中立ヲ侵スノ罪

數人ノ協議ニ係ル犯罪ノ決心即チ陰謀ニ付テハ毫モ之ヲ論セサルナリ何トナレハ立法者其社會ヲ害スル極メテ明白ナラサルヲ以テ之ヲ罰スル必要ナルヲ思考セサレハナリ又行フテ遂ケサル犯罪ニ付テモ毫モ論セズ然リト雖モ本條ニ於テ最モ嚴刑ヲ以テ罰スルハ特ニ此場合ナリト看做サ、ル可ラス何トナレハ本條ニ於テハ既ニ出發シタル遠征ノ舉動ト及ヒ之ヲ號令シタル者トヲ罰スレハナリ夫レ遠征兵既ニ日本ノ港口ヲ離ルレハ即チ出發シタルモノニシテ遠征ハ既ニ企テラレタルナリ其罪ハ犯セルナリ其事ハ遂ケタルナリ故ニ其遠征ノ目的ヲ達シタルカ又ハ唯外國ノ港ニ到着シタルニ過キサルカヲ審窮スルヲ要セス

之ニ反シテ若シ其遠征兵日本ノ港口ニ於テ阻遏セラレタル時ハ其遠征ハ唯未遂ニ過キサルモノニシテ行フテ遂ケサルモノニ非ルナリ

〔第二百四十九號〕 本條ノ註解ヲ終ルニ臨ミ一言ノ注意ヲ喚フモノアリ即チ本刑ノ適用ハ免許ナキ遠征ヲ企テラレタル國ト日本國ト交戦ヲ布告セサル時ニ限ル事是ナリ然レモ若シ日本國之ト交戦スルキハ日本政府ハ如斯キ所爲ヲ禁遏スルノ權力ナシト言フニアラス固ヨリ免許ナキ遠征ノ如キハ交戦國ノ間ニ平和ノ調停ヲ妨クヘキモノナレハ政府ハ常ニ國安ヲ維持スル爲メニ人民私ノ編隊、武裝、遠征ノ出發等ヲ禁シ且之ヲ海賊ノ豫

備トシテ懲罰スルヲ得ヘシ蓋シ是ヲナシテ妨ナカルヘキナリ(次ノ第八條ヲ看ヨ)

第二條

〔第二百五十號〕 前條記スル所ノ犯罪ハ國ノ外交ヲ害スヘキモノト雖モ其心術ノ惡ニ至テ

ハ第二章ニ定メタル重罪輕罪ヨリモ第二章ニ定メタル重罪輕罪ト類似スルモノ多シ是茲ニ第二章ノ數多ノ正條ニ參照ヲ需ムルノ多キ所以ナリ

第一 本條ニ於テモ亦國ノ靜謐ニ關スル罪ニ於ルカ如ク遠征ノ企圖ヨリ退去シタル者又ハ有用ノ時間内ニ告發シタル者ニ第百四十一條第百四十二條及ヒ第百四十三條ニ記スル區別ニ從ヒ刑ノ全免又ハ輕減ヲ與ルノ利益アルヲ同一ナリ

第二 此ノ遠征ノ時機ニ方リ又ハ其豫備ノ時ニ於テ尋常ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルハ第百四十四條ニ記セシ如ク尋常ノ刑ヲ以テ論ス

第三 或者カ遠征準備ノタメ集會場ヲ貸與シタルノ所爲ハ國ノ靜謐ニ對シ陰謀ヲ企ツル時ヨリモ稀ナルヘシト雖モ茲ニ全ク之ヲ不問ニ附ス可ラス乃チ第百四十六條ヲ適用スヘキ所ナリ

第四 犯人禁錮ノ刑ヲ受ケタル後其刑ノ少シク輕カリシカタメ其企圖ヲ再犯スルノ恐アルヘシ故ニ第百四十七條ニ照シテ之ニ監視刑ヲ附加スルヲ善シトス

局外中立ヲ侵スノ罪

第五 日本ニ於テ外國人其本國ト交戦スル他ノ外國ニ對シ遠征ヲ企テタル者ハ(但シ日本國ハ之ト交戦セサル時)日本國ノタメ危險ノ所爲タルヤ明カナリ然レモ其心術ノ黠ニ於テ其所爲甚タ惡ムヘキニアラス宜ク日本國ニ對シテ直接ニ敵對ヲ圖リシ時ノ如ク其刑ノ一等ヲ減スルノ恩典ヲ與フヘシ然レモ外國人日本國ノ靜謐ニ對シ罪ヲ犯セシ時ハ固ヨリ刑ノ減等ヲ得サルモノナレハ本條ハ惟タ第三章(第百五十六條)ニ照合テ假リシモノナルヲ注意スヘシ(第五百四葉ヲ看ヨ)

第六 外國ニ對シ法ニ背キテ海上ノ遠征ヲ企テシ者ハ其方法ニヨリ(或ハ其目的ニ於テモ)惡事ニ變シ易キモノナレハ法律ハ概テ之ヲ海賊ノ所業ヲ期スルモノトシテ禁スルヲ得之ニ就キ其參照ヲ本章ノ第二節ニナシタリ

〔第二百五十一號〕 本犯ノ重大ナルカ故本條ハ其明文ニ船舶兵器糧食等ノ沒收ヲ記載ス然レモ之ナキモ固ヨリ茲ニ總則ヲ適用シテ可ナリ(第五十五條ヲ看ヨ)  
 沒收ノ物件固ト分別ス可ラサルノ性質ナルニ因リ未遂ノ場合ト雖モ敢テ之ニ減省ヲ加ヘタルヲナシ然レモ當テ豫備ノ所爲ノ場合ニ於テハ之ヲ申渡ス可ラス(次ノ第五條第七條及ヒ第十一條ヲ比較スヘシ)(附言參看)

〔附言〕 此ノ沒收物件ノ分別スヘカラサル性質アルノ説ハ是マテ不注意ニ由テ之ヲ言

フヲ忘レタリ實ハ第八十七條ノ下(第二百五十一葉)又ハ第百二十五條ノ下(第四百十一葉)ニ記載スヘキ所ナリキ

第三條

〔第二百五十二號〕 近世ニ至テハ二國ノ間ニ戰爭起ル時諸國ノ政府ハ自國ノ利益又ハ國威ヲ害セラレントスル時ノ外其戰爭ニ加ハラサルヲ務メタリ而シテ自國ノ利益又ハ國威ヲ害セラレタル場合ニ於テハ局外中立ニ止マルナリ

其局外中立ニ止マリタル國ニ於テハ其人民自カラモ亦局外中立ヲ守リテ以テ交戦國へ兵器彈藥等ヲ給セサルヲ緊要トス是レ國民其私利ヲ謀ルノ慾ニヨリテ深ク慮ラスシテ敢テ爲スニ至ル可キ所ノ事タリ若シ國民兵器等ヲ給セシ時ハ其投機商ノ屬スル國ハ之レカ報復即チ復讎ヲ受ルノ難ニ遇ヒ其交戦國中ノ一ヲ助クルノ疑ヲ受ケ且ツ其國ニ於テハ戰ヲ欲セスト雖モ遂ニ交戦ニ至ル可ケレハナリ

是レカ爲メ固ク局外中立ヲ欲スルノ國ニ於テハ公然其局外中立ノ布告ヲ爲スノ慣習アリ又其同時ニ國民ニ對シテ局外中立ヲ侵シタル時ノ刑罰ヲ示セリ而シテ若シ其國從來ノ法律上ニ於テ確定シテ豫メ其刑ヲ定メタルモノアル時ハ局外中立ノ布告書ニ之ヲ追記シテ以テ國民ニ記セシムルナリ

局外中立ヲ侵スノ罪

然レモ局外中立ノ布告ヲナサ、リシカ爲メ國ハ則チ局外ノ利益ヲ失ヒ中立ノ權利ヲ有セサルモノト信ス可ラス其交戰國ト甚タ遠隔スルト其成敗ニ痛痒相ヒ關セサルトニ由テ自ラ局外中立タルコトヲ認定スルニ足ルノ場合アリ抑モ亦局外中立ハ交戰國ニアラサル諸國ノ普通法ナリ然レモ本條ニ定メタル刑ヲ適用セント欲セハ局外中立ノ布告アルチ必用ナリトス夫ノ第一條ノ適用ノ如ク其記載スル犯罪ノ重大ナルコト由リ此ノ豫先ノ布告ヲ要セサルモノニ比スレハ大ナル差等アリテ未タ同日ニ論ス可ラサルナリ

本邦ハ維新已來文明諸國中ニ於テ名譽アル地位ヲ占メント欲スルチ以テ將來若シ遠近諸國ノ間ニ戰爭起ル時ハ必ス萬國公法上ノ慣例ニ倣フ可キナリ又本邦ニ於テハ交戰國ナシテ必ス其局外中立ヲ犯サ、ラシムルコトヲ注意ス可キナリ是レカ爲メニハ自國ノ人民其交戰國ノ一方ヘ兵器及ヒ彈藥ヲ給シテ以テ自カラ其局外中立ヲ破ラサルコトヲ注意スヘシ局外中立ヲ破リタル罪ノ刑ヲ豫チテ刑法中ニ記載シ置ケハ局外中立ヲ布告スル場合ニ於テハ其布告書ニ之ヲ追記スルチ以テ足ル可シ

〔第二百五十三號〕本條ニ於テハ「局外中立ヲ破リタル」モノトス可キ行爲ノ性質ヲ定メタルナリ

歐米ニ於テモ此局外中立ヲ破ルト云ヘル語ノ區域ニ就テハ尙ホ頗ル重大ナル異說アリ

一般ニ戰時「密賣品」ヲ交戰國ノ一方ヘ給スルノ所爲ヲ稱シテ局外中立ヲ破ルモノト云フ然レモ戰時「密賣品」タルモノト密賣品ニ非サルモノトヲ定ムルニ方テ再ヒ困難ヲ生セリ「密賣品」中ニ兵器發藥ノ兵艦又ハ兵艦トナルヘキ船舶兵衆ヲ運漕スルタメニ裝具シタル船等ニ入ルコトニ異論スル者ナシ然レモ斥候船ニ供スヘキ小形ノ船舶ニ至テ之ヲ奈何スヘキカノ疑アリ亦石炭糧食船具等ニ於ルモ疑ヲ免レス

若シ局外中立國ノ船艦封鎖セル港口ニ闖入スル時ハ確乎ト局外中立ヲ侵スモノト認ム何トナレハ港口封鎖ハ其目的封鎖セラル、國ヲ妨害スルニ在リト雖モ亦局外中立國ノ港内ニ入ルチ杜クテ以テ最モ其務トスレハナリ

交戰國ノ一方ニ向テ陸海遠征ノ組織ヲナスハ局外中立ヲ破ルノ罪タルヤ亦言フチ跋ヲス是最モ重大ノ場合ナリ然レモ第一條ニ於テ之ヲ規定シ本條ニ於テハ殊ニ之ヲ省略シタリ且又日本人カ人々一箇ニ交戰國ノ一方ノ軍隊ニ加ルノ所爲ハ局外中立ヲ侵ス罪ト看做ス可カラス是法律ノ得テ制止スヘカラサル人々ノ自由ヲ行フタレハナリ抑モ亦人々ノ所爲ハ敵國ノ復讐ヲ來スモノニアラサレハナリ

茲ニ又萬國公法ノ疑問ヲ論スル著述者中ニテ此事件ヲ大ニ議論スルモノアリ就テ見ルヘシ畢竟スルニ立法者ハ本件ノ犯人ニ對シ刑ノ原則ヲ設ケタルニ止マル故ニ若シ其場合生

局外中立ヲ侵スノ罪

シタル時ハ本件ノ原則ニ從ヒ傍ラ最モ確實ナル萬國公法上ノ慣例ニ照シテ之ヲ判決スヘシ而シテ罪ノ疑ハシキハ其被告人ヲ放免スヘキノミ本條ノ適用スル種様ノ場合ニ於テ其刑ヲ稍々輕クシタリ何トナレハ立法者ハ局外中立ヲ犯サレタル交戰國ニ屬スル沒收權ヲ豫メ算スレハナリ蓋シ局外中立ヲ侵サントシテ失敗シタル場合ニ於テハ交戰國ハ此ノ沒收權ヲ行フ事ヲ敢テ猶豫セサルヘケレハナリ

爰ニ規定スル犯罪ハ尙ホ國事犯ナレハ其刑ハ輕禁錮ニ於テ乃チ定役ナキモノ

若シ日本國ニ於テ豫メ局外中立ノ布告ヲナサ、リシキハ初メコ言ヒシ如ク本條ニ記載スル所爲ハ罰セラレサルヘシ但タ公ケケノ安寧ヲ保ツノ條例ニ據テ之ヲ制止スヘキノミ

第四條

〔第三百五十四號〕 一般ニ歐洲各國ノ法律ハ外交官ニ對シ新聞又ハ公ケケノ演說ニ據テ罵詈訾ヲ加ヘタル者ヲ頗ル嚴重ニ禁罰ス又同上ノ法律ハ善ク外國ノ帝王君長ニ對スル同上ノ犯罪ヲ罰スト雖モ更ニ一步ヲ進ンテ此等ノ人ニ對シ其他ノ重罪輕罪ヲ犯セシ者ヲ規定スルコトナシ(附言參看)

〔附言〕 千八百六十七年佛蘭西ニ於テ魯西亞帝歷山王第一世巴理ノ萬國博覽會ノ際佛帝拿破崙第二世ノ賓客トシテ佛國ニ駐紮セシ時波蘭人魯帝ヲ弑セントス當時特別ニ法律

ナキヲ以テ唯タ普通刑法ヲ之ニ適用スルノ外ナカリキ而シテ今其普通刑法ニ據レハ本件ハ豫メ謀リ人ヲ死ニ致サントスルノ所爲ニ係レハ其刑ハ謀殺ノ刑ニシテ即チ死刑ナリ然ルニ事實ニ於テ其罪ヲ果サス闕効シタルヲ以テ陪審ハ之ニ酌量輕減ヲ與ヘ其刑ヲ無期徒刑ニ降セリ

今日本ニ於テ外國ノ君長新聞又ハ其他ノ方ニ依テ毀害ヲ被ルノ患ハナキカ如シト雖モ日本駐劄ノ外交官ニ對スル重罪就中輕罪ヲ豫メ規定スルヲ有用ナリトス何トナレハ日本政府ト外國トノ關係ニ紛紜ヲ生シ將ニ交際ノ破裂セントスルノ時機ニ際シテハ無謀ノ愛國心頓ニ激張シ人々敵愾ノ氣ヲ生シ遂ニ過激ノ徒ヲシテ不正ノ所行ヲ爲サシムルニ至リ或ハ外交官ニ罵詈侮辱ヲ與ヘ或ハ公使館ヲ襲ヒ或ハ其他重大ノ事ヲ爲スニ至ルコトアルヘケレハナリ

如斯キ所爲ハ乃チ萬國公法ヲ侵スノ罪ニシテ政府ヲシテ重償ヲ出サシメ國威ヲ傷クルノ要求ニ應セシメ遂ニ外交ノ平和ヲ糜亂スルニ至ラシムヘキノナリ然ルニ此等ノ犯人ニ普通刑法ノ刑ヨリ外ニ適用スヘキノナシトハ豈遺憾ノ事ナラズヤ普通刑法ノ刑ヲハ爰ニ適用スルキハ往々輕キニ失スルノ患アリ罵詈及ヒ家宅侵犯ノ罪ニ對シテハ殊ニ然リトス

局外中立ヲ侵スノ罪

然リト雖モ外交官ニ對シテアルヘキ總テノ犯罪ヲ規定シテ之ヲ別段ノ刑ヲ以テ罰スヘシト云フ極論ヲナス可カラス別段ノ刑モ固ト普通刑法ノ刑ヲ多少重クシタルモノニ外ナラサルナリ

又重罪輕罪ノ普通刑ノ各總テ一等ヲ重クスルモノト思考ス可ラズ是レ外交官ヲ遇スルニ日本皇帝陛下ト同フスルモノナリ又縱ヒ外國君長ノ名代人ノ資格ヲ何程高等ニ進ムルモ未タ嘗テ之ヲ君長其人ト同視スルニ至ラズ(附言參看)

〔附言〕 外交官ノ君王其人ヲ代表スルニアラスシテ其國政府ヲ代表スルノ實例古來尠シトセス故ニ公使ノ謁見ノ式ノ如キモ各國君王ノ間ニ行ハル、ノ例ヲ履マス又其恭禮モ君王其人ニ竭クスモノトハ大ニ異ナルナリ

今ヨリ論セントスルモノハ正條ニ明記スル刑ノ至重ナルモノヲ科スル事ニ係ルノミ(附言參看)

〔附言〕 直ニ至重ノ刑ヲ科スル場合ハ第二百二十葉ノ附言ニ既ニ示サレタリ其事甚タ稀ナルカ故動モスレハ人之ヲ怠忘スルナリ

又一方ニ於テハ外交官ニ對シ其外交官ノ資格アルカ爲メニ犯罪シタレハ(此事亦正條ニモ明記セリ)本犯ハ國事犯ト看做サルヘキト多カルヘシ故ニ本刑ノ重禁錮ヲ變シテ輕禁錮トスル

錮トス

斯ク刑ノ性質ヲ輕クスルハ第一條ニ枚舉スル輕罪ニ限ルノミ又其情ノ未タ重罪ト成ラサル間ハ外交官ノ身體ヲ監禁シタル罪ニモ適用ス然レモ外交官ニ對スル殴打創傷ノ輕罪及ヒ其他ノ重罪ニ適用セス此等ノ罪ニ對スル刑ハ本條ニ明記セシ如ク本刑ノ至重ヲ科スヘキナリ

本條ハ外交官ノ身體ニ關スル犯罪ヲ按定シテ其財產ニ對スル罪ヲ除ヒテ明記セス蓋シ外交秘密書ヲ竊取スルノ外、外交官ノ財產ニ對スル犯罪ハ其官務ニ關係ノ點ヲ審檢スルト容易ナラサレハナリ而シテ此ノ秘密書竊取ノ罪ハ別ニ規定スル程ノ價ナシ

〔第三百五十五號〕 縱ヒ日本國ニ於テハ外國ノ君長ニ對スル犯罪ノアラントハ深ク愛ルニ足ラスト雖モ今ヤ前條ノ制規ヲ日本政府ノ賓客トシテ來朝スル處ノ外國ノ皇族ニ敷延スルノ時勢ニ到レリ數年來外賓ノ日本ニ來ル者實ニ其例尠カラサルナリ

其賓客ナル資格ヲ認ムルニハ外國ノ皇族日本ニ來遊シ皇居内又ハ政府ノ外賓館ニ駐留セシヲ以テ充分ナリトス唯其來遊セシ皇族ハ日本港内ニ停泊スル軍艦ノ指揮官ナリシ時ニ於テ本條ヲ應用スルヤノ疑團アルノミ然レモ若シ皇族公務上皇居ニ參内スルカ又ハ大權ノ門ニ來謁スル時ニ當リ之ニ凌辱ヲ加ヘシ者アラハ本條ヲ適用スヘキハ理勢ノ然ラシム

局外中立ヲ侵スノ罪

ル所亦疑ヲ容レヌ

又縦ヒ來遊ノ皇族親王<sup>○</sup>微服<sup>○</sup>シテ來ルモ其微服ハ唯儀式上ニ就キ微服セシノミニテ全ク假裝<sup>○</sup>外ナラスシテ其皇族タルノ資格判然人目ニ照シ犯人モ其皇族ナルヲ知リテ故テ之ニ凌害ヲ加ヘタル<sup>○</sup>ハ亦我本條ヲ適用スヘキナリ  
之ニ反シ若シ皇族又ハ外交官日本國ヲ去リシ後又ハ未タ來ラサル前新聞又ハ演說ニ仍リ誹謗ヲナセシ者ニハ本條ノ各項共ニ適用セサル所ナリ  
看官ハ本條ノ何人ヲ論セス云々ノ罰文ヲ注意セラルヘシ乃チ知ル本條ハ犯人ノ日本人タルト外國人ナルトヲ分タサルナリ

第二節 海賊罪

第五條

〔第三百五十六號〕 海賊罪ハ本條ニ定ル所ノ該犯組成ノ性質ニ據レハ恰モ海上ノ行劫ニシテ乃チ陸地ノ持兇器盜又ハ強盜ニ類スルモノナリ  
次條ニ定メル殺人ノ罪ハ海賊罪ノ本然ノ性質ニ非サルヲ夫ノ強盜ニ於ケルカ如シ而シテ亦海賊罪ヲ變更輕重スルモノニアラス寧ロ人ヲ殺スノ罪反テ海賊罪ニ由テ加重サル、夫ノ強盜ノ所爲ニ依リ強奪ヲ容易ナラシメンカタメ人ヲ殺シタル罪ヲ輕重變更スルト一

般ナリ

夫レ海賊罪ヲ逐次分析スレハ其犯者ハ日本船ト外國船トヲ問ハス必ス船ニ乗ル可キヲ主要シ並ニ海上ニ於テ劫掠ヲ爲シ即チ日本ノ遠洋又所謂沿岸<sup>○</sup>海<sup>○</sup>ニ於テ劫掠ヲ爲シタルヲ要スルヲ見ル可シ矧ヤ外國ノ沿岸海ヲ除クノ外日本ノ海灣港浦内ニ於テスルモノオヤ故ニ若シ日本ノ河川ニ於テ劫掠ヲ爲セシ時ハ通常ノ規則ヲ之ニ適用シ強盜トシテ之ヲ罰ス可キノミ是已ニ萬國公法ニ對スルノ罪ニアラサルナリ之ニ反シテ若シ遠洋ニ於テ其劫掠ヲ爲シタル時ハ之ヲ裁判スルノ權ハ其海賊ヲ捕獲シタル國ノ船艦ニ屬スルヲ近世萬國公法ノ原則タレハナリ

又海賊ノ襲ニ遇フタル船舶日本ノ船タルカ若クハ外國ノ船タルカヲ區別スルニ及ハサル事モ同海上警察ノ權ニ由ル所ナリ  
然レモ本條ノ決シテ許ルサ、ルモノアリ即チ未タ捕獲サレサル海賊ヲ闕席裁判ノ方ニ依テ裁判スル事はナリ蓋シ之ヲ捕獲スルニアテスンハ罪事ノ性質輕重及ヒ犯人ノ同異ヲ證明スルヲ甚タ困難ナレハナリ

本條ノ區別ハ嘗テ法律ニ於テ謀反及ヒ一揆ニ關シテ爲シタル所ノ區別ニ同シ(第百二十四條及ヒ其次條ヲ看ヨ)此ノ前ノ第一條ニ定メタル遠征犯ノ區別モ亦同シ即チ該船ノ司

海賊罪

令長及ヒ職船者又ハ該船ノ所有者若クハ該船ヲ借リテ海賊ノ所業ヲ行ハシカ爲メ之ニ武器ヲ備ヘ諸人ヲ乘組マシメタル者ヲ其最モ重キ者ト爲シ其他ノ士官即チ該船ニ於テ威權ヲ行フタル者ヲ其次ト爲シ而シテ尋常ノ乘組人ハ原ヨリ發企シタルコトナク亦加擔ノ効力多カラサルコト依リ道德上ヨリ論スレハ罪ノ輕キヲ以テ之ヲ第三ト爲セリ

此三等ノ犯人ニ對シテ記シタル刑ハ陸地ニ於テ犯シタル強盜ノ刑ニ比スレハ更ニ重キモノタルヤ一目瞭然タリ  
其船舶ヲ沒收スルハ普通法律ニ適スルモノナリ何トナレハ茲ニ其船舶ハ乃チ犯罪ノ器械タレハナリ

然レモ本條其沒收ヲ明記セサルヲ得サル所以ニアリ先ツ第一ニ尋常ノ場合ト異ナリテ此沒收ノ重大ナルカ爲メナリ又此沒收ハ該船中ニ在ル所ノ諸物件ニ之ヲ及ホスカ故ナリ實ニ法律ノ眼ヲ以テ之ヲ觀レハ該船中ニ在ル所ノ諸物件ハ其犯罪ノ器械或ハ其犯罪ノ所獲タルモノナレハナリ

第六條

〔第二百五十八號〕 本條海賊犯ニ因テ人ヲ殺シタル者ヲ死刑ニ處スルヲ以テ或點ニ於テハ普通法律ノ殺人犯ニ符合スルモノアリ或點ニ於テハ普通法律ヲ離ル、モノアリ

其符合スルモノトハ人ヲ殺スノ罪ヲ犯シ若クハ之ヲ命令シタルカ故ニ恰モ盜奪ヲ遂ケ易カラシメ若クハ其刑ヲ免カル、ヲ目的ト爲シタル謀殺故殺ノ犯人ト成リタル者ニ於テナリ

其離ル、モノトハ人ヲ殺スヲ命シタルコトナシト雖モ之ヲ制止スルヲ得テ制止セサリシ事ノミヲ以テ死刑ニ處セラル、所ノ船長ニ關シテナリ蓋シ船長ハ都テノ乘組人ニ對シテ殆ト無限ノ權ヲ有スルカ故ニ其制止セサリシ事ハ命令シタル事ト看做シ得レハナリ

第七條

〔第二百五十九號〕 茲ニ尙ホ本條ハ普通法律ノ重罪ニ比スレハ更ニ其刑ヲ嚴ニセリ常律上ノ重罪ハ未遂ニ止マリタル場合ニ於テハ二等或ハ三等ヲ減シテ之ヲ罰スレハナリ  
茲ニ常律ノ如ク二等又ハ三等ヲ減セス唯一等若クハ二等ヲ減ストシ減等ノ數ヲ減シタルノ目的ハ次條ニ記スルカ如キ唯犯罪豫備ノ行爲ニ止マリタル場合ニ於テ尙ホ頗ル重刑ヲ科スルノ餘地ヲ存センカ爲メナリ

本條ハ夫ノ遠征ヲ禁スル第一條ニ記セルカ如ク其未遂犯トナルヘキ事件ヲ定メサルナリ故ニ此ニハ第一條ニ於ルカ如ク唯港口ヲ出發シタルノ着手ノミヲ以テ足レリトスヘカラス何トナレハ海賊ノ罪ハ海賊等港口ヲ出發シタルニ成ラスシテ其劫掠ノ所爲ヲ仕遂クル



ニ成ルモノナレハナリ故ニ本條ノ未遂犯トハ海賊已ニ商船漁舟其他ノ船舶ヲ攻撃スルヲ始メタルカ然カラサレハ此等ノ船舶ヲ追蹤シタルカ又ハ日本ノ港内ニ於テ船舶燈臺等ヲ襲奪スルヲ試ミタルヲ要スルナルヘシ

第八條

〔第三百六十號〕

本條ハ本章第一條ト類似スルヲ以テ須テク之ヲ該條ニ近接ス可キナリ

實ニ第一條ニ於テハ政府ノ允許ヲ受ケスシテ外國ニ對スル陸海軍ノ遠征ニ用ヒ若クハ用

ヒントシタル兵備ヲ罰スルナリ此罪事ハ固ト國事犯ニ屬スルモノナリ且ツ其同時ニ海賊

罪ノ性質タル所業ヲ爲シタルニ非レハ海賊罪ノ所業ト爲ルモノニ非ス

茲ニ論スル所ノ條ニ於テハ其備ヘタル兵器ノ用方ハ別段定マリタルモノニ非ス或ハ第一

條ノ場合ニ於テ用ユルモノト同一ナルヲ得又或ハ海賊ノ所業ヲ企テタル豫備ノ行爲タル

ヲ得ルナリ

本條ニ於テハ毫モ裁判所ニ決定ヲ命スルニ非ス裁判所ニ於テ海賊罪豫備ノ行爲アリト宣

告スルヲ得可シト言ヘルノミ若シ之ニ反スル場合ニ在テハ第一條ニ記シタル犯罪豫備ノ

行爲タルヲ看認ムルヲ得可キヤ亦疑ヲ容レス〇亦何等有罪ノ目的ヲ看認メスト斷定ス

ルヲ得ヘシ就中航海者海上ノ難ニ遭ヒ其船艦札ヲ紛失シテ其出港ノ地ト着港ノ地トヲ辨

別スル時ノ如キハ尤モ然リトス

又茲ニ論スル所ノ條ニ於テハ巨額ノ罰金ヲ科スルヲ見ルヘシ元來法律上ニ於テ重罪ニ對

シテ罰金ヲ科スルハ稀ナリト雖モ然レモ本條ハ貪欲ヨリ心ヲ搖カシタル犯罪ニ關スルモ

ノニシテ且ツ大率ヲ多少多額ノ金高ヲ取扱フ者ノ犯セル所ナリ故ニ其財産ニ付テ之ヲ罰

スルヲ至當ニシテ又有益ナリ

海賊罪ノ既遂又ハ未遂ノ場合ニ於テハ罰金ヲ科セサルニ其豫備ノ行爲ニ在テ罰金ヲ科ス

ルヲ見テ或ハ怪シム者アル可シ

此差別アル所以ハ既ニ遂ケタルカ又ハ未タ遂ケサル海賊罪ノ場合ニ於テハ其船舶ノ沒收

ヲ爲スト雖モ豫備ノ行爲ノ場合ニ於テハ其沒收ヲ爲サレハナリ

第九條

〔第三百六十一號〕

本條ニ論スル所ノ者ヲ海賊罪ノ從犯ト斷定セシニハ第百二十二條ノ總

則ヲ以テ足レリトス即チ從犯ハ正犯ニ罪ヲ遂クルタメ器械ヲ貸與シタルモノ(第百二十

二條第一項ヲ看ヨ)然レモ如キ特例ノ事項ニ關シテハ立法者殊ニ之ヲ明記セサル可

ラスト信シタリ加之ナラズ豫チテ船舶ノ安全ヲ保ツ點ヨリ見レハ恐クハ第百二十二條ノ

規定ニ照應セシムルヲ容易ノ業ニアラサルヘケレハナリ

海賊罪

六九一

故ニ其海賊罪ノ企ニ付テ船舶ヲ附貸シ又ハ貸貸シタル者ハ既ニ其企ヲ遂ケシカ又ハ着手ニ至リシ以上ハ其船ヲ沒收セラルヘシ

第十條

〔第三百六十二號〕 日本管外ニ於テ犯シタル重罪ヲ日本ニ於テ裁判スル事ニ付キ本案總則ノ第五條ニ記スル所ノ條件ハ定マリタル外國管內ニ於テ重罪ヲ犯シタル場合ヲ想像シタルモノナリ然レモ本條ニ論スル重罪ハ遠洋ニ於テ犯シタルモノナルカ故ニ縱ヒ日本海ニ於テアラサルモ毫モ定リタル外國ノ裁判ニ之ヲ付ス可ラス故ニ此總則ノ第五條ニ定メタル管轄制限ノ條件ヲ遵守スルヲ能ハサル可シ

然レモ其海賊ヲ捕獲シタルノ故ヲ以テ之ヲ裁判スルノ權ヲ有スル外國ニ於テ既ニ其海賊ノ處斷ヲ爲シタルコトアル可シ此場合ニ在テハ日本ニ於テ再ヒ之ヲ裁斷スルヲ得サル可シ然レモ初テ一見シテ本論ノ生スル所以ヲ解スル者アラス何トナレハ若シ既ニ外國カ其海賊ノ捕獲者タル時ハ日本ハ其捕獲者タルヲ得サレハナリ惟此ノ捕獲乃チ裁判權ノ由テ生スル切要ノ條件ナリ然レモ其始メニ捕獲セラレタル海賊證據不充分ニシテ解捕セラレ又ハ法律上之ヲ放免スルコトモアルヘシ而シテ日本ニ於テ之ヲ再ヒ裁判セシコト主張スルコトアルモ知ル可ラス然リト雖モ其海賊既ニ外國ニ於テ處斷ヲ受ケタリシ時ハ之ヲ敬シテ日

本ニ於テ縱ヒ他ノ確證ヲ得タルニセヨ之ヲ裁判スルヲ得サル可シ

〔第三百六十三號〕 爰ニ重要ナル問題ノ討究スヘキモノアリ○若シ海賊罪ノ犯人外國人ニシテ而シテ日本ニ對シ治外法權ノ特權ヲ有スル國ニ屬スル者ナラハ其特權ヲ貴フシテ日本ノ裁判ヲ脫カレシムヘキ乎予ハ之ヲ信セサルナリ夫レ本件ノ事タル特リ萬國公法ニ對スル犯罪ナルノミナラス治外法權ノ管轄ト雖モ必要ナラサルヘキ普通法律ノ範圍外ニアル一種ノ犯罪ニ係ル故ニ犯人ノ何國人タルト犯地ノ何處トコ拘ハラヌ眞實禁罰スヘキハ其海賊ノ所業ニアルノミ而シテ之ヲ裁判スルノ權ハ則チ之ヲ捕獲シタル國ニ是レ屬スルノミ

若シ支那若クハヒリビーン島南洋洲ノ島嶼ノ海賊等日本軍艦ニ依テ捕獲セラレノ事アラハ日本國ニ於テモ本件ノ場合ハ日ニ一日ヨリモ顯出スヘキナリ  
大要爰ニ草案ニ定メタル刑ハ多ク他國ノ例ニ比セハ更ニ寬ニシテ且ツ輕シ畢竟罰スヘキ所爲ノ輕重ニ從テ其刑ノ等差ヲナシタレハナリ是則チ此件ニ付他邦ニ於テハ常ニ注意セサル所ノモノナリ

第三節 奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

〔第三百六十四號〕 奴隸賣買ハ常ニ奴隸ヲ驅役スルノ制ヨリ起リシモノナリ

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

凡ソ人類ヲ其同儕ノ所有物ト成ルヘキ制ヲ認可シタル諸國ニ於テハ奴隸ノ所有者ニ其奴隸ヲ賣ルコトヲ許シ奴隸ヲ有セサル者若クハ更ニ多ク奴隸ヲ有セント欲スル者ニ之ヲ買フコトヲ許サ、ルヲ得サリキ

抑々奴隸ノ賣買ヲ其國中ニ限リテ之ヲ他國ニ及ホサ、リシ間ハ奴隸ノ驅役ノ外他ニ毫モ其賣買ノ爲メ不便ヲ生セシメナクシテ奴隸ノ身體及ヒ德道上ノ品格ハ是レカ爲メ必スシモ更ニ惡シク成リタルニ非ラス何トナレハ其奴隸ハ或ハ更ニ惡シキ持主ノ手ニ移ルノ危險アリシト雖モ亦或ハ更ニ善良ナル持主ニ遇フコトヲ得レハナリ

然レ海ヲ經テ奴隸ノ賣買ヲ爲セシメ至テ惡ムヘキ事ト成リタリ南北兩亞米利加ノ發見ノ後西班牙人及ヒ葡萄牙人ハ爰ニ奴隸ノ一大殖民地ヲ創立シ以テ大ニ各所ニ人類ノ賣買ニ從事シタリ○此二國人ハ亞弗利加ノ西方海岸ニ於テ黑奴ヲ買入レ最モ殘忍ナル取扱ヲ以テ之ヲ亞米利加ニ搬運シタリ其取扱ヒタルヤ之ヲ空氣ナキ船中ニ堆積シ鏈ヲ以テ之ヲ繋キ纜カニ食物ヲ與ヘ而シテ若シ聊カ抗抵ノ舉動アルニ於テハ極メテ之ヲ虐待シ或ハ之ヲ死ニ致シタリ○且ツ夫レ斯ノ如ク賣買セラレタル人類ハ生レナカラ奴隸タルモノニ非ス亞弗利加諸種族ノ戰爭中ニ捕ヘタル俘虜ナリ而シテ爾來其諸種族ノ長ハ必ス其俘虜ヲ賣ルコトヲ得ルカ故ニ尙ホ一層互ニ相激スルニ至リタリ

千七百年代ノ末年中理學士等此惡ムヘキ商業ヲ駁シテ寬仁公正ノ激論ヲ吐キ或ハ此不幸ナル奴隸ノ艱難ヲ説テ最モ傷心スヘキ著書ヲ作レリ又佛國藩屬地ノ奴隸驅役ヲ廢スルコトニ頗ル與カツテ力アリタル國會議院ニ於テ「ミラボウ」氏ノ感スヘキ演説アリタリ實ニ此ノ演説後間モナク千七百九十三年ヲ以テ奴隸賣買廢止ノ令アリタリ○其後驅役ヲ免カレタル黑奴不幸ニシテ白人種ニ對シ一揆ヲ起シテ復讐ヲ爲シタルニ依リ再ヒ反動力ヲ起シ嚮ノ驅役ヲ免カレタル黑奴ハ依然自由ヲ獲シモ更ニ新ニ奴隸トナリシ者ハ佛國ノ殖民地ニ移スコトヲ得ヘキモノトナレリ

英國ニ於テハ殖民地奴隸ノ驅役ヲ廢スル事ニ就キ首唱者ノ効功ハアテサルモ百折不撓遂ニ奴隸廢止ノ功ヲ奏シタルノ名譽ヲ之ニ歸セサル可ラス或者或ハ英國ノ非奴隸說ニ熱心ナルハ人類一視同仁ノ義ニ出ルニアラスシテ其政略上ノ利益ニ原キタルニ由ルト云ツテ其効功ヲ減損セシメテ試ミタリ縱ヒ此ノ說ヲシテ幾分カ信ナラシムルモ(予ハ爰ニ其是非ヲ論セサルナリ)凡ソ國トシテ常ニ如斯キ人類ヲ愛撫スルノ方ニ依テ政治ノ主義ヲ進達シタル英國ノ如キモノアラスト云フコト誰カ批難ヲ入ル、モノアル可ンヤ

〔第三百六十五號〕 歐洲各國カ將來其國民ニ奴隸賣買ヲ禁スルノミナラス猶ホ其他總テ奴隸ヲ賣買スルノ國々ヲ法律ノ方法ニ因リ妨止スルコトマテモ干涉スル所ノ嚴正ナル相互ノ

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

約束ヲ公告セシハ實ニ千八百十五年ニ於テ殆ト全歐洲各國ノ全權公使カ著名ナル維那會  
同ノ時機ニ際シ萬國同盟ヲ以テセシナリ然レモ此ノ同盟ノ條款ヲ現ニ實施スルコトニ於テ  
頗ル障碍ヲ視シテ稍々久シカリシト云フ

英國ハ已ニ亞弗利加及ヒ亞米利加洲ノ間ニ行ハレル奴隸ノ賣買ヲ妨クルコトニ着手シ遂ニ  
之ヲ禁絶スルノ企ニテ諸國ノ商船ニ就テ視察ノ權利ヲ掌握シ以テ奴隸ヲ運送スル諸船ヲ  
差押ヘ其奴隸ハ其望ニヨリ且ツ事ノ行ルヘキキコハ其本國ニ送還セラレ又屢々英ノ領地  
ヘ護送シテ其地ニ於テ自由ノ生活ヲ得セシメタリ

佛國モ亦頗ル重大ナル爭論ノ後遂ニ英國ト共ニ此寬仁ナル企業ニ加ハリ爾來黑奴ノ賣買  
ハ殆ト全ク其跡ヲ絶テタリ

是ト同時ニ歐米二洲ニ於テ非奴隸主義ノ會社起レリ其一ハ宗教上ヨリ成リ其一ハ人類同  
愛ノ義ヨリ成ルモノナリ又一方ニ於テハ從來熱帶國ニ於テ農産ノ殖生ヲ計ルニハ自由勞  
役ハ奴隸勞役ニ如カスト云フ世ノ謬說ヲ經濟學者カ論破スルノ効ヲ奏シタリ經濟學者ハ  
其說ノ妄誕ナルヲ舉ケ且論シテ曰ク良ヤ謬說ニアラサルニモセヨ右ノ說ハ奴隸驅役ヲ非  
カラスト云フノ說ナリト言ヘリ

歐洲各邦ノ中率先シテ其藩屬地ニ奴隸驅役ヲ廢セシハ英國ニシテ實ニ千八百三十八年ノ

事ナリ佛國モ之ニ倣フコトナ解テサリキ乃チ千八百四十七年ニ豫メ其準備ヲナシ翌千八百  
四十八年自由政治ノ名義ヲ假テ成リタル革命政府ハ天賦ノ自由ヲ公布スルコトヲ忽諸ニ附  
スル能ハスシテ遂ニ奴隸ヲ廢シタリ是則チ此革命大事業ノ一ナリ

其他ノ歐洲各國モ亦同時ニ此例ニ倣ヘリ兩亞米利加ノ共和國モ其政府ノ體裁ニ於テ宜ク  
君主國ヨリモ更ニ一層奴隸驅役ヲ寬大ニセサル可ラサルヲ諒シタリ彼ノ合衆國ニ於テ世  
ニ南北分裂戰爭ト稱フ長キ戰爭ノ目的及ヒ結果ハ實ニ奴隸驅役ヲ廢スルニ在リタリ

故ニ千八百年代ノ末ニ至ラサル前ニ地球ノ諸邦ニ於テハ奴隸驅役ノ跡ヲ絶ツヘキ  
コトハ予ノ希望シ得ル所ニシテ亦之ヲ敢テ保證スルト云フモ妄言ニアラサルヘキ歟

奴隸賣買ノ弊ヲ杜カンカダメ創メテ此件ニ付新主義ヲ以テ定メラレタル第一ノ佛蘭西法  
律ハ實ニ千八百二十七年ニ係レリ其後直ニ千八百三十一年三月四日ノ法律ヲ以テ之ニ代  
ヘタリ是則チ今尙ホ現ニ行ハル、所ノモノナリ但タ其適用益々稀少トナレルノミ

〔第二百六十六號〕 日本國ハ嘗テ是マテ眞ノ所謂ル奴隸驅役ナルモノヲ知ラサリキ夫ノ邦  
建制度ノ結果タル四民區別ノ不平等ハアリシカトモ未ダ中世歐洲ノ隸僕ノ如ク平民カ密  
接ノ從屬ヲ華士族コナサ、リシ故ニ日本國ハ此ノ天理人道ヲ古來嘗テ破リシ事ナキヲ以  
テ今更ニ之ヲ挽回スルノ要アララス然レモ日本國モ亦全ク奴隸賣買ノ問題ニ利害相關セサ

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

ルヲ能ハサルヘシ今ヤ日本國ノ軍艦モ西洋各國ノ軍艦ノ如ク海ノ東西ニ奔馳スルノ時勢ニ方リ日本軍艦ハ二様ニ尊敬セラル、チ至要トス即チ一ハ斯ノ如キ惡ムヘキ商業ヲ決シテ保庇セサルモノトシ一ハ他邦ニ於テ之ヲ禁遏スルモノトシテ尊敬セラル、チ要スルナリ(附言參看)

〔附言〕 聞ク所ニ因レハ既ニ日本政府ハ日本海ニ於テ輓近ノ萬國公法ヲ崇奉セシムルノ意中ヲ吐露スルノ舉動ヲナセシハ甚タ近頃ノナリキ

秘魯船「マリア、リユズ」號ノ事件ハ皆十人ノ記憶シテ忘レサル所ナリ該船ハ則チ秘魯國ノタメ澳門ニ於テ雇レ又ハ買ハレタル支那人二百有餘人ヲ搭載シテ天氣不順ノタメ橫濱港ニ投錨シタリ(明治五年千八百七十二年)時ニ此ノ支那人等該船ヨリ脱シテ當地ノ官廳ニ來リ救助ト保護ヲ請ヒシカハ管轄廳ハ直ニ日本政府ニ告知シタリ日本政府ハ支那人ノタメ干渉ヲ入レ其支那人ノ約束セシ條款ハ自由ニ承諾ヲ經タル雇入ノ約束ヨリモ其實寧ロ奴隸賣買ノ約束ナルヲ認メテ直ニ之ヲ支那官吏ニ引渡シ本國ニ送還セシメタリ

秘魯ノ船長ハ此ノ處置ニ不服ヲ鳴ラシ其賠償ヲ要求セシカハ日本政府ハ更ニ進メテ近世萬國公法ノ精神ニ基キ兩國ノ爭論ハ宜ク仲裁裁判ニ依テ斷スヘシト申出テ遂ニ魯西

亞皇帝ニ之カ裁決ヲ請フヲ得タリ其後千八百七十五年(明治八年)ヲ以テ魯帝ノ仲裁裁判ハ日本政府ハ萬國公法ニ倣フテ處分シタルモノナリ故ニ償金ヲ出スノ理ナシト宣告シタリ

本節ノ標題ニ之ヲ示スカ如ク本條ニ於テハ特リ奴隸ノ賣買ヲ罰スルノミナラス又自由人ヲ賣ル者ヲ罰スルナリ(第十五條ヲ看ヨ)

復タ讀者ハ爰ニ「奴隸ノ賣買」ニ係ル重罪ト題シテ「黑奴ノ賣買」ト題セサルヲ注意スヘシ

千八百三十一年ノ佛蘭西法律ハ不注意ニモ黑奴ノ賣買ト記載セシ故遂ニ埃及及ヒ「ハリ」ノ海岸ニ行レシ如キ黃色又ハ白色人種ノ賣買ニ此ノ千八百三十一年ノ法律ハ適用スルヤ否ヲ疑フ者アルニ至ル抑モ爰ニ論スルモノハ人種ノ問題ニアラスシテ人倫ノ問題ナリ若シ一ノ差別ヲ立テタリト云ハ、被害者(賣人)ノ人種最モ開明進歩シタル者ニ係ル片ハ其犯人ヲ罰スルニ最モ嚴重ナル大刑ヲ以テスヘキナリ何トナレハ開明ノ人物ハ其天賦ノ權利ヲ失フヲ最モ深ク痛恨スヘケレハナリ願ミテ方今ノ勢ヲ視ルニ黑色人種ハ其實概テ白色及ヒ黃色人種ノ文明ニ如カサル遠シト云フモ敢テ不可ナラサルナリ(附言參看)

〔附言〕 既ニ日本國ニ於テ流用スル語モ佛蘭西法律ノ語ノ如ク黑奴ト云フキハ字義ノ奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

穩當ヲ得ス日本人奴隸ヲ呼テ黒奴ト云フ（くるんぼ）蓋シ黒色人ノ義ナリ故ニ此ノ奴隸ノ事ヲ刑法ニ編記スルカ又ハ別段ノ法律ニ規定スルニ於テハ勉メテ人種ノ黑白ヲ分ツノ語ヲ避ク可シ乃チ奴隸ナル語（せれい）ノ外亦他ニ恰合ノ字ナキナリ

第十一條

〔第二百六十七號〕 本條玆ニ論スル所ハ奴隸賣買ノ刑ニ關スルノミニシテ彼ノ國際政略上ニ屬スル所ノ臨船視察ノ權即チ海上警察ノ權ヲ論スルニ非ス讀者先ツ主トシテ之ヲ注意セヨ

臨船視察ハ概チ政府ノ軍艦又ハ此ノ爲メ殊ニ政府ヨリ委任サレタル巡邏船ニ依テ實施サルヘキノミ商船ハ絶テ他船ヲ臨視スルノ權ヲ有セス

此ノ臨船視察ノタメ或ハ兩國ノ交情冷カナランコトヲ恐レ或ル國ニ於テハ（英佛兩國ノ如キ是ナリ）相互ニ此ノ視察權ヲ行フコトニ付別段ノ條約ヲナセリ

本條ノ明文ハ先ツ主トシテ該犯ノ日本人タルコトヲ想像シ次ニ（第十六條）外國人此罪ヲ犯シタルノ場合ヲ後ニ論スルナリ然レモ此場合ニ於テハ本條ヲ適用スル所以及ヒ日本裁判ヲ行フノ旨趣ト爲テ日本ノ港ニ於テ若クハ日本船ヲ以テ其罪ヲ犯シタルコトヲ想像シタルモノナリ

故ニ若シ遠洋ニ於テ奴隸ヲ船載シタル外國船ヲ襲ヒシ時ハ日本ノ船舶ハ奴隸ヲ解放シ且之ヲ自由國ヘ護送スルヲ得ヘシト雖モ其權利爰ニ止マリ敢テ或ハ踰越ス可ラス乃チ其捕襲ノ船舶ヲ沒收スルコトモ不可ナリ

此ノ犯人ノ日本人タルヘキ條件ノ外尙ホ第十一條ハ奴隸ノ賣買ヲ罰スルニ左ノ三性質ヲ表スルコトヲ求メリ

第一 某國ニ於テ奴隸ヲ買入レタル事

第二 其買者ノ目的ハ他國ニ於テ其奴隸ヲ再賣スルニアリタル事

第三 其再賣ハ海ヲ經テ運輸スルヲ要スル事

是ノ故ニ奴隸國ニ於テ奴隸ヲ買ヒ以テ同國ニ於テ之ヲ再賣スル爲メ又ハ海上運輸スルコトヲ隣國ニ於テ之ヲ再賣スル爲メ奴隸賣買ニ從事シタル者ニ本條ヲ適用ス可カラサルヘシ

此第一ノ場合ニ於テハ縱令ヒ其所爲ハ道德上ニ於テ罰ス可シト雖モ是レカ爲メ法律上奴隸ノ身分形体ヲ惡フスルモノニ非ス苟モ奴隸國ニ於テノミ單ニ之ヲ爲ス已上ハ奴隸タル者其主人ヲ變スルノ故ヲ以テ其有様ヲ變セス故ニ此惡ムヘキ賣買ノ取次人ハ奴隸ノ所有者カ自カラ爲シ得可キ分ヨリ外ニ毫モ爲シ得サルナリ

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

又此第二ノ場合ニ於テハ此國ヨリ彼ノ隣國へ奴隸ヲ移ラシムルモノニシテ是レ亦畢竟同  
 一ノ地位ニ居ラシムルナリ蓋シ其二國共ニ奴隸ノ驅役ヲ許スカ故ニ其取次人ハ自カラ奴  
 隸ヲ賣ル所ノ所有者カ醸生スヘキ害ヨリモ更ニ大ナル害ヲ生セシムル能ハサルナリ  
 第一ノ場合ニ於テモ第二ノ場合ニ於テモ共ニ日本國ノ軍艦ヲ以テ捕獲スルノ事ハ得テ行  
 フヘカラサルナリ

之ニ反シテ海ヲ經テ此國ヨリ彼國へ奴隸ノ運輸ヲ爲ス時ハ此有害ナル奴隸驅役ノ制大ニ  
 弘マルノ憂アリ何トナレハ之ヲ買フ所ノ國ニ於テハ其奴隸ノ販路移地ヲ得ルカ故ニ勉メ  
 テ蠻族ノ戰爭ニ賴テ其俘虜ヲ獲テ以テ奴隸ノ數ヲ増サントスヘキヲ以テナリ  
 其他運輸ノ爲メニ奴隸ノ身體ノ有様ヲ惡フスヘシ何トナレハ運輸ニ依テ費用ヲ生スルカ  
 故ニ之ニ與フル船中ノ食物及ヒ居室ニ就テ頗ル吝嗇ヲ極メテ以テ運輸ヲ爲ス可ケレハナ  
 リ是レ屢々航海中奴隸ヲ死ニ致スモノナリ且ツ奴隸ノ船中ニ於テ暴動ヲ爲サンコト恐ル  
 ハカ故ニ殆ト常ニ鏈ヲ以テ之ヲ繋クニ依リ一層其艱難ナル地位ニ陥ラシムルナリ況ンヤ  
 之ニ加ルニ殊ニ其運輸ヲ爲セル地方ノ炎熱ヲ想像セハ其困苦知ルヘキノミ  
 是レ則チ本條ニ禁スル奴隸賣買ノ眞ノ性質ナリトス若シ夫レ犯人日本人タル時ハ其船ニ  
 日本ノ國旗ヲ揚ルカ若クハ外國ノ國旗ヲ揚ルカヲ論スルニ及ハサルナリ

本條ニ記スル所ノ刑ハ常律上ノ刑ニシテ國事犯ノ刑ニ非サルナリ實ニ此犯罪ハ毫モ國事  
 犯ノ性質アルニ非ス全ク人身ニ對スル常事犯ノ惡ムヘキ性質アレハナリ  
 此企ノ首魁ト尋常乗組人トノ間ノ區別ハ全ク自カラ然ラサルヲ得サルモノニシテ之カ證  
 明ヲ要セサルナリ(附言參看)

爰ニ沒收ヲ適用スルハ普通刑法ノ處タリ然ルニ本條ハ奴隸賣買ノ未遂犯ト成ルヘキ場合  
 ナ定メサルヲ以テ唯タ本犯ノ既遂犯ニ沒收ヲ適用スルノミ況ンヤ後條ニ定メル豫備ノ所  
 爲ニ就テ沒收ヲ適用スルノ理由アラシク言ハスシテ炳カナリ

(附言) 予ハ海賊罪ニ於ケルカ如ク(第五條)本條ニ於テモ亦乗組役員ノ二級ノ間ニ區別  
 ナ設ケタリ蓋シ海賊罪ハ官許ナキ海上遠征ノ罪(第一條)ヨリモ本犯ニ類似スル所多ク  
 レハナリ是ニ於テヤ尋常乗組人ハ輕懲役ニアラスシテ唯禁錮ノ刑ヲ受ルニ止ル是ヲ以  
 テ充分ナリトス

立法者ハ航海セサル者ト雖モ本犯ト利益ヲ同スルキハ本刑ヲ以テ論スト云フコトヲ記示  
 スルノ注意ヲナシタリ

第十二條

〔第二百六十八號〕 本條ニ論スル所ノ刑ハ奴隸賣買ノ本然ノ刑ヨリモ更ニ重カル可キ時ノ

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

又此第二ノ場合ニ於テハ此國ヨリ彼ノ隣國へ奴隸ヲ移ラシムルモノニシテ是レ亦畢竟同一ノ地位ニ居ラシムルナリ蓋シ其二國共ニ奴隸ノ驅役ヲ許スカ故ニ其取次人ハ自カラ奴隸ヲ賣ル所ノ所有者カ醸生スヘキ害ヨリモ更ニ大ナル害ヲ生セシムル能ハサルナリ  
第一ノ場合ニ於テモ第二ノ場合ニ於テモ共ニ日本國ノ軍艦ヲ以テ捕獲スルノ事ハ得テ行フヘカラサルナリ

之ニ反シテ海ヲ經テ此國ヨリ彼國へ奴隸ノ運輸ヲ爲ス時ハ此有害ナル奴隸驅役ノ制大ニ弘マルノ憂アリ何トナレハ之ヲ買フ所ノ國ニ於テハ其奴隸ノ販路移地ヲ得ルカ故ニ勉メテ蠻族ノ戰爭ニ頼テ其俘虏ヲ獲テ以テ奴隸ノ數ヲ増サントスヘキヲ以テナリ  
其他運輸ノ爲メニ奴隸ノ身體ノ有様ヲ惡フスヘシ何トナレハ運輸ニ依テ費用ヲ生スルカ故ニ之ニ與フル船中ノ食物及ヒ居室ニ就テ頗ル吝嗇ヲ極メテ以テ運輸ヲ爲ス可ケレハナリ是レ屢々航海中奴隸ヲ死ニ致スモノナリ且ツ奴隸ノ船中ニ於テ暴動ヲ爲サンコトヲ恐ルカ故ニ殆ト常ニ鏈ヲ以テ之ヲ繋クニ依リ一層其艱難ナル地位ニ陥ラシムルナリ况ンヤ之ニ加ルニ殊ニ其運輸ヲ爲セル地方ノ炎熱ヲ想像セハ其困苦知ルヘキノミ  
是レ則チ本條ニ禁スル奴隸賣買ノ眞ノ性質ナリトス若シ夫レ犯人日本人タル時ハ其船ニ日本ノ國旗ヲ揚ルカ若クハ外國ノ國旗ヲ揚ルカヲ論スルニ及ハサルナリ

本條ニ記スル所ノ刑ハ常律上ノ刑ニシテ國事犯ノ刑ニ非サルナリ實ニ此犯罪ハ毫モ國事犯ノ性質アルニ非ス全ク人身ニ對スル常事犯ノ惡ムヘキ性質アレハナリ  
此企ノ首魁ト尋常乗組人トノ間ノ區別ハ全ク自カラ然ラサルヲ得サルモノニシテ之カ證明ヲ要セサルナリ(附言參看)

爰ニ沒收ヲ適用スルハ普通刑法ノ處タリ然ルニ本條ハ奴隸賣買ノ未遂犯ト成ルヘキ場合ヲ定メサルヲ以テ唯タ本犯ノ既遂犯ニ沒收ヲ適用スルノミ況ンヤ後條ニ定メル豫備ノ所爲ニ就テ沒收ヲ適用スルノ理由アランヤ言ハスシテ炳カナリ

(附言) 予ハ海賊罪ニ於ケルカ如ク(第五條)本條ニ於テモ亦乗組役員ノ二級ノ間ニ區別ヲ設ケタリ蓋シ海賊罪ハ官許ナキ海上遠征ノ罪(第一條)ヨリモ本犯ニ類似スル所多クレハナリ是ニ於テヤ尋常乗組人ハ輕懲役ニアラスシテ唯禁錮ノ刑ヲ受ルニ止ル是ヲ以テ充分ナリトス

立法者ハ航海セサル者ト雖モ本犯ト利益ヲ同スルキハ本刑ヲ以テ論スト云フコトヲ記示スルノ注意ヲナシタリ

第十二條

(第三百六十八號) 本條ニ論スル所ノ刑ハ奴隸賣買ノ本然ノ刑ヨリモ更ニ重カル可キ時ノ

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

ハインブルマール



外之ヲ適用ス可カラス故ニ殺害ノ場合ノ外此刑ヲ適用スルコトアラサル可シ何トナレハ毆打創傷ニ付テハ輕懲役ヨリ重キ刑ヲ科スルコト太々稀ニシテ且多クハ之ヨリ輕キ刑ヲ科スレハナリ(第二百二十四條及ヒ其次條ヲ看ヨ)

其出來スヘキキニ方テ殺害及ヒ暴行ヲ制止セサリシ船長ノ責任ハ既ニ前節海賊罪ニ於テ明記スル所ナレハ復タ之カ證明ヲ要セサルヘシ

第十三條

〔第二百六十九號〕 本條ニ於テ若シ明ニ此豫備ノ行爲ヲ科罰セサレハ之ヲ罰スルコトヲ得サルヘシ何トナレハ凡ソ重罪若クハ輕罪ノ豫備ノ行爲ハ其目的ニ付混雜ヲ生ゼヌタケ十分ニ定リタル犯罪ヲ表スルノ性質ナキニ於テハ之ヲ罰スルヲ得サルノ規則ダレハナリ

本條ノ如キ場合ニ於テ最初斯々ノ所爲ハ遠行航海ノタメニ航進スルノ船タルヲ認ムルヲ得ルハ太々易シ然レモ其此企ニ準備シタルモノナルヤ否ニ就テ困難ヲ生スルナリ故ニ本條ハ此準備ノ證ヲ舉ルニ別段ノ事ヲ要求シタリ其事ハ二様ニ外ナラス即チ船内ノ設置ト犯人ノ手書シタル書類ナリ

犯人ニ於テハ自己ニ害アル書類ヲ取押ヘシメサルコト及ヒ遠洋ニ避ケテ奴隸ヲ搭載シ且之ヲ閉込ルニ必用ナル設置ヲナスコトハ容易ノ業タルヤ疑ヲ待タス然レモ之ヲ一々檢察シテ

無根ノ嫌疑ヲ下シ爲ニ誠實ナル海上ノ商業ヲ妨ケンヨリモ寧ロ舍テ有罪ノ豫備ヲ問ハサルニ若カサルナリ

此ノ豫備ノ所爲ノ刑ハ輕罪ノ刑ニ外ナラサルナリ然レモ玆ニ論スル所ノ行爲ハ輕罪ト看做ス可カラス此點ニ付テハ既ニ其理由ヲ説明シタルカ如ク(第四百十七號及ヒ八號)重罪ノ未遂及ヒ其豫備ノ所爲ハ禁錮ヨリ重キ刑ニ處スルヲ得スト雖モ其罪ハ尙ホ未遂若クハ豫備ヲ爲シタル重罪ダレハナリ是故ニ重罪裁判所ニ於テ常ニ之ヲ裁判スヘキナリ

第十四條

〔第二百七十號〕 本條ニ論スル罪ノ從犯タルノ性質ヲ認メシムルニハ從犯ノ普通原則ヲ用テ足ルヘシ然レモ玆ニ論スル如キ特別ノ事項ニ在テハ本條其從犯ニ付テ説明シタルコソ明察ヲ得タリトス且ツ其船ノ保險ヲ爲セルノ場合ニ至テハ若シ本條之ヲ明記セサル時ハ或ハ疑ヲ生ス可ケレハナリ

資本金錢ヲ貸與スル事ニ就キテハ本條殊ニ注意シテ其貸與シタルハ「此ノ企ノ利害得喪ニ拘ハラズ定數ノ利子」ヲ以テシタルヲ要求シタリ斯ク定數ノ利子ヲ以テ貸與シタル者ニ限ルノ理由ハ試ミニ本條ヲ夫ノ「企圖ニ加擔」シタル者ヲ其共犯人トシテ罰シテ其從犯人トシテ罰セサル所ノ第十一條第二項ニ照比スルキハ自ラ判然タリ夫レ此ノ企圖ニ加

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

擔シタル者ハ利得ノ僥倖ヲ希望シ損失ノ危險ヲ博シテ本件ニ係ル有罪ノ企ニ加ハリ一意利ニ嚮フノ心ヲ抱キシヤ昭カナリ故ニ其利得ヲ増益センカタメニハ人情ヲ破リテモ仕遂クルヲ謀ルヘシ顧テ定數ノ利子ヲ以テ貸與スル者ヲ稽ルニ企ノ利害ニ關繫セサルユヘ其罪ヤ唯企ノ組成ヲ幫助シタルニ止ルノミ其企ノ結末ニハ絶テ關カラサル所ナリ世ニ所謂ル案山子金貸人ナル者ハ此ノ利益ヲ共ニスル者ニ入ルヘキ歟(佛蘭西商法第三百一十一條及ヒ其次條ヲ看ヨ)

然レモ無利息ニテ資費ヲ貸與シタル者ニ於テハ苟モ誰カ其尋常共犯(第二百二十二條第一項)ニ入ルモノタルヲ主張スルニアラサレハ共犯人ニモアラス亦從犯人ニモアラサルナリ然レモ餘リ之ニ拘泥スルハ反テ其實ヲ失フヲ免レス

第十五條

〔第三百七十一號〕 本條ニ論スル所ノ罪事ハ奴隸ヲ賣リタル罪ヨリモ尙一層重キモノトス故ニ其刑モ亦一層重キナリ奴隸賣買ニ在テハ之ヲ爲シタル罪人ハ其賣ラル、者ノ身分ヲ變スルニ非スシテ唯其奴隸ノ身分ニ永ク沈淪セシメ又或ハ倍々惡カラシムルノ媒介ヲ爲スノミ○然レモ自由人ニ關スル時ハ其自由ヲ失ハシムルモノナリ固ヨリ法律上テ以テ論スレハ此賣買ハ其効ナキモノニシテ其買者ハ假令ハ本人承諾スト

雖モ自己ノ自由ヲ失フ可カラサル自由人ノ所有主ト成ルヲ得サルヲ疑テ容レサル所ナリ

ト雖モ若シ奴隸國ニ於テ之ヲ爲ス時ハ奴隸トシテ賣ラレタル自由人ノ其自由ヲ恢復スルコト甚タ難カルヘクシテ多クハ其自由人タルノ證據ヲ失フヘシ而シテ自由人奴隸トシテ所有セラル、已上ハ其眞ノ身分ハ固ヨリ奴隸タルモノト推測セラルヘシ

採テ以テ原則トス可キ所ナリト雖モ今茲ニ之ヲ贅スルノ有用アラサルナリ

若シ其賣ラル、者幼稚ナルキハ(法律ハ十二歳以下ノ幼者ト云フ)其危險尙最モ大ナリトス蓋シ幼者ハ其舊身分ヲ曉ルニ猶未タ十分ナル道理ト實驗ヲ有セサルヲ以テ本國ノ隔絶スルト歲月ノ久シキトニ依リ其記憶ヲ失スル時ハ舊身分ノ證據ヲ供スルヲ得サレハナリ然レモ本條ハ刑ノ一等ヲ陞ス能ハスシテ最重刑ヲ科スルニ止リシハ蓋シ其權衡ヲ得タルモノナリ

又幼者ニ關シテハ外國へ運送スルコトヲ承諾スト雖モ其効ナカル可クシテ其買者又ハ其買者之ヲ以テ其運送ノ罪ナキヲ辨解スルヲ得サル可キヲ注意スヘシ且ツ幼者ノ兩親ノ承諾ト雖モ同シク其効ナカル可キナリ何トナレハ兩親ト雖モ幼者ヲ賣リ又ハ幼者ノ自由ヲ剝奪スルノ權ヲ有セサレハナリ

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

〔第二百七十二號〕 本草案ニ於テハ自由人ヲ再ヒ賣ルノ目的ヲ以テ之ヲ買フ者ニ刑ヲ科セサルヲ以テ原則トス故ニ此ノ點ニ付テハ法律ノ闕典ヲ見ルノミ何トナレハ此ノ罪素ト複數ノ性質アレハ其犯人一ヲ行フテ之ヲ完ク遂ルノ前ニ押ヘラルコアルヘケレハナリ其一ヲ行フタルヲ以テ未ダ遂ニ本犯ノ未遂犯ヲ認ルコトハ難カルヘシ何トナレハ其買フタル者尙ホ未ダ之ヲ再ヒ賣ルコトヲ試ミサレハナリ渠レ已ニ犯罪ノ第一着ヲ完ク仕遂ケタリ尙ホ未ダ第二着ヲ嘗ミサルナリ故ニ爰ニ別段ナル刑ノ必要ナル所ナリ予ハ之ヲ前條ノ刑ヨリモ一等減シテ定ルノ議ヲ發セリ蓋シ二等ヨリ三等マテ減等サルヘキ場合ハ未遂犯ニ於テ殊ニ然リトスレハナリ

既ニ代價ヲ拂フテ前上ノ目的ヲ以テ自由人ヲ買フタル者ヲ本犯ノ未遂犯ナリト認メサル可ラサル乎予ハ之ヲ許諾スルヲ難ンスルナリ予ヲ以テ之ヲ信スルニ其未遂犯ニ到ルコトハ買者既ニ自己ノ調印ヲ捺シテ契約書ヲ作り賣者ノ捺印ヲ待ツニ止ルカ或ハ前金ヲ賣者又ハ仲人ニ拂渡シテ賣者ノ承諾ヲ待ツニ止ルカ而シテ此等ノ取引事件有効ノ時間内ニ告知セラレタルコトヲ要スルナルヘシ

茲ニ附加ノ條ハ亦自由人ヲ賣ル者ヲ本犯賣買ノ共犯人トシテ罰スルナリ

本條ハ結局奴隸國ニ再ヒ賣ルノ目的アルニアラザレハ自由人ヲ賣ルヲ罰セサルコトヲ注意

スヘシ實ニ此ノ終局ノ目的ヲ人能ク禁スルヲ得ハ何ノ危難カ之レ有シ殆ト無シト云フテ可ナリ其賣ラレタル人ハ事實上自由ヲ失フノ危ニ遭ハス亦法律上自由ヲ喪フノ厄ニ當ラサルナリ(附言參看)

然レモ其目的の風俗ニ害アルアラハ更ニ他ノ理由ニ因テ此ノ賣買ヲ罰スルコトアルヘシ

〔附言〕 英國ニ在テハ各裁判所ノ日記ニ夫其婦ヲ賣リタルノ訴アルヲ見ルコト往々之アリ此事タル唯最下等ノ民間ニ生スル弊害ニシテ道德ニ戾ルモノナレハ之ヲ罰スト雖モ其刑太タ輕シ何トナレハ是ニ因テ以テ眞ニ其婦ノ自由ヲ害スルコトナケレハナリ

〔第二百七十三號〕 今復ヒ眞ニ自由人ノ奴隸國ニ賣ラレタル場合ニ還リテ本條ハ後ノ之ヲ買フ者カ自ラ奴隸國ニ搬運シタルコトナケレハ此ノ買フ者ニ對スルノ刑ヲ記セサルコトヲ注意スヘシ

若シ此ノ場合ニ於テ自由ヲ買フタル者ヲ其賣者ノ如ク罰ス可キ時ハ本條其旨ヲ明記セスンハアル可カラス然レモ本條之ヲ明記セサルナリ蓋シ明記セサルノ理ニアリ其一ハ買フ者外國人ナルコト體カニシテ日本法律ノ得テ問フヘカラサルコトアレハナリ其二ハ買フ者日本ニシテ之ヲ買フハ保護ト仁慈ノ意ヨリ起ルコトアルヘケレハナリ又賣ラレタル者自己ノ權利ヲ終身伸宣セサル國ニ於テ再ヒ賣ラレ又ハ不人情ノ取扱ヲ爲スヘキ他ノ買者ニ買

奴隸賣買及ヒ自由人ヲ賣ル罪

ハレ一層ノ窮戚ニ遭ハンコヲ救ハンカ爲メニスルコトアルヘシ

第十六條

〔第二百七十四號〕 此規則ハ遠洋ニ於テ海賊ヲナスニ關スル諸則ト異ツテ治外法權ノ制ヲ廢シタル上ニテ實施スルモノトス且ツ外國人ニ關スル時ハ其罪事ヲ日本ニ於テ犯シタル時ノ外日本ノ法律ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ス是レ宜シク注意スヘキコトナリ但シ海賊ノ所行ハ常ニ此限ニアラス〇去レハ外國人ハ日本ニ於テ奴隸賣買ノ豫備ヲナシ(第十三條)或ハ自由人ヲ買ヒ若クハ賣リ之ヲ奴隸ノ行ハル、國ニ再ヒ賣ルヲ計ルコトヲ得可キナリ(第十五條第二項)

第十七條

〔第二百七十五號〕 奴隸賣買若クハ自由人ヲ賣ル所爲ハ多クハ奴隸國ニ於テ爲シタルモノト想像ス可キカ故ニ其罪人ヲ日本ニ於テ處置スル爲メニ其犯地官廳ノ告發ヲ要スルヲ得ヘカラス此所爲ハ該官廳ヲ以テ之ヲ觀レハ罰ス可キ事ニ非サルカ故ニ該政府ハ之ヲ告發セサル可シ加之若シ犯人遠洋ニ於テ捕獲サレタルキハ何等ノ國モ其告發ヲナスコトヲ得サレハナリ

其他總則第五條ノ條件ヲモ要セラレサルヘシ然レモ既ニ外國ニ於テ確定裁判アリシ場合

ガスガシヨシヨシセネラール

ハ原則上ニ於テ此ニ除クヘキ歟何トナレハ若シ犯人外國ノ軍艦ニ依テ捕獲セラレシ時ハ放免サル、ニアラサレハ罰セラルヘシ罰セラルレハ則チ其刑ヲ受クヘケレハナリ是レ恰モ上ノ第十條ノ場合ト相類似ス

第四章 公ケノ靜謐ヲ害スル重罪輕罪

要旨

第二百七十六號 本章ノ主眼附タリ已下節毎ニ註解ヲ下スヘシ

〔第二百七十六號〕 本案ハ此公ケノ靜謐ヲ害スル重罪輕罪ト之ヲ總稱中ニ頗ル許多ノ犯罪ヲ聚記セリ蓋シ概チ佛國法典ニ據ル此犯罪ノ普通ノ性質ハ官憲ヲ蔑如シ且以テ官憲ニ於テ主トシテ保護セントスル所ノ平穩秩序安寧ヲ妨害スルニ外ナラサルナリ

本章ニ論スル所ノ重罪輕罪ハ國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪輕罪ニ連續スルモノ、如シ然レモ一般ニ之レヨリ其罪ノ輕キ事ハ本章ヲ組織スル八節ノ標題ヲ通觀シテ知ルヲ得ヘシ

(附言參看)

〔附言〕 爰ニ大率ヲ普通ノ性質ヲ示セシカ如ク本章諸節ノ主眼甚ク殊様ニ涉レハ已下ハ是マテ爲シ來リシカ如ク章毎ニ解セスシテ節毎ニ解スヘシ故ニ已下看官之ニ做ヘ

第一節 往來通信ノ路ヲ毀壞損傷スル罪

往來通信ノ路ヲ毀壞損傷スル罪

水陸ニ據ルノ道路

第五百五十八條 (故意ヲ以テ道路橋梁堤防若クハ河溝ヲ毀壞損傷シテ往來ノ自由ヲ妨害シタル者ハ二月已上二年已下ノ重禁錮ニ處シ五圓已上二十圓已下ノ罰金ヲ科ス(刑、第百六十條))

郵便ノ事務

第五百五十九條 (惡心ヲ抱キ偽計威力若クハ脅迫ヲ以テ郵便ノ事務ヲ妨害シ又ハ之ヲ阻止シタル者ハ前條ノ刑ニ處ス(刑、第百六十三條))

第六十條 惡意ヲ以テ電信(又ハ電話機)ノ柱木ヲ拔倒シ毀壞シ又ハ電信局ノ器械ヲ損壞シタル者ハ六月已上三年已下ノ重禁錮ニ處シ拾圓已上五拾圓已下ノ罰金ヲ科ス

唯電信線ヲ絶チ若クハ其通信ノ妨害ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス(刑、第百六十四條)〇千八百五十一年十二月二十七日ノ佛蘭西法律第二條及ヒ第三條

鐵道

第六十一條 惡意ヲ以テ鐵道ノ線路又ハ其標識ヲ毀壞シ若クハ何ノ手段ヲ以テスルヲ問ハス瀛車ヲシテ線路外ニ軌出セシメ又ハ衝突セシメ若クハ其他重大ナル災害ニ遇ハシメタル者ハ重懲役ニ處ス(刑、第百六十五條)〇千八百四十五年七月十五日ノ佛法第十六條第十七條及ヒ第十八條

燈臺浮標

第六十二條 船舶ノ往來ヲ害スル爲メ燈臺浮標其他都テ航海(海上又ハ河川)ノ安寧ヲ保護ス可キ標識ヲ毀壞損傷シタル者ハ前條ノ刑ニ處ス(刑、第百六十六條)

加重ノ刑

第六十三條 道路郵便電信鐵道若クハ海上ノ標識ニ關スル吏員又ハ雇人職工自カテ前五條ニ記シタル重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ各本條ノ刑ニ照シテ一等ヲ加フ(刑、第百六十七條)

殺傷

第六十四條 前數條ニ記載シタル場合ニ於テ其損壞ニ因テ人ヲ殺傷シタル時ハ豫メ謀テ毆打殺傷シタルノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑、第百六十八條)

未遂犯

第六十五條 第六十八條第六十九條及ヒ第六十條ニ記載シタル輕罪ノ未遂ハ之ヲ罰スヘシ(刑、第百七十條)

内亂外患ノ場合

第六十六條 (若シ内亂若クハ暴動ノ際ニ於テ征討軍ヲ抗拒シ又ハ遲延セシムル手段トシテ第六十八條第六十一條第六十二條及ヒ第六十四條ニ記載シタル所爲ヲナセシ者ハ未遂犯ト看做シテ之ヲ第三十八條ニ照シ論ス(千八百五十一年ノ佛法第四條及第五條)外國ト交戦ノ際敵國ノタメニ本國ニ叛スルノ目的ヲ以テ右ノ所爲ヲナセシ者ハ之ヲ無期流刑ニ處ス)

要旨

第五百五十八條

第三百七十七號

本犯ノ目的トスル物件 附第六十六條ニ參照ヲ求ル場合

往來通信ノ路ヲ毀壞損傷スル罪

第五百五十九條

第三百七十八號 郵便事務ニ觸ル障害

第六十條

第三百七十九號 電信及ヒ電話ノ機械ヲ覆倒スル事

第六十一條

第三百八十號 同ク鐵道ノ機械ヲ覆倒スル事

第三百八十一號 因テ生スル社會ノ損害ニ就テノ論說○其損害ハ現ニ其實害ノ効ニアラ

スシテ唯尋常ノ危難又ハ危險ニ存スルヲ最モ多シトス○本犯ハ縱ヒ其實害ヲ與ルノ効

ヲ奏セサルモ未遂又ハ闕効ノ罪トナルノミナラス既遂ノ罪トナルコトアルヘシ

第三百八十二號 本條ハ其旅客ヲ乘載スル瀛車ナルト荷物又ハ鐵道敷設ニ關スル材木ヲ

載スル列車ナルトヲ分タス均ク適用スルナリ

第六十二條

第三百八十三號 航海ノ安全ヲ害スル罪事

第三百八十四號 本條ノ附則

第六十三條

第三百八十五號 役員ニ對スル加重ノ刑

第六十四條

第三百八十六號 因テ殺傷ニ及ヒタル場合ノ刑附豫メ謀リシ事ニ付テノ說

第六十五條

第三百八十七號 犯罪ノ未遂ニ係ル事

第六十六條

第三百八十九號 内亂及ヒ外患ノ際ニ於テハ茲ニ定メル罪ニ國事犯ノ刑ヲ適用スル事

第六十八條

〔第三百七十七號〕 何レノ國ヲ問ハス都テ往來通信ノ路ハ上下一般ノ爲メニ甚ク貴重ナル

モノトス何トナレハ政府及ヒ諸官署ニ於テ監察ヲ執行シ命令ヲ傳フルハ往來通信ノ路ニ

依ル所ニシテ又人民ニ在テ各自ノ利益各自ノ懇情ノ爲メニ相交通スルモ亦之ニ依ル所ナ

レハナリ

本邦ニ於テハ他國ヨリモ更ニ往來通信ノ路ヲ保護シテ都テ其妨害ヲ防カサル可カラス何

トナレハ本邦往來通信ノ路ハ過多ナルヨリモ寧ロ不足ナリト謂フ可ケレハナリ

此第一條ニ於テハ故意ニ出テタルノミナラス其目的當ニ往來ヲ妨害スルニアリテ通路ヲ

往來通信ノ路ヲ毀壞損傷スル罪

損壞シ以テ往來ヲ不通ニ致シタル事ヲ想像セルモノナリ故ニ私有地ノ水流ヲ便ナラシメ  
 若クハ私有地へ爲セル工業ノ執行ヲ便ナラシムルヲ目的トシテ故ラニ通路へ工ヲ起シ爲  
 メニ圖カラス道路ヲ損壞シ若クハ河川ヲ妨害スルニ至リタル時ハ行政上ノ處分ニ屬スヘ  
 シ又違警罪ノ罰ニ處スルコトアル可シト雖モ本條ヲ適用スルコトナカル可シ○此ノ所爲ハ本  
 條ニ言ルカ如ク「故意ニ」又ハ「第六十條ニ言ルカ如ク」惡意ヲ以テ「ナシタルヲ要スヘシ  
 此ノ所爲ハ一揆又ハ内亂若クハ外患ノ際謀叛ヲナスノ目的ヲ以テ爲シタルコト想像ス可  
 ラス此ノ内亂外患ノ二ノ場合ハ更ニ重大ナレハ殊ニ第六十六條ニ規定サル、所タリ然  
 ラハ則チ今ヤ純然タル無意亡策ノ破壞精神ニ出ルヲ措テ此ノ事ハ互ニ異路ニ據テ運輸ヲ  
 業トスルノ間ニ生スル競争ノ場合カ若クハ奸商等自己ニ貯蓄スル商品貨物ヲ利用セント  
 欲シテ同業者ノ競争ヲ妨ケンカタメ同業者ノ往來スル路ヲ絶ツノ場合ヲ想像スルアルノ  
 事ニ但シ幸ニシテ此ノ事タルヤ實際甚タ多カラサルナリ  
 又此ノ通路ヲ破壞スルノ所爲ハ次節ニ規定スル一地方ノ暴動ニ因テナスコトアルヲ想像ス  
 ルヲ得是ニ於テヤ一ノ區別ヲナサハル可ラス即チ若シ其通路ヲ暴動ノ初ニ於テ破壞セシ  
 時ハ本條ニ照シテ之ヲ論ス是レ暴動ノ未遂犯トシテ之ヲ論スルヨリモ更ニ嚴重ノ處置ヲ  
 施ヘキナリ若シ又暴動ノ際ニ之ヲ破壞センニ於テハ乃チ第一百十二條及ヒ其次條ノ概則ニ  
 依ル

記スル所ノ數罪俱發ノ例ニ照ラスヘキノミ  
 本條ニ記載スル通路中ニ鐵道アラサルコト宜シク注意スヘシ鐵道ニ付テハ更ニ嚴ナル別  
 段ノ規則ヲ設ル所ニシテ後ニ之ヲ見ルヘシ

第五百五十九條

〔第三百七十八號〕 郵便事務ノ緊要ナルハ極メテ大ニシテ假令道路ヲ損壞セシコトナシト雖  
 モ該事務ヲ偽計、威力若クハ脅迫ニ以テ妨害セシ時ハ本條之ヲ道路ヲ損壞シタルト同一  
 ノ刑ニ處スルニ至レリ  
 斯ノ如キ場合ニ於テ偽計トハ偶然ノ事ニ依テ尋常ノ通路絶ヘシ旨ヲ偽ツテ郵便脚夫ニ信  
 セシメ以テ迂路ヲ取ラシメ若クハ其事務ヲ遲滞セシムルヲ云フヘシ但シ其郵便事務ヲ阻  
 止セシ時間ノ長短如何ヲ區別スルニ及ハサルナリ  
 其目的ハ常ニ惡意ニ出ルヲ要ス本條ノ舊草案ハ素ト之ヲ明記セス何トナレハ其使用セシ  
 方便ノ性質ヲ檢シテ其惡意ヲ充分ニ發表スルトセサルコトヲ認ルハ一目瞭然ナレハナリ然  
 レモ立法者ハ茲ニ之ヲ明記スヘキモノト信セリ畢竟スルニ郵便ノ事務ヲ害スルニ外ナラ  
 スハ是則チ惡意アルノ目的ナリ

第六十條

往來通信ノ路ヲ毀壞損傷スル罪

〔第三百七十九號〕 電信ノ機械ハ公務上ノ他ノ諸機械ニ比スレハ有罪的ノ所業ニ過リ居多ナリ何トナレハ多クハ人ノ往來稀ニシテ人家ナキ地ニ之ヲ設レハナリ此機械ヲ毀壞損傷スル者ハ其所爲公ケノ信用ヲ欺テ以テ大ニ道德上ニ背キ又甚ク緊要ナル公務ヲ闕カシメテ以テ社會ノ公益ヲ害シ且併セテ若シ充分ノ刑ヲ以テ之ヲ禁スルナクハ遂ニ大ニ費用ヲ生スル監察ヲ要セシムルニ至ルヘシ

本條ハ電信機械ノ總體中ニ就キ損壞シタル部分ノ間ニ刑ノ等差ヲ立テリ即チ柱杭若クハ通信發受ノ機械ヲ損壞シタル時ハ唯條線ヲ絶テタル時ヨリモ其刑更ニ嚴ナリ其旨趣ハ第一ノ場合ニ於テハ第二ノ場合ニ於ケルヨリモ修復ノ時間長フシテ且ツ更ニ難ケレハナリ

本條ニ於テハ條線ヲ絶テタル事ノ外又他ニ通信ノ妨害ヲ論セリ蓋シ電信線ニ鐵線ヲ懸ケ之ヲ地中ニ埋メ以テ電氣ヲ地中ニ移シテ通信ヲ妨ルノ所爲アルコトヲ想像スルヲ得レハナリ

本草案ノ編纂已後日本國モ大ニ電信機ノ有用ナルヲ認メ電信機ニ斯ノ如キ保護ヲ與ルハ敢テ徒法ニアラサルヲ信セリ蓋シ此ノ法條ナクハ犯人或ハ初條ノ收縮ナル意義及ヒ刑ハ嚴格ニ法文ニ記スルモノニアラサレハ適用スヘカラスト云フ第二條ノ原則ノ意義ヲ

援ヒテ抗辯スルアルモ未ダ之ヲ纖微ノ論附會ノ説ト云フヲ得サルヘケレハナリ(附言參看)

〔附言〕 電信及ヒ電話ノ二字ハ原ト希臘語ヨリ來ルモノナリ即チ其電信ナル語ハ(遠方ニ書ク)ト云フ字義ニシテ電話ナル語ハ(遠方ニ聲スル)又ハ話ス(ト)云フ字義ナリ

第六十一條

〔第二百八十號〕 本條ニ論スル所爲ハ其刑ノ性質ニ於テ之ヲ示スカ如ク重罪タルナリ實ニ此所爲ノ社會公益ヲ害シ道德上ニ背ク事ハ十分ニ重ヲ加フレハナリ夫レ鐵道ハ其運輸器械ノ勢力ト其用ユル所ノ速力トニ依テ一同許多人ヲ運搬スルニ用ユルモノナレハ此ノ鐵管ヲ以テ一時ニ許多ノ人命ヲ害シ得ルモノナリ故ニ惡意ヲ以テ瀛車ヲ重大ナル災害ニ遇ハシムル者ハ縱令其災害到ラサル時ト雖モ重罪ヲ犯セルナリ

〔第二百八十一號〕 本條暗ニ示ス所ノ第一ノ注意ハ此犯罪ハ闕効又ハ未遂ニ止マリシモノニシテ既遂犯罪タルニ非スト見ユル事ニアリ然レモ是レ誤見ナリトス本條ニ於テハ他ノ點ヲ以テ觀察スレハ他ノ重罪及ヒ更ニ重キ重罪ノ未遂トスルヲ得可キ所爲ト雖モ之レト全ク異テ別段ナル重罪ノ名稱及ヒ性質ヲ附スルヲ得ルナリ

往來通信ノ路ヲ毀壞損傷スル罪



夫レ刑罰ノ須要ナル基礎中ノ一タル社會公益ノ損害ハ唯社會ニ於テ受ル所ノ危險又ハ厄難ノミチ以テ成立チ得ルヲ許シタリ抑モ亦是レ本案總則ニ屢々見ル所ノ原則ナリ然ラハ則チ其危險ヲ以テ更ニ重キ實害ノ未遂ノ性質有無ヲ檢究スルニ及ハサルナリ唯社會ニ危險ヲ受ケシムルニ過キサノ所爲ト雖モ法律之ヲ既ニ遂ケタル重罪又ハ輕罪トシテ罰スルノ場合甚タ多シ

故ニ官命ニ抗セントスル者兇器ヲ携帯スル者及ヒ住居ナクシテ諸方ニ徘徊スル者ノ如キハ其社會ニ受ケシムル所ノ危險ノ外社會ノ損害アルニ非スト雖モ次節ニ於テ之ヲ既遂輕罪トスルヲ見ルヘシ

次ニ其他斯ノ如キ場合ニ際會スルヲ其例少カラス例ハ贖金ヲ偽造シテ未タ之ヲ流通セシメサル時又ハ刑事ノ被告人ヲ曲庇シ若クハ之ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者アルニ裁判所ハ其偽證ニ反シテ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時ト雖モ必ス之ヲ別段ノ輕罪トシテ罰スルカ如キ是ナリ

其他社會ノ損害ハ唯多クハ其事ノ危險ナルニ存スルニ過キサノ確證アリ乃チ凡ソ未遂犯及ヒ闕効犯ニ於テハ其實害ナクシテ唯其危險厄難ノ恐アルニ過キサレト其刑ハ太々嚴重ナルヲ視テ知ルヘキナリ

本條ノ場合ニ於テ若シ單純ノ危險ヲ表スルニ止ラスシテ現ニ災害ヲ生シタル時ハ該犯人ハ其生セシメント欲シタル害ノ爲メニ罰セラルニ非スシテ現ニ生シタル害ノ爲メニ罰セラル可キ事後ニ之ヲ規定スルカ如シ

〔第二百八十二號〕 本條ハ斯ノ如ク危險ニ遇ハシメタル瀛車ハ旅客ノ瀛車タルカ又ハ荷物ノ瀛車タルカヲ區別セス且之ヲ區別ス可ラサルナリ蓋シ荷物ノ瀛車ハ本條ヲ適用スルノ理由ニ二箇アリ第一此瀛車ハ必ス數多ノ人之ヲ導クヲ以テ其者ノ生命ヲ危險ナラシムヘク第二若シ此瀛車傾覆セシ時ハ僅カニ距離ヲ隔テ、其次ニ來ル所ノ旅客ノ瀛車モ亦傾覆スルカ若クハ其前ニ横ハル所ノ障礙ニ依テ毀壞スルヲアル可キヲ以テナリ  
尙ホ建築中ノ鐵道ニシテ材料ヲ運輸スル瀛車ニ關スル時ハ此第一ノ理由ノミニ係ルヘシト雖モ本條ヲ此場合ニ適用スルノ旨趣トスルニ此理由ヲ以テ足ルヘシ  
其他此罪スヘキ所業ハ鐵道創設ノ際ニ在テハ稀ナルモノニ非ス蓋シ此迅速ナル通路ハ各自ノ利益ヲ害スルヲ多クレハナリ佛國ニ於テモ爰ニ記載セル類ノ罪事ヲ企テタルコト屢々ナリキ日本ニ於テモ必ス此罪事ヲ生スルコトナシト謂フ可カラス

犯罪ニ用ヒタル手段ノ本條ニ明記セルモノ、ミニ限ルニ非ス都テ何等ノ手段ヲ以テスルヲ問ハスノ明文ニ注意スヘシ例ヘハ鐵道ノ器械ヲ僞用シテ以テ線路ニ障礙アリト雖

モ其障礙ナキヲ偽ルノ信號ヲ傳ル如キ是ナリ

第六百六十二條

〔第三百八十三號〕 船舶ノ安寧ハ鐵道列車ノ安寧ヨリモ其社會ニ緊要ナルヲ敢テ讓ラス故ニ本條ハ前條ニ類スル手段ヲ以テ船舶ヲ災害ニ遇ハシムル者ニ對シテ同一ノ刑ヲ科セリ但シ其災害ハ類別多カル可キヲ以テ本條之ヲ一々豫定セスト雖モ多クハ船舶ノ暗礁ニ乗上ル事其沈没若クハ其衝突ノ如キ是レナリ

本按第三篇第二章ニ於テ罪スヘキ所爲ニ依テ船舶ヲ衝突シ之ヲ暗礁ニ乗上ケ若クハ之ヲ沈没シタル罪ヲ記載シテ其ノ第九節ニアリ此罪ハ私人ニ對シテ犯シタル重罪ノ部ニ之ヲ置ケリ實ニ定マリタル船舶ニ對シテ罪スヘキ所業ヲ爲シタルハ則チ既ニ其所業ハ公ケノ靜謐又ハ安寧ヲ害スル重罪ノ部類ニ屬セサレハナリ

本條ノ明文ハ損壞ノ豫定ヲ一般ニシテ以テ航海ヲ保護スヘキ標識ヲ論スルニ過キササルヲ以テ能ク此區別ヲ存セリ

故ニ船舶ヲ覆没セシムル爲メ其舵其螺旋機若クハ蒸氣器械ヲ損壞セシ者ハ私人ニ對スル重罪ヲ犯セルモノタルヘシ

并ニ此第六百六十二條ニ於テハ鐵道ノ爲メ前條ニ記スル所ノ保護ノ規則ヲ以テ航海ニ適用

スルノ目的ニ外ナラサルカ故ニ須ラク茲ニ船舶ヲ覆没スヘキ或ル手段ヲ用ユルノ罪ヲ増補スルヲ要ス是レ宜シク注意ス可キナリ

〔第三百八十四號〕 本條舊草案ノ正文ハ唯海上ノ航海ニ限ラレタルカ如ク看做サルヘキモノナリシカハ予ハ一般ニ「海上及ヒ河川」ノ通航ニ本條ノ適用スルヲチ爰ニ明記スルノ要用ナルヲ信ス又其他行政上ヨリ豫メ災害ヲ防クノ方便ヲ設置シタル諸江河ノ通航スヘキ處ニハ惡意ヲ以テ其豫防ノ方便ヲ破壞スルヲチモ本條ニ包含スヘキハ敢テ疑ヲ容レサルナリ

第六百六十三條

〔第三百八十五號〕 或ル犯罪ハ之ヲ犯セル者ノ身分ニ依テ之ヲ加重セリ特ニ其者該犯罪ニ反スル直接ノ責任ヲ有スル時又ハ之ニ關スル別段ノ信用ヲ受ケシ者ニシテ其信用ヲ欺キタル時ハ其罪ヲ加重スルナリ

既ニ總則ニ於テ之ヲ記シタルカ如ク或ル官吏其職務ニ於テ他人ノ犯罪ヲ制止スヘキ責任アリナカラ自カラ其罪ヲ犯シタル時ハ其身分ヲ以テ犯罪ヲ加重スルノ情狀トスルナリ

〔第一百十條ヲ看ヨ〕

又僕婢手代人等竊盜ヲ犯シタル時ハ其信用ヲ欺キタルノ故ヲ以テ更ニ嚴科ヲ以テ之ヲ罰

セルビツルヲレボゼー  
公ケノ靜謐ヲ害スル重罪輕罪

スル事後ニ(第二篇第二章第一節ニ於テ)之ヲ見ルヘシ

本條ハ則チ之ト同一ノ論理トス本條ノ爰ニ掲載スル所ノ者ハ通路ノ監守人ニシテ其自然  
ノ保護人タレハ都テ通路ニ妨害ヲ加ヘタル他ノ者ヨリモ更ニ罪ス可キモガルザンノタルナリ  
唯其一等ヲ加重スルハ前數條ノ刑ニ適用スルノミニシテ次條ノ場合ニ於テ科スル所ノ刑  
ニ之ヲ適用スルニ非サル事ヲ注意ス可キノミ

第六十四條

〔第二百八十六號〕 本條ニ記スル所ノ原則ハ既ニ前ニ見タル所ニシテ尙後ニ至テモ之ヲ見

ル可シ殊ニ本節ニ於ケルカ如ク犯罪ヨリ生スル社會ノ損害ハ實害ナラスシテ危險ニ止レ  
ル場合ニ於テ就中之ヲ見ルヘシ此場合ニ在テハ法律ニ於テ更ニ重キ即チ現ニ生シタル實  
害ヲ豫定スルニ至ル事自然適當ニシテ其刑モ亦現ニ生シタル實害ノ刑ト成ルナリ

本條ニ於テ此殺傷毆打ヲ豫メ謀テ爲シタルモノトシテ罰スヘシト定ムト雖モ是レ嚴ニ過  
ルモノニ非ス此罪事ハ一大災害ヲ生セシメントセシモノニシテ爲メニ人命ヲ害ス可キコ  
トハ確信スルヲ得可ケレハナリ且ツ該犯人ハ固ヨリ重罪ヲ犯サントスル意ナカリシニ非  
サルノミナラス豫メ多少ノ日子ヲ經テ此意ヲ計畫シ居レハナリ故ニ犯人ハ此ノ禍惡ヲ大  
ニスル事件ニ屬スル重加ノ刑ヲ受クヘキナリ(第二百二十七條及ヒ第三百三十七條ヲ看

ヨ)

然レトモ一時ノ憤怒ニ乘シ突然此ノ罪ヲ犯ス者ノ例モ亦稀ニ見ル所ナレハ裁判所ハ其場合  
ニ於テハ宜ク豫メ謀ルノ項ヲ離レテ斷スヘシ  
本條ノ正文ニ於テ創傷ノ刑ハ前記ノ刑ヨリ更ニ重キ時ニアラサレハ適用セラレスト明記  
シテ其意ヲ用ル周到ナリ是レ斯ク類似ノ場合ニ於テ讀者屢々見ル所ノ注意ナリ

第六十五條

〔第二百八十七號〕 前數條ノモノハ盡ク重罪ヲ論スルニ非ス初メノ三條ハ唯輕罪ヲ論シテ  
之ヲ罰スルノミ

凡ソ輕罪ノ未遂犯ハ律條ニ明記シテ之ヲ罰スル場合ノ外刑ヲ加フ可カラサルヲハ總則  
(第二百二十九條)ニ記スル所ナリ今爰ニ論スル所ノ場合ハ即チ此中ニアリトス

第六十六條

〔第二百八十八號〕 予ハ本條ニ於テ舊草案ノ正文ニ著キ更正ヲ加ヘタリ

舊草案ノ本條(第六十五條)ハ一揆暴動ノ際其鎮撫ヲナス政府ノ措置ヲ妨クルヲ目的ト  
スルニ外ナラスシテ爰ニ定メル重罪輕罪ヲ犯シタル時ニアラサレハ之ヲ罰セサリシナリ  
○蓋シ通路ヲ害スル所業ノ犯人若シ暴動ニ與ミセシ者ニシテ其反逆ノ成功ヲ確實ナラシ

公ケノ辯論ヲ害スル重罪輕罪

メシカ爲メニ鎮撫兵ノ到着ヲ妨害シ若クハ官憲ノ命令及ヒ公書ノ傳達ヲ妨ケントシタルニ出テタル時ハ其行爲ハ暴動ノ一端タルニ過キスシテ此罪ニ入ルナリ此場合ニ於テハ毆傷ハ勿論殺害ト雖モ第六十四條ニ據テ之ヲ罰ス可キニ非ス何トナレハ此事ハ主犯タル暴動ニ必要ナル結果ノ如キモノトシテ之ヲ看做スヲ得可ケレハナリ然レモ未タ暴動ニ就キ其他ノ事ヲ爲サ、ルノ前ニ方テ殆ト暴動ノ端緒ヲ開クタメニ同上ノ所爲ヲ爲スノアルヘキヲ注意ス可シ左レハ斯ノ如キ場合ニ於テ此ノ所爲ヲ無刑ニ措クヲ得ンヤ亦之ヲ内亂ノ單純ナル豫備ノ行爲ト看做スヲ得ンヤ故ニ之ヲ第二章ニ規定スル犯罪ヲ行フノ着手トシテ看做シ而シテ之ヲ第三十八條ニ定メル場合ニ附屬セシムルヲ必用ナルニ似タリ又日本國カ其地又ハ外國ニ於テ交戦スル外患ノ際ニ茲ニ定メル犯罪ヲナシ而シテ本國ニ叛キ敵國ノ利ヲ計ルタメ之ヲ犯ス者アルヲ予ハ嚮キニ注意シタリ若シ第三章ニ列記スル正條中一モ之ヲ明記シテ包含スルナクンハ之ヲ犯スモ刑罰ヲ免ル、ヘシ豈ニ遺憾ナラスヤ

斯ノ如ク本國ニ叛クノ重罪ノ刑ハ最重ノ嚴刑ヲ以テスヘキナリ即チ無期流刑是ナリ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

官吏ニ抗スル罪 第六十七條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政又ハ司法ノ命令ヲ執行スルニ

當リ重大ナル暴行若クハ脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ六月已上四年已下ノ輕禁錮拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

其暴行若クハ脅迫ノ目的、官吏ヲ強ヒテ其執行スルヲ欲セサル處置ヲ執行セシムルニ在リタル時モ亦同シ(刑、第三百二十九條○佛國刑法第二百九條ヨリ同第二百二十一條ヲ看ヨ)

宥恕又ハ(第四百一條ヨリ第四百十三條マテニ定メル場合ニ適スル犯人ニハ特ニ刑ノ宥恕及ヒ減輕ヲ行フヘシ)章、第二百十二條

刑ノ重加 第六十八條 前條ノ罪ヲ犯スニ當リ左ニ記載スル情狀アル者ハ各々一等ヲ加フ

一 其犯人二十人已上タル時

一 其犯人若クハ其中ノ者兇器ヲ持シタル時(顯然又ハ隱然ト持シタル時)佛刑、第二百十條

ヨリ第二百二十二條第二百二十四條マテ)

監視

第六十八條ノ二 (官吏ニ抗スル犯罪ノ首魁又ハ煽動者ハ輕罪ノ刑ニ處セラレ且一年已上三年已下ノ監視ニ附セラル可シ)佛刑、第二百二十一條

殺傷毆打

第六十八條ノ三 (若シ官吏ニ抗スル際ニ殺傷又ハ毆打ヲ惹起スルニ於テハ普通刑法ノ刑前記ノ刑ヨリ更ニ重キ時ハ同等ノ國事犯ノ刑ヲ以テ之ニ代フ但シ第四百十四條ノ適用アル場合ハ此ノ限ニアラス)章、第四百十三條○佛刑、第二百十六條

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

官吏ニ對 第三百六十九條 官吏其職務ヲ行フニ當リ又ハ其職務上ニ關シ其官吏ニ對シテ其面前ニ於テ  
スル不敬 形容若クハ言語ヲ以テ公然不敬、罵詈、侮辱ヲ爲シタル者ハ二月已上二年已下ノ重禁錮ニ處

シ五圓已上五拾圓已下ノ罰金ヲ科ス ナツアンス アンシニール ヴートライシ

若シ官吏ノ面前外ニ於テ刊行ノ文書公衆ニ對スル演說又ハ其他都テ公布ノ方法ヲ以テ不敬  
凌辱ノ所爲ヲ犯シタル者ハ一月已上一年已下ノ輕禁錮ニ處シ三圓已上三拾圓已下ノ罰金ヲ

科ス(刑、第四百一條○佛刑、第二百二十三條ヨリ第二百三十三條ニ至ル)

官吏ニ對 第三百七十條 公衆ニ對スル演說、刊行ノ文書其他都テ公布ノ手段ヲ用ヒテ官吏ノ職務上ニ  
於テ不正ノ所爲アリト誹謗シタル者ハ其人タルヲ問ハス其誹謗ノ事實ヲ證明スルニ非レ

ハ三月已上三年已下ノ禁錮(輕)ニ處シ拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科ス

其職務上ニ關セサル事件ニ係ル時ハ一個人民ニ對スル譏毀ノ規則ヲ以テ之ニ適用ス可シ  
(千八百八十一年七月二十九日ノ佛法第三十一條及ヒ第三十五條)

第三百七十一條 第三百三十五條ニ記シタル中央官署中ノ一若クハ其長其職員ニ對シテ前二條  
ノ罪ヲ犯シタル時ハ各々其刑ノ一等ヲ加フ

要旨

第三百八十九號 官命ニ抗スル罪及ヒ其他本節ニ規定スル犯罪ハ國事犯ノ性質アル事○  
此ノ國事犯ノ旨意ニ因リ本草案其刑ヲ輕減スルノ發案

第三百六十七條

第三百九十號 罪スヘキ抗抵ノ性質

第三百九十一號 前以テ請願スルナケレハ假ニ先ツ官命ニ服従ス可シ官命ハ決シテ一個  
人民ニ依テ枉ケラル可ラス○官署法律ニ違背スル事又ハ官署ノ遺失ハ法律ノ力ニ依テ  
匡正セラルヘシ此事ニ就キ本草案ノ修正

第三百六十八條

第三百九十二號 重加スヘキニノ場合

第三百六十八條ノ二

第三百九十三號 本草案ノ附則附 監視

第三百六十八條ノ三

第三百九十四號 其他ノ附則即チ官命ニ抗スルニ際シ人ノ身體又ハ財産ニ對スル重罪輕  
罪○國事犯ノ刑ノ場合、常事犯ノ刑ノ場合  
第三百六十九條

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第二百九十五號 官吏ニ對スル不敬、罵詈、侮辱及ヒ其區別

第七十條

第二百九十六號 官吏ニ對スル誹謗、誹謗ノ所爲トナルヘキ證據

第七十一條

第二百九十七號 其犯罪中央政府ニ係ル時ハ刑ノ一等ヲ重加スル事

第二百九十八號 爰ニ定メル輕罪ノ未遂犯ヲ法律ノ罰セサル理由

〔第三百八十九號〕 本節ニ記載スル犯罪ハ第二章ノ第三百二十七條ノ主眼タル犯罪ト其性質

ヲ同フセリ即チ是亦官署ニ對シ背叛スルナリ官署ノ自ラ有スル權利ト信スル所ヲ行フヲ  
ヲ阻止セシメンカタメ抵抗スル事又ハ官署自ラ其義務ト信セサルモノヲ強テ行ハシメン  
トスルノ企ナリ○本節ニ於テモ第三百二十七條ノ場合ニ於ルカ如ク犯人ハ兇器ヲ使用セサ  
ルモノトス渠レ縱ヒ兇器ヲ持帶スト雖モ之ヲ使用セシトハ唯人ヲ脅迫シ又ハ恐嚇スルノ  
具ニセシニ外ナラサルモノト想像スヘシ

第三百二十七條ニ定メル場合ト唯一ノ異ナルモノハ中央政府又ハ數多ノ縣廳ニ嚮テ背叛ヲ  
企ルニ非スシテ唯一地方ノ官廳即チ郡役所又ハ一縣廳ニ嚮テ背叛暴動スルニ係ル是ニ由  
テ其犯罪ノ名稱モ亦叛逆、叛亂、内亂ト言ハスシテ「官命ニ抗スル罪」ト言テ稍々平穩ノ稱ヲ  
セザシヨ

下セリ

若シ餘リ大變革ヲナシテ草案ノ秩序ヲ混ルノ恐ヲ抱カスハ予ハ本節ヲ悉ク第二章ニ編  
入シタル可ケレト然レト之ヲ爲サ、リシ所以ハ本節ノ第二章ト相比類スルノ地位ヲ保存  
スルヲ重スルノ理由アレハナリ是ニ絲テ之ヲ觀レハ茲ニ論スル所ノ犯罪ハ第二章ニ記ス  
ル所ノ犯罪ノ如ク國事犯ナルヲ知ルヘキナリ故ニ復タ常事犯ノ刑ヲ變シテ國事犯ノ刑ト  
ナスノ必用ナルヲ信スル所ナリ

佛國刑法第二百九條ヨリ第二百一一條及ヒ第二百二十二條ヨリ第二百三十三條ニ至  
ル日本刑法舊草案及ヒ日本現行刑法共ニ均ク官命ニ抗シ官吏ヲ侮辱シ及ヒ之ニ不敬ヲ  
加ル罪ニ對シ普通犯ノ刑ヲ適該スルトハ論理ヲ失フタル法律ナルカ如シ況ンヤ本犯ヲ普  
通犯内ニ列序スルヲニ於テチヤ

官命ニ抗スル罪ハ素ト少數ノ人衆或ハ時ニ因リ唯一人ヲ以テ成リ僅ニ一地方ノ官憲ニ對  
シテ起ルニ過キサルニ由リ公利公益ノタメニアラスシテ一人一個ノ私利ヨリ發スルモノ  
ナリ例ヘハ一個人ノ政府ニ竭スヘキ負擔又ハ義務ヲ遁ル、ノ願望ニ出テ、夫ノ國事犯罪  
ノ性質ヲ表スル天下億兆ノ塗炭ヲ救フノ志アルニアラスト云フ説ハ是ナリ然リト雖モ之  
ト相反スル場合亦鮮少ナラサルモノアリ是レ裁判所ヲシテ一概ニ其犯罪ノ多少國事犯ニ

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

原スルカ如クナルト或ハ多少一個人ノ私慾ニ出ルアルカ如クナルトニ從テ普通犯罪又ハ國事犯罪ヲ適意ニ宣告スルノ權ヲ有タシムルヲ難スル所以ナリ故ニ爰ニハ第百六十八條ノ三ニ記スルモノヲ除キ國事犯罪ノ刑ヲ設置クテ以テ尤モ賢ニシテ且尤モ正シキカ如シ且夫レ余ハ嚮ニ最モ確實ニ國事犯罪ト看做サ、ル可ラサル所ノ第二章ニ記スル犯罪ノ場合ニ於テ其重要ナル犯人又ハ謀叛ノ首魁等ハ自己ノ名利心ヲ抱キ權勢ヲ熱望スルノ鄙劣心ヨリ暴動ヲ起スニ至ルコト往々皆ナ然ラサルハナシト雖モ猶ホ法律ハ裁判所ニ此ノ鄙劣心ヲ檢索スルヲ許サ、リシコト看官ニ注意シタリ故ニ裁判所ハ犯人ノ心中ヲ措ヒテ其直接目下ノ目的ト官憲又ハ其職權ノ變更ヲ望ムヤ否ヲ審案スルノ外ナカルヘキナリ

又同ク第三章ニ記スル犯罪ナル本國ニ叛ク罪ハ多ク國事犯罪ト看做サ、ルコト得又實ニ國事犯タルコト屢々ナリ然レモ其犯人ノ心中ニハ射利ヲ熱望シ自ラ敵ノ探偵人又ハ間者トナリ敵ノ約束スル金錢ヲ得ンカタメニスルコトアルヘシ然レモ之ヲ措ヒテ毫モ其心情ヲ訊索ス可ラズ

本節ノ諸條ヲ最モ多ク適用スル一ノ場合アリ即チ官吏カ一人若クハ數人ヲ拘引セントスル時是ナリ實ニ此ノ場合ニ在テハ拘引サレントスル者官吏ニ抵抗シ而シテ其拘引サレントスル人ノ友曹傍ヲヨリ之ヲ解放センカタメ官吏ノ職務ヲ行ハシメサラント妨礙スルア

ルハ理ノ尤モ賄易キモノナリ是レ囚徒ノ逃走及ヒ罪人ヲ遁カサントスルニ係ル犯罪ニ最モ相近シ(第百七十四條及ヒ第百七十七條ヲ看ヨ)然レモ未タ充分ニ其拘引ヲ畢ラサルノ前ニ方テ官吏ニ抵抗スルニ於テハ次節ノ法條ヲ適用スルヨリモ本節ノ法條ヲ適用スルヲ蓋シ良シトス

第百六十七條

〔第二百九十號〕 本條ハ其罰スヘキ犯罪ノ二項ヲ示セリ即チ官吏ノ所爲ニ抵抗スル事官吏ヲ強ヒテ枉ケル事是ナリ

茲ニ定メル犯罪ノ性質上ニ就キ別ニ論陳スルノ要用アラサルナリ其犯罪ノ目的ト及ヒ其方法ハ詳カニ正文ニ明記スル所タリ蓋シ其目的ハ法律、行政規則若クハ裁判宣告ノ執行ヲ妨礙スルニ在リ本條第二項ニ記載スル官吏ヲ強ユルコトモ此ノ内ニ在リ是レ何レノ國ヲ問ハス社會ノ重害ニシテ官吏ノ權利ヲ毀損スルノ尤モ甚シキモノナリ○又其方法ハ暴行若クハ脅迫ニシテ即チ何レノ場合ヲ問ハス責罰ス可キ所爲ニシテ特ニ此場合ニ在テハ然リトス

本條ハ唯服從ノ義務ヲ拒ミ姑息シテ命ヲ行ハサル者ヲ罰スルニ非ス何トナレハ此抗拒ハ官憲ニ於テ容易ニ之ヲ挫折スルヲ得レハナリ例ヘハ人民ヲシテ或ル負債ノ義務ヲ盡サシ

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

ムルノ處置ニ關スル時ハ其財産ヲ差押ユ可ク又兵役ニ於ケルカ如キ服行スヘキ所業ニ關スル時唯依然トシテ令ニ趨カサル者若クハ遁逃スル者ハ軍律ヲ以テ之ヲ罰ス又爲ス可カラサル行爲ニ關スル時ハ官憲威力ヲ以テモ之ヲ制止スルヲ得可シ而シテ此時ニ方リ人民若シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ抗拒スルナケレハ官憲ハ之ヲ十分ニ服從シタリトス可シ且ツ其暴行若クハ脅迫ハ重大ノモノタルヲ要ス此重大ト云ヘル語ハ法律中ニ屢々之ヲ見ル可シ人或ハ本條ニ於テ十分ナル明文ヲ掲ケスシテ裁判所ノ審按ニ委スルノ度ニ過ルヲ非トスル者アル可シト雖モ今ヤ殺傷毆打(第百六十八條ノ二)ノタメ殊ニ法律ヲ設ケタル以上ハ裁判所ニ多少ノ審査權ヲ與ルモ不都合ナカルヘシ

本條ノ場合ト第百三十七條ノ場合トノ差違ヲ能ク鮮明ナラシメンカタメニハ本犯ハ固ト中央政府ニ嚮フテ犯スニアラスシテ唯地方政府ニ嚮テ犯スヲ要スルヲ特ニ掲グルノ必用ナルヲ信スルナリ

〔第二百九十一號〕 又余ハ更ニ重要ナル一ノ新案アリ即チ其官吏ニ抵抗シタル罪ニ於テハ官吏正當ニ法律ニ適シテ事務ヲ行フ場合ト法律ニ背キ事務ヲ行フ場合トノ差別ヲ廢除シ而シテ官吏ヲ強ヒテ枉ケタル罪ニ於テハ官吏カ爲スヘカラサルニ由リ爲サハリシテ強ヒテ爲サシムル場合ト官吏ノ本職ニ於テ爲スヘキモノナレト自ラ怠慢シテ爲スヲ好マサリ

シテ強ヒテ爲サシムル場合トノ差別ヲ禁絶スル事是ナリ

此ニ就キ草案ハ此ノ二場合ノ間ニ一ノ區別ヲナセシカトモ其區別ハ自然ノ理ニ據ルト言ハノヨリ寧ロ細微ニ過ルノ評ヲ下スヘキ歟即チ官吏ニ抵抗スル場合ニ於テハ官吏カ「正當ニ」其事務ヲ行フ時之ニ抵抗スルニアラサレハ罰セストシ而シテ官吏ヲ強ヒテ爲サシムル場合ニ於テハ官吏カ唯爲スヲ欲セサル時之ヲ強ヒテ爲サシムルノ一事ヲ以テ之ヲ罰セシナリ頒布ノ正條(刑法第百二十九條)ハ更ニ之ヨリ簡單ナリ即チ官吏カ其事ヲ行フモ行ハサルモ其事ノ法律ニ適合スルニアラサレハ之ニ抵抗シ之ヲ牽制スル者ヲ罰セサルナリ

茲ニ各人ノ自由ヲ制スルノ少ク度ニ過ルカ如クナルノ恐アレトモ余ハ官命ノ令スル時ニハ縱ヒ其令ス可ラサル時ト雖モ常ニ先ツ一タヒハ官命ニ服從スヘキモノタルヲ信ス又官吏常ニ爲サ、ル可ラサル時ニ怠リテ爲サ、ル時ト雖モ決シテ強ヒテ官吏ニ迫リ爲サシムヘカラサルモノト信スルナリ

常ニ官吏タル者ハ人民カ常ニ官吏ト利害ヲ殊ニスルニ由リ誤解スル所ノ者ヨリモ自己ノ職權ト責任ヲ能ク辨知スルモノト想像スヘキハ事理ノ當ニ然ルヘキノミ然ルヲ况ンヤ何人ヲ問ハス人民ニシテ自ラ官ノ事務ノ曲直ヲ裁判ス可ラサルハ一定ノ原則ナルニ於テオ

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪



ヤ若シ人民ニシテ官ノ所置ノ不當ナルヲ辭柄トシテ暴行又ハ脅迫ニ依リ官ニ抵抗スルヲ得ハ之ニ由テ遂ニ大ニ公寧秩序ヲ紊ルノ弊ヲ生スヘシ若シ又暴行ニ依テ抵抗スルヲ正當ナリトセハ兵器ヲ以テ官ニ抵抗スルヲ亦復タ正當タルヲ妨ケズ然リト雖モ舊條ヲ保護スルノ論者ハ此極マテ深ク慮リシヲアラサルヤ疑ヲ容レス○若シ人民カ官吏ノ非曲ヲ受ケテ直ニ之ヲ止メ之ヲ償ハシムルニ訴ルノ路ヲ法律上ニテ毫モ定メシヲナクンハ官吏ニ抵抗スルノ權ト官吏ヲ強ヒテ行ハシムルノ權トヲ人民ニ與ヘサルヲ得ス是レ則チ紛擾一揆ノ絶ヘサル基トナル所以ナリ然レモ日本國ニ於テハ他ノ文明國ニ於ルカ如ク官民ノ間ニ生スル紛議ヲ裁決スル所ノ行政裁判所アリ又重罪裁判所ト雖モ行政官吏ノ大ニ其職務ヲ缺ク者ヲ嚴重ニ罰スルノ權ヲ有スルナリ

其他人民カ假リニモ官吏ニ抵抗シテ其曲直ヲ斷ス可ラサルヲニ就キ困難ノ生スヘキモノアリ例ヘハ最初命令ヲ出セシ上長官ニ於テ其管轄外ノ事ヲ令シ法律ヲ侵スヲアルヘシ然レモ之ヲ執行スルノ命ヲ受ケタル屬官ハ一意長官ノ令ヲ奉シテ行フ者ナレハ是復其職務相當ノ事ヲ行ハス其管轄ノ範圍ヲ超越スルヲ免レス然レモ此屬官ハ苟モ自己本分ノ義務ヲ缺クニアラサレハ人民ノ脅迫又ハ暴行ニ降從スルヲ得サルヘシ斯ノ場合ニ於ルモ猶ホ且人民ノ抵抗ハ寛假セラレサルナリ

故ニ余ハ敢テ大言セン人民第一ノ義務ハ官命ノ令スルト禁スルトヲ問ハス官吏ノ爲スト爲サハルトニ拘ラス其直ナルト曲ナルトヲ分タス先ツ官命ヲ敬奉スルニアリト云フハ一定ノ原則ナリト但シ其後ニ至リ相當ノ路ニ頼リ官吏ノ爲セシ事ノ取消又ハ官吏不正ヲ着手シ若クハ遂ケシニ因リ損害ヲ生セシ賠償ヲ要求スルノ權利ハ一定奪フヘカラサルノ理ナリ

行政處分ノ法律ニ背キタルニ因リ官吏ニ抵抗シタル犯人ニ許容スヘキヲハ若シ最初ノ非曲カ行政官ノ方ニアルモハ酌量輕減ノ恩典ヲ與ルヲノ一事ナリ

余ハ茲ニ本條ノ第三項トシテ犯罪ノ起ル前ニ悔ヒテ自ラ退散シタル者又ハ犯罪ノ畢ル前ニ自首シテ縛ニ就キタル者ノタメニ刑ノ宥恕及ヒ減輕ヲ追記スヘキモノト信ス是レ第四百一十一條ヨリ第四百十三條ニ至ル諸條ニ記スル最モ重大ノ場合ニ於ルノ寛大ノ恩典ト其理ヲ同フスレハナリ

第百六十八條

〔第二百九十二號〕 此二個ノ場合ニ於テハ頗ル社會ノ危難ヲ増加セルノ理由ニヨリ茲ニ刑ノ重加ヲ設ケタリ何トナレハ官吏此無法ナル抗拒ヲ遏制スルヲ前條ニ比スレハ更ニ難キヲ以テナリ

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

此他許多ノ事項ニ在テ犯人ノ多人數ナルト其兇器ヲ持スルトニ依リテ此ノ如ク一等ヲ加フルヲ見ル可シ加之時トシテハ二十人マテノ人員ヲ要スルヲナク且ツ其携帯セル武器兇器タルニ非スト雖モ危險ノ武器タルヲ以テ足レリトシ以テ一層嚴刑ニ處スルヲアル可シ其他該犯人ハ悉ク兇器ヲ持スルヲ要スルニ非ス唯其一人之ヲ持スルヲ以テ足ル可シ又其兇器ヲ用ヒントシテ脅迫シタルヲ要スルニ非ス并ニ其兇器ヲ陽ニ携帯セシヲ要スルニ非ス或ハ陰ニ之ヲ携帯セルヲアル可シ此場合ニ於テハ其兇器ハ恐嚇ノ手段タルニ非スト雖モ一層大ナル社會ノ危險ヲ爲スハ陽ニ之ヲ携帯セルト異ナラサレハナリ本條ノ正文ニ於テハ兇器ハ如何ナル物ナルヘキカヲ定メス佛國刑法ニ於テハ兇器トハ凡ソ物ヲ切斷スヘク又衝突スヘク或ハ毀傷スヘキ兵仗器具ヲ總稱スヘキモノトセシカ其次ニ於テ勢ヒ之カ區別ヲ爲サ、ルヲ得サルニ至レリ(佛國刑法 第一百條)故ニ其各事ノ場合ニ因リ犯人ノ携帯セシ某々ノ物件ハ兇器ノ物質有リ又ハ無シト斷スルノ勞ヲ一ニ裁判所ノ意見ニ委ヌルノ賢良ナルニ如カサルカ如シ其物件ハ自然ノ勢ニ因テ切斷スヘク衝突スヘク又ハ毀傷スヘキモノタルヘシ我カ日本國ニ於テモ佛國ニ於ルカ如ク其物件本來ノ性質兵仗ニ使用スヘキモノタルヲ要セサルヘシ乃チ竹木棒棍若クハ農具鋤耒モ亦一時ノ兇器タルヲ得ヘシ

爰ニ重加ノ情ヲ認メンカタメ定メタル犯人ノ最少數ノ員數ヲ舊條ニテハ十人ト定メタリ今之ヲ佛國刑法ノ如ク二十人ト定ムルヲ善シトス(佛國刑法 第二百十條及ヒ 第二百十一條)

畢竟スルニ佛國刑法ノ正條ト我カ草案ノ正條トノ間ニ何等ノ相均同類似スルモノアルヲ見ス之ヲ要スルニ佛國ノ法典ハ官命ニ抗スル罪ニ對シ無上ノ嚴刻ヲ加ヘ將ニ起ラントスルノ惡弊ヲ憂ルハ現實起リタル惡弊ヲ慮ルヨリモ更ニ深密ナルナリ

第六十八條ノ二

〔第二百九十三號〕 一ノ地方ノ官憲ニ抗敵スルノ罪ト中央政府ニ叛スルノ企謀ト二罪ノ相類似スル所ヲ完全ナラシメンカタメ本草案ニ此附則ヲ補添シタリ乃チ本條カ裁判所ニ其適用ヲ委スル所ノ監視ハ第四百七條ノ監視ニ均シ唯本條ノ監視ハ官命ニ抗スル犯罪ノ首魁又ハ煽動者ニ對シテ適用セラルニ止リ其煽動サレテ附和隨行シタル者ニ之ヲ適用ス可ラサルナリ

監視ノ刑ハ固ト禁錮ノ如ク前條ニ定メル重加ノ情アルカタメニ其期限ニ一等二等ノ輕重ヲナサス蓋シ監視ハ禁錮ノ附加刑トシテハ等級ノ増減昇降ヲナサスシテ確然一定ノ方ニ仍リ豫メ法律ニ定メル處ノ期限ヲ全科スルヲ普通ノ原則トス(第四十九條及 第八十七條)

官吏ノ職務ヲ行フチ妨害スル罪

ヲ比照スヘシ

第六十八條ノ三

七四〇

〔第二百九十四號〕 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨クル罪ニ對シ本條輕罪ノ刑ヲ設ケタルニ過キサ  
ル所以ハ此ノ犯罪ニ由テ生スヘキ人ノ身體ニ對シテ其他ノ重罪輕罪ヲ算入セスシテ本犯  
其物ヲ考ルキハ亦唯一ノ輕罪ニ外ナラサレハナリ○夫レ實際是ニ由テ毆打又ハ創傷アル  
ヲ甚タ鮮少ナラス其甚タシキニ至テハ人ヲ殺スヲモ亦無キニシモアラヌ其場合ニ於テハ  
其創傷若クハ殺害ハ兵器ヲ使用シタルノ結果ナルト否トナ亦判別スルノ時ニアラサルナ  
リ

其時ニ及テ法律ハ此等附帶ノ犯罪ニ適スルノ刑官吏ノ職務ヲ行フヲ妨クル罪ノ刑ヨリ更  
ニ重キ時ハ其重キ刑ヲ申渡スアルノミ○而シテ本犯ノ目的ニ據テ考察スルニ本犯ハ猶ホ  
國事犯ノ犯罪ト看做スヲ繼續スレハ法律ハ又其刑ヲ案シテ國事犯ノ刑ノ等級ニ適合ス  
ルヲ欲スルナリ是復タ余ノ本草案ニ補充セント欲スル所ノ條項ナリ  
故ニ本犯ノ最重ノ刑ハ死刑又ハ無期徒刑ニアラスシテ無期徒刑ナリ而シテ有期徒刑ハ有  
期徒刑ニ代ヘラレ輕重ノ二懲役ハ同期限ナル輕重ノ二禁獄ニ重禁錮ハ輕禁錮ニ代ヘラ  
ルナリ

然レ且身體又ハ財産ニ對スル重罪又ハ輕罪ノ眞意官吏ノ職務ヲ行フヲ妨クルニ出テサル  
時ハ第四百十四條ニ照シテ正ニ之ニ普通犯ノ刑ヲ適用スヘキナリ故ニ本條ハ其照應ヲ第  
百四十四條ニ取ル

第六十九條

〔第二百九十五號〕 本條ハ天皇陛下ニ對シテ犯セル同種ノ輕罪ヲ豫見シテ之ヲ罰スル所ノ  
第二百二十二條ニ類似スルヲ其文面ヲ以テ之ヲ見ル可シ

本條ニ於テモ亦不敬、罵詈、侮辱ノ二語ヲ記載セリ此二語ハ唯能ク輕重ノ少差ヲ示スト雖  
モ其刑ヲ變スルモノニ非ス又茲ニ被害人之面前ナルト其面前ニ非サルトノ間ニ區別アル  
ヲ見ル可シ此區別ハ右ニ反シテ頗ル刑ヲ變スルモノナリ何トナレハ被害人公衆及ヒ凌辱  
者ノ面前ニ在ル時ハ其凌辱ヲ感スルヲ更ニ甚シケレハナリ佛國刑法ハ此ノ區別ヲ爲スヲ  
知ラサルナリ○此二個ノ場合ニ於テハ公然其凌辱ヲ爲シタルヲ要ス此輕罪ヨリ生スル  
道德上及ヒ社會公益上ノ損害ハ其凌辱ニ依テ被害人ヲシテ他人ノ尊敬ヲ失ハシメントス  
ルヨリ生スルモノナリ蓋シ甲人乙人ニ對シテ傍ニ人ナキニ於テハ重大ニ乙人ヲ凌辱ス  
ルヲ得ス何トナレハ乙人ヲシテ自カラ其身ヲ輕侮セシムルヲ得サレハナリ加之其傍ニ  
人アリト雖モ被害人ノ最近ノ親族ニシテ即チ其尊屬親、卑屬親、配偶者、兄弟、姊妹且ツ其以  
官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

七四一

外ノ者タル時ハ公然凌辱ヲ爲シタルモノトス可カラサル可シ實ニ此諸人ハ自己ノ面前ニ  
テ被害人ノ凌辱セラレタルヲ見ルト雖モ是レカ爲メ其者ノ智愚善惡ヲ判セサル可ケレハ  
ナリ

僕婢若クハ雇人ノ面前ニ於テ其主人ヲ凌辱シタルニ關スル時ハ之ト異ナル可シ

都テ此場合ニ在テハ裁判所ニ於テ其公然ニ係ルヤ否ヤヲ鑒定シ被害人ノ親族ノ外其場ニ  
在ラサル時ト雖モ公然凌辱ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得可シ

他人凌辱ヲ爲セシ時其凌辱ノ證人二人ニ過キサルモ猶ホ公然凌辱ヲ爲シタルモノトス  
可キヤ如何ニ蓋シ裁判所ニ於テ之ヲ然リト決定スルヲ得可シ然レモ僅カニ一人ノ面前ニ

シテ且ツ私ノ場所ニ係ル時之ヲ公然ノモノト看ルハ道理ニ適セサル可シ

故ニ都テ此場合ニ於テハ其凌辱ヲ爲サントスルノ意確實タルヲ要ス何トナレハ凌辱セ  
ントスルノ意ナシト雖モ忿怒短氣若クハ無學醉狂ニ依テ惡言ヲ發スルヲアレハナリ又裁

判所ハ宜ク人々各自ノ身分地位ヲ審察セサルヘカラス

若シ本人ノ面前ニ於テ凌辱ヲ爲ス時ハ其方法ハ言語又ハ形容ヲ以テスルノ外毫モ之レ有  
ラサルナリ其面前外ニテ之ヲ爲ス時ハ凌辱ノ方法更ニ多クシテ演說、著書、圖畫、肖像等皆

ナ其公クノ凌辱ヲナス手段タルヲ得

官吏ノ面前ニ於ケル凌辱又ハ其面前外ノ凌辱ニ共通スル條件ハ其職務ヲ行フニ當テ凌辱  
ヲ爲シ若クハ其職務上ニ關シテ凌辱ヲ爲スニ是レナリ唯官吏其場ニ在ラサル時ハ其凌辱  
ハ決シテ職務上ニ關スル時ニ外ナラサル可シ何トナレハ其凌辱ハ官吏其職務上ニ於テ爲  
シタル事又ハ爲サ、リシ事ヲ誹謗シ若クハ其職務ヲ行フニ於テ其正直、才智、勇氣ノ如何  
ヲ誹謗スルモノタル可ケレハナリ  
其不敬若クハ凌辱、官吏ノ職務ニ關スルニ非サル時ハ之ヲ一個人民ニ對スル不敬ト看做  
ス可シ

第七十條

〔第二百九十六號〕 本條ニ論スル輕罪ハ官吏ニ對スル讒毀ナリ人民ニ對スル讒毀ニ付テハ

第二篇第一章第十二節ニ於テ之ヲ論ス可シ

此二個ノ讒毀ノ間ニ存スル大ナル差別ハ左ノ如シ官吏ニ關スル場合ニ於テハ其事實ニ相  
違アル時ノ外其讒毀ヲ罰スルヲ得ス是ヲ以テ其讒毀眞ノ誣言トナリタル時ノ外之ヲ罰  
セサルニ在リ之ニ反シテ一個人民ニ關スル時ハ其事實タルノ證據アリト雖モ之ヲ立ル  
ヲ許サスシテ常ニ其讒毀者ヲ罰スルナリ何トナレハ其者ハ自カラ知り若クハ知リタリト  
信スル他人ノ惡事ヲ告發スルノ正當ナル利益ヲ有セス故ニ其權利ヲ有セサレハナリ

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

若シ其者自己ニ於テ他人ヨリ害ヲ受ケタル時ハ之レカ償贖ヲ得ンニハ裁判所ニ訴フルノ路アル可シト雖モ其手段ヲ讒毀ニ求ム可カラサルナリ  
之ニ反シテ官吏其職務ヲ行フニ於テ不正ノ處置ヲ爲シタル時ハ都テ人民ハ多少直接ニ其處置ノ害ヲ受ルモノト看做サル、ヲ得可シ然レモ之ヲ以テ裁判所ヘ民事上又ハ行政上ノ訴ヲ爲ス可キニ非ス故ニ公然官吏ノ過失ヲ摘發スルノ權利ヲ有スルモノト言フニ至ルヲ得スト雖モ少クモ其所爲ハ罰スヘキモノニ非スト言フヲ得可シ何トナレハ其所爲ハ官吏ヲ害スルノ意ヨリ出テタルヨリモ寧ロ一般ノ利益ヲ謀ルヨリ出テタルモノト推測スルヲ得レハナリ抑モ亦人民カ之ヲ以テ官吏ノ擅權越權ヲ制スルノ一手段トスルヲ往々アレハナリ

讒毀シタル事件ノ事實及ヒ其不正ナルコトヲ證明ス可キ責アル者ハ則チ其讒毀者ニシテ官吏ハ其所爲ノ事實ニ違フ事又ハ其公正ナル事ヲ證明スルニ及ハサルヲハ論ヲ待タス唯官吏ハ讒毀者ノ供シタル證據ヲ駁撃シ之ヲ辨駁ス可キノミ  
此ノ如ク人民ヲ許シテ官吏ニ對スル讒毀ノ事實ヲ證明セシムルノ法ハ反覆熟慮シタル後ニ定メタルナリ(附言參看)

官憲ニ對シテ盡ス可キ尊敬ノ爲メニ之ヲ危險ナルモノト見ル可カラス歐羅巴中殊ニ佛國

ニ在テハ法律上ニ於テ十分ニ官憲ヲ保護スト雖モ多年來此論理ヲ收用セリ蓋シ官憲ハ讒毀者ノ誣言ヲ罰スルマテ且ツ事實ノ證據ヲ確立スルニ至ル迄ハ其處置ヲ公正ナルモノト推測セルヲ以テ十分ノ保護ヲ受レハナリ、

第七十一條

〔第二百九十七號〕 第二百二十五條ニ記シタル中央官署ハ天皇陛下ノ輦下ニ在テ帝國中威權最モ高キモノナリ故ニ更ニ他ヨリ嚴ナル方法ヲ以テ誣言ノ罪ヲ防ク可キナリ

譬ヘハ元老院、參事院若クハ大審院ニ於ケルカ如ク全ク一体ノ官衙ニ對シテ讒毀ヲ爲スヲアル可ク又其職員中ノ一人若クハ數人ニ對シテ之ヲ爲スヲアル可シ此二個ノ場合ニ於テハ本刑ノ一等ヲ加フ可キナリ

〔附言〕 頒布ノ正條ニ於テハ此ノ規則ヲ廢削シ而シテ出版條例ニ於テハ官吏ニ對シテ誹謗シタル事實ノ證據ニ就キ嘗テ默シテ言ハス然ラハ則チ人民ニ其事實ヲ證明スルヲ許サ、ルヤ知ル可キノミ

〔第二百九十八號〕 法律ハ爰ニ定メル輕罪ノ未遂犯ヲ罰セサルヲ須ク注意ス可シ

實ニ官吏ニ抵抗シ官吏ヲ強テ行ハシムルノ未遂トハ如何ノ尙ホ又不敬又ハ誹謗ノ未遂トハ何ソヤ人得テ容易ニ解スル能ハサルヘシ夫レ犯人カ抵抗強制、不敬又ハ誹謗ニ着手シ

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

タル時ハ則チ是レ業既ニ輕罪ヲ爲シ遂ケタルノ時ナリ唯酌量情狀ヲ認ムヘキ理由ノ有無ニ由リ其人々ノ罪過ニ於テ差等ヲナスコトアルノミ

若シ法律ニ於テ枉ケテ官命ニ抵抗スルノ未遂犯ヲ認ント欲セハ其レ唯往來ノ通路ヲ損壞シ電信ノ路ヲ斷チ郵便ノ通信ヲ杜絶スルノ事ナル歟然レ此等ノ所爲ハ既ニ充分嚴重ニ法律ノ罰スル所タリ(第百五十八條第百五十九條及ヒ第百六十條)故ニ爰ニ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨クル輕罪ニ付其未遂犯ノ性質ヲ究索スルノ必要アラサルカ如シ蓋シ其未遂犯ナルヲ認メテ本刑ノ二等又ハ三等ヲ減スル時ハ遂ニ本刑ノ本來ノ地ヨリ降リテ更ニ下等ノ刑ニ降等セシムルニ至レハナリ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ナシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

獄舎等ヲ毀壞シテ逃走スル者ハ一月已上六月已下ノ重禁錮ニ處ス  
凡有期ノ刑ニ處セラレタル囚徒、獄舎、獄具又ハ護送車ヲ毀壞シテ逃走シタル者ハ一月已上六月已下ノ重禁錮ニ處ス

同ク暴行又ハ脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ二月已上一年已下ノ重禁錮ニ處ス(但シ若シ毆打又ハ脅迫ヲ爲シテハ創傷ノ常刑本刑ヨリ更ニ重キ時ハ此ノ限ヲアラス)刑、第百四十二條○佛刑、第二百四十五條

無期ノ囚徒ノ場合 若シ無期ノ刑ニ處セラレタル囚徒本條ノ罪ヲ犯シタル時ハ諸刑執行規則ニ定ムル懲戒ノ刑

ニ處ス

再犯ニ付 第百七十三條 已決囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再ヒ逃走シタル場合ノ外再犯ノ例ニ照シテ刑ヲ加重ス可カラズ(刑、第百四十三條)

未決囚ノ逃走 第百七十四條 凡ソ嫌疑又ハ告訴ヲ受ケタル未決中ノ囚徒第百七十二條ニ記載シタル手段ノ一ヲ用ヒテ逃走シタル者ハ該條ニ記シタル刑ニ處ス

數罪俱發ノ例ニ照ス 然レハ原犯罪ノ判決ニ至ルマテ逃走罪ノ判決ヲ延引シ以テ原犯無罪ニ歸スル時ハ止テ逃走ノ刑ヲ科シ原犯有罪ニ決スル時ハ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス(刑、第百四十四條○佛刑、第百四十五條)

逃亡人ノ數多ナル時 第百七十五條 已決又ハ未決ノ囚徒三人以上通謀シテ逃走ヲ爲シタル時ハ第百七十二條ニ記載シタル刑ニ照シテ一等ヲ加フ(刑、第百四十五條)

逃亡ノ方法ヲ授ケタル罪 第百七十六條 凡ソ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ或ル器械ヲ與ヘ若クハ兇器其他暴行及ヒ恐嚇ノ手段ヲ授ケタル者ハ此所爲ノミヲ以テ二月已上二年已下ノ重禁錮ニ處シ貳圓已上貳拾圓已下ノ罰金ヲ科ス

續キ、從犯 囚徒其手段ヲ用ヒテ逃走シタル時ハ三月已上三年已下ノ禁錮ニ處シ三圓已上三拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(但シ毆打創傷ノ從犯ノ刑本刑ヨリ更ニ重キ時ハ此ノ限ニ非ス)刑、第百四十六條

囚徒逃走ノ罪及罪人ナシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

○佛刑、第二百三十九條ヨリ第二百四十二條ニ至ル

囚徒ヲ劫奪スル罪

第四百七十七條 暴行脅迫ヲ爲シテ或ハ獄舎護送車ヲ毀壞シ以テ監守又ハ護送ノ任アル者ヨリ囚徒ヲ劫奪シ又ハ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科ス

重加ノ情(其囚徒既ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科ス)

若シ左ニ記載シタル二個ノ情狀アルキハ各々本刑ノ一等ヲ加フ

其一 二人以上ニテ此輕罪ヲ犯シタル者

其二 此犯人又ハ其中ノ一人兇器ヲ持セシ時刑、第四百七十七條

監護人ノ懈怠

第四百七十八條 囚徒ヲ監守又ハ護送スルノ任アル者其懈怠ニ因リ囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ其重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ關シテハ五圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科シ又其禁錮ノ刑又ハ拘留ニ處セラレタル囚徒若クハ輕罪重罪ノ未決囚徒ニ關シテハ貳圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ科ス(刑、第五百十條○佛刑、第二百三十七條、第二百二十八條)

擯キ、不  
論罪

第四百七十九條 懈怠ニ依テ囚徒ヲ逃走セシメタル監護人又護送人一月内ニ逃走者ノ捕獲ヲ助ケテ之ヲ捕縛セシメ且ツ其間逃走者別ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯セシメナキニ於テハ其罪ヲ論

セズ(佛刑、第二百四十七條)

監護人ノ内通

第四百八十條 監護人又ハ護送人若シ囚徒ト通謀シテ逃走セシメタル時ハ左ノ如ク處斷ス  
第一 拘留ノ囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ二月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ科ス

第二 輕罪ノ囚徒又ハ未決ノ囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三 有期ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ重懲役ニ處ス(刑、第四百八十八條○佛刑、第二百三十七條ヨリ第二百四十條ニ至ル)

監護人ノ刑ノ重加

第四百八十一條 監護人又ハ護送人若シ囚徒ノ破獄暴行又ハ脅迫ヲ助ケテ逃走セシメタル時ハ前條ノ刑ニ照シテ一等ヲ加フ

公權剝奪ヲ犯スノ罪

第四百八十二條 公權剝奪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ノ全部又ハ一部ヲ停止セラレタル者其禁セラレタル權利中ノ一個又ハ數個ヲ詐テ行フタル時ハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス(刑、第五百十四條○千八百五十二年ノ佛法、第三十二條)

監視ヲ破ル罪

第四百八十三條 監視ニ付セラレタル者擅ニ法律又ハ規則ニ定ムル所ノ義務ヲ破リタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス(刑、第五百五十五條○佛刑、第四十五條)

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

再犯ノ變 第八十四條 前二條ニ記載シタル場合ニ於テハ再ヒ同罪ヲ犯シタル時ニ非レハ再犯ヲ以テ論ス可カラズ(刑、第五百五十六條)

逃亡ノ囚 第八十五條 逃走シタル囚徒又ハ監視ヲ脱シタル者ヲ故ラニ藏匿シ若クハ其隱避ヲ助ケタル者ハ其拘留又ハ禁錮ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時及ヒ未決ノ囚徒ニ係ル時ハ并ニ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス

捕縛セントスル搜索中ノ者ニ係ル時ト未決ノ囚徒ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル時ノ刑ニ同シ(刑、第五百五十一條○佛刑、第二百四十八條)

〔重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一月以上六月以下ノ禁錮ニ處シ四圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ科ス〕

屍ヲ隱蔽スル罪

第八十六條 凡ソ他人ノ罪ヲ免レシメントスル目的ヲ以テ殺人、禁錮、毆打、創傷若クハ都テ罪ト爲ル可キ原由ニ因リテ死シタル者ノ屍ヲ隱蔽シタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ科ス(刑、第五百五十二條○佛刑、第三百四十九條)

其親族タル者ハ刑ヲ免ス

- 一 本犯ノ配偶者
- 一 本犯及ヒ其配偶者ノ正統ナル尊屬親及ヒ卑屬親

- 一 本犯及ヒ其配偶者ノ兄弟、姉妹、伯叔父母、甥姪(刑、第五百五十二條○佛刑、第二百四十八條ノ第二項)

未遂犯

第八十八條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ之ヲ罰ス(刑、第四百九十九條○佛刑、第二百四十一條、第二百四十五條)

要旨

第七十二條

第七十九號 奸計ヲ行ヒ又ハ意外ノ好機ニ乘シ逃走スルト獄舎ヲ毀壞シ看守人ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ逃走スルトノ差異

第七十三條

第四百號 逃走犯ニ於ル再犯ノ變則

第七十四條

第四百一號 未決囚徒ノ逃走即チ原犯ノ無罪ニ歸シタル場合、原犯ノ有罪ニ決シタル場合、因テ數罪俱發ノ例ヲ適用スル事

第七十五條

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪



第四百二號 逃走ノ囚徒多人數ナル場合ニ於テ刑ノ重加  
第七十六條

第四百三號 囚徒ニ逃走ノ方便ヲ授ケタル者ニ對シ其場合ニ隨テ刑ノ殊様ナル事○更ニ  
重キ一箇ノ犯罪事件ト重加ノ情狀トノ區別  
フエーコンスチエチーフシルコンスタツグラバント  
第七十七條

第四百四號 囚徒ヲ劫奪スルノ罪及ヒ其區別  
第七十八條ヨリ第八十一條ニ至ル

第四百五號 看守人ノ懈怠

第四百六號 看守人再ヒ逃走者ヲ捕獲シタル時ハ其罪ヲ論セス附其ノ三條件

第四百七號 看守人ノ通謀此ニ就キ大ニ刑ヲ嚴ニスルノ理由

第八十二條

第四百八號 公權ヲ禁セラレタル者故ラニ其禁ヲ冒シテ公權ヲ行フ事附國事犯ノ刑  
第八十三條

第四百九號 監視刑ヲ冒スノ罪附常事犯ノ刑

第八十四條

第四百十號 再犯ニ就キ新ナル變則

第八十五條

第四百十一號 犯人ヲ隱匿スル罪

第八十六條

第四百十二號 殺害サレタル人ノ屍体ヲ隱匿スル罪

第八十七條

第四百十三號 前上二箇ノ隱匿ノ場合ニ於テ親族外戚ハ其罪ヲ論セサル事

第八十八條

第四百十四號 本犯ノ未遂犯ニ對スル刑

第七十二條

〔第三百九十九號〕 已決ノ囚徒逃走ヲ謀リ及ヒ之ヲ遂ルノ所爲ハ其所爲ノミチ以テ輕罪ト  
看做スヲ得ス有形若クハ無形ノ苦痛ヲ免カレントスルハ自ラ其苦痛ヲ受ルノ責ヲ悟ル時  
ト雖モ之ヲ厭フハ人ノ自然ノ性情ナレハナリ是レ亦常ニ已決囚徒ノ所爲ノミナラサルナ  
リ○是故ニ囚徒巧ニ監護人ノ懈怠ニ乘シテ逃走シタルハ更ナリ詐欺ヲ用ヒ應接人ニ假飾  
シテ以テ逃走ヲ遂ケタル者ト雖モ罰ス可キニ非ス(附言參看)其所爲ハ獄舎ヲ破壞シ閉鎖  
囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪  
七五三

護送車、其他罪囚ノ自由ヲ妨碍スル器具ヲ毀壞シタル時ノ外罰ス可キモノト成ラサルナ  
リ(但シ附則ト參看ス可シ)

〔附言〕 頒布ノ正條第百四十二條ハ之ニ反ス

本條ニ於テ囚徒ハ此所爲ナキヲ證明スルニ非レハ逃走ヲ宥恕スル所ノ性法ヲ引援スルコ  
ト得ス本條若シ獄舎ヲ破壞シタルノ罪ヲ罰セサレハ囚徒容易スク逃走セシカ爲メ獄舎ニ  
放火シ又ハ看守人ヲ殺サントセサルノ道理ナカル可シ故ニ逃走ノ手段ヲ破獄又ハ暴行ニ  
求メタル囚徒ハ其監獄人ノ懈怠アリシヲ以テ逃走ヲ謀ルニ至リシコトヲ引證スルヲ得サル  
ナリ

加之ナラス獄舎ヲ破壞シタルノ罪ヲ罰セサレハ常ニ逃走ノ企テ豫メ防クノ方ヲ設ケテ獄  
舎ノ構造ヲ堅牢ニセサル可ラサルカ爲メ行政上莫大ノ費用ヲ來シ遂ニ納稅者ノ損害トナ  
ル可シ或ハ然セスンハ全囚徒ヲ鎖繫セサルヲ得サルノ勢トナル可シ如斯ンハ則チ不從順  
ノ囚徒ハ勿論從順ノ囚徒ニ至ルマテ驅テ畢ク拘繫シテ其極途ニ重大ノ苛刑トナルナリ  
本條ハ囚徒逃走ヲ遂ル爲メ獄舎ヲ破壞シ器具ヲ毀損シタル場合ト人ニ對シテ暴行又ハ  
脅迫ヲ爲シタル場合トノ間ニ刑ノ著キ等差ヲ立テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ニ於テハ  
其刑ヲ倍セリ

但シ本條ノ刑ニ於テ罰金ヲ附加スルコトナキヲ注意ス可シ蓋シ囚徒ハ殆ト皆ナ罰金ヲ拂ヒ  
得サル者タルヲ以テ之ヲ拂ヒ得サルニ於テハ是レカ爲メ多クハ皆ナ禁錮ヲ增加スルニ至  
ル可ケレハナリ此理ハ最モ了解シ易シ

然レモ縱令ヒ本條ニ之ヲ明記セスト雖モ囚徒ハ必ス其毀壞シタル器具ノ損害ヲ償フ可キ  
ナリ蓋シ之ヲ償フノ資力モ亦無カル可シト雖モ是レハ本條ニ明記スルヲ要セサルヘキ普  
通原則ニシテ本條ニ在テ其効力ヲ失ハシムルヲ得サルモノナリ(佛蘭西民法第千三百八  
十二條及ヒ日本民法草案第三百九十條ヲ看ヨ)

第七十三條

〔第四百號〕 本條ハ人之チ一觀シテ或ハ怪ムコトナキヲ保セス何トナレハ其逃走シタル囚徒  
ハ既ニ犯罪ノ處刑ヲ受ケ爲メニ獄舎ニ繫カレタルモノニシテ更ニ犯罪ヲ犯セルニ依リ第  
百一條及ヒ第百二條ノ明文ニ從ヒ必スシモ再犯者タラサルヲ得サルカ如キヲ以テナリ  
然レモ此再犯ニシテ刑ヲ加重スルノ情狀ト成ラサル所以ノモノハ其必ス逃走ト相ヒ離ル  
可カラサルモノニシテ乃チ犯罪ヲ構成スル所爲中ノ一ナルカ故ナリ若シ之ヲ再犯ナリト

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

セハ獄舎ヲ破壊シテ逃走シタル已決ノ囚徒ニシテ再犯者タラサル者アルヲ人得テ解了  
スル能ハサル可シ何トナレハ該犯ヲ囚徒ト爲シテ以テ逃走スルノ場合ニ至ラシメタルモ  
ノハ則チ原犯ノ處刑ニアレハナリ○畢竟原犯ノ刑ハ寬嚴宜チ量ツテ立法者カ定メタルモ  
ノト看做サ、ル可ラサルナリ

凡ソ再犯チシテ犯罪加重ノ情狀タラシメントスルニハ該犯ニ限り其同種ノ他犯ト異ナリ  
テ惡事ヲ固執スルノ狀ヲ表シ以テ別段ノ場合ヲ構成シタルヲ要ス然リ而シテ再度逃走シ  
タル者ニ於ケルノ外此別段ノ情狀アラサルナリ故ニ獨リ此者ノミ逃走ト相ヒ離ル可ラサ  
ルニ非サル惡事固執ノ狀ヲ表スルヲ以テ之ヲ逃走ノ再犯者トス可キナリ

又第百八十四條ニ於テモ之ニ類似セル場合ニ付テ之ト同一ナル別格ノ規則ヲ見ル可シ  
佛國ニテモ法律上ニ於テハ此點ノ說明ナシト雖モ判例ニ於テ余カ開陳シタル理由ノ原則  
ヲ以テ之ヲ補フタリ

第百七十四條

〔第四百一號〕 逃走者ノ原犯罪猶ホ未決ナリトノ情狀ヲ以テ其逃走ノ罪ヲ減輕ス可キニ非  
ス故ニ其刑ハ已決ノ囚徒ニ於ケルト同一ナリ

爰ニハ逃走犯ニ先前スル處刑ノ問題ニ係ラス又二罪俱ニ均ク罰スヘキモノナルカ故本條

ハ縱ヒ重加ノ情ヲ滅殺センカ爲ナリト雖モ再犯ノ問題ヲ論セサルナリ然レモ之ト完ク別  
問題ナル數罪俱發ノ罪ヲ罰スルノ問題ヲ爰ニ講セサルヲ得サル場合ナリ

蓋シ純粹ノ正理ヨリ論スレハ未決ノ原犯罪判決ノ前直チニ逃走ノ刑ヲ科スルニ於テ毫モ  
障礙ナカル可シト雖モ單ニ一回ノ裁判ヲ以テ刑ヲ科センカ爲メ寧ロ此二件ノ訴訟ヲ合併  
スルヲ可トス

原訴ノ事ニ就キ未決囚徒カ無罪放免ニ歸シタルモ逃走ノ事ニ就キ之ヲ罰スルニ妨アラ  
ス何トナレハ凡ソ獄舎ヲ毀壞シ或ハ看守人ニ暴行ヲ加ルハ縱ヒ原訴ノ訟相立タスト雖モ尋  
常ノ輕罪ナレハナリ余ハ爰ニ亦第百六十七條ノ官命ニハ縱ヒ其不正ナルコアルモ常ニ恭  
順スヘシト明記スル原則ヲ適用スヘキヲ知ル蓋シ認定ハ常ニ官憲ヲ偏重スルモノナリ亦  
偏重セサル可ラサルナリ

今試ニ未決囚徒カ原訴ニ就キ罰ヲ受ケシ者ト假想ス可シ正條ハ「數罪俱發ノ常例」ヲ適用  
スヘシト記ス而シテ一ノ重キニ從テ處斷スト記セス何トナレハ本草案ニ豫定スル主義ハ  
二說ヲ兩立シテ人ヲシテ其一ヲ擇ハシムルニアレハナリ(第一篇第六章及ヒ第六章ノ二  
ヲ比較スヘシ)

如何ナル主義ニ於テモ若シ原犯重罪ナル時ハ其重罪ノ刑ヲ以テ逃走犯ナル輕罪ノ刑之カ

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

タメ消滅ス乃チ一ノ重キニ從テ處斷スルナリ然レモ原犯本犯共ニ輕罪ノ刑ナル時ハ草案委員ノ多數說及ヒ頒布刑法ノ說ニ依レハ一ノ重キヲ以テ處斷スヘシ然レモ余カ辨論主張スル所ノ少數ノ說ニ依レハ裁判所ハ禁錮及ヒ罰金ノ最少數ノ極度ヲ申渡シテ原犯本犯並ヒ罰スヘキナリ(第百十二條ノ第八項及ヒ第十一項)

第百七十五條

〔第四百二號〕 本犯人ノ多人數ナルハ其刑ヲ加重ス可キ情狀ト成ルコト多シ何トナレハ是レカ爲メ更ニ社會ノ危險ヲ増加スレハナリ

本條ニ於テモ亦第百七十二條ニ記載シタル手段ノ一ヲ以テ逃走シタル者ヲ罰スルコトハ論ヲ俟タス故ニ數人通謀シテ逃走スト雖モ唯詭計巧術ヲ用ヒタルモノハ同シク罰ス可キニ非ス

第百七十六條

〔第四百三號〕 囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授ルノ所爲ハ其性質ヲ以テ之ヲ觀レハ他人ノ輕罪ヲ助ル豫備ノ行爲タルニ過キサルナリ之ヲ豫備ノ行爲ナリトセハ之ヲ罰ス可ラサルニ似タリ然レモ法律ニ於テハ凡ソ道德上ニ背キ以テ社會ニ害アル可キ性質ヲ表スル所爲ヲハ其跡確實ナルキハ常ニ輕罪ノ名稱ヲ下シ以テ輕罪トシテ之ヲ罰スルコトヲ得然ル時ハ其結局ノ

關係ハ措テ論セス其所爲ノミヲ以テ之ヲ熟思シ若シ其所爲ニ於テ罪ス可キ惡意ヲ表シ併セテ社會ノ危難ヲ構成スル時ハ之ヲ別段ノ輕罪ト爲スコトヲ得ルナリ

人若シ本條ニ記載シタル刑ト逃走者ノ刑トヲ比較セハ本條ニ記シタル刑ノ嚴ナルヲ怪ムヲ得ン夫レ人身ニ對シテ暴行ヲ加ヘタルコトナク唯獄舎ヲ破壞シテ以テ逃走シタル者ハ一月已上六月已下ノ禁錮ニ過キサルニ囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授ケタル者ハ其逃走セサル時ニ於テスラ二月已上二年已下ノ禁錮ニ處セラレ其逃走ヲ遂ケタル時ハ尙ホ其刑著ク増加セリ○要スルニ逃走ノ手段人ヲ殺シ又ハ人身ニ暴行ヲ加フルノ具タル時ナリトモ法律上其刑ニ等差ヲ定メサルナリ然レモ其刑ノ最下<sup>ミニマム</sup>限ト最上<sup>マキシム</sup>限トノ間懸隔アルヲ以テ裁判官此所爲ノ社會公益ヲ害シ及ヒ道德ヲ害スルノ輕重ヲ酌量スルヲ得可シ

是ニ由テ之ヲ觀レハ本條ニ論スル行爲ハ之ヲ逃走犯ノ豫備ノ行爲トシテ考フルニ非ス又其從犯トシテ考ルニモ非サルナリ何トナレハ此二個ノ場合ニ於テハ何レモ其主タル輕罪ヨリモ其刑ノ輕カル可キヲ以テナリ

蓋シ本條之ヲ逃走犯ノ豫備ノ行爲及ヒ其從犯ト看做サ、ル所以ノモノハ左ノ二個ノ理由ニ因テ其旨趣ヲ證明スルヲ得可シ

其一 凡ソ囚徒ハ他ヨリ之ニ逃走ノ手段ヲ授ケサレハ多クハ皆テ逃走スルコト能ハサル可

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

其二 逃走シタル囚徒ハ人ノ天然ノ性情ニ從ヒ且ツ殆ト耐ユ可カラサル自由ヲ愛スルノ情ニ從フモノナリト雖モ自ラ繫獄セラル、ニ非スシテ囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授ル者ハ此ノ憐誼スヘキ情ナキノミナラス公ケノ安寧ニ重大ノ妨害ヲ加フルノ理是レ道徳上ノ罪惡ナリ

之ヲ論了スルニ臨テ注意ヲ要ス可キ一事アリ即チ若シ其囚徒逃走スル爲メ人ヲ殺シ若クハ重大ノ毆打殺傷ヲ加ヘタル時ハ此重罪又ハ輕罪中ノ最モ重キ刑ヲ科ス可ク而シテ人ヲ殺スヘキ器械ヲ與ヘタル者ハ其從トシテ之ヲ罰ス可キ事是レナリ余ハ此ノ意ヲ以テ正條ヲ完具スヘキモノト信ス

斯ノ如ク刑ノ増加スル定式ヲ修正シ而シテ現ニ逃走犯ノ効ヲ奏シタル時ハ其増加ノ模様ニモ少ク修正ヲ加ヘタリ舊草案ニ於テハ此ノ逃走ヲ遂ケタル場合ニ一等ヲ加ヘ人ヲシテ法律ハ其ニ重加ノ情ヲ認メタルコトヲ信セシメシカ茲ニハ其ヲ更ニ一箇ノ犯事トナシタリ故ニ之ニ科スルニ更ニ嚴ナル刑ヲ以テスレモ刑ノ逐序加等ノ例ヲ履ム事ナシ余ハ此ノ兩說ニ付第一篇第三章第百四十六號ヨリ第百五十號マテニ於テ彼此大ニ相殊ナルト且其實益トシ長ク論辨シタリ

向後ト雖モ猶ホ此ノ意ヲ以テ舊草案ヲ匡改スルコト多カルヘシ殊ニ次條ニ於テ尤モ然リ

第百七十七條

〔第四百四號〕 囚徒ノ朋友又ハ從犯ノ者其囚徒ヲ逃走セシメ若クハ劫奪スルコト稀ナルニ非ス特ニ國事犯ノ囚徒ニ關スル時ハ尤モ然リトス此所爲ハ當ニ嚴罰ヲ科ス可キモノニシテ特ニ監守人ニ對シテ暴行若クハ脅迫ヲ加ヘタル時ハ嚴ニ之ヲ罰ス可キナリ

本條ハ唯獄舍ヲ外ヨリ破壊シテ以テ囚徒ヲ奪フタル場合ヲ豫見セズ且ツ此場合ハ稀ナルモノナリ何トナレハ都テ獄舍ハ嚴重ニ之ヲ監守スルカ故ニ此所爲ヲ遂ケンニハ殆ト常ニ人身ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲サ、ルヲ得サレハナリ然レモ其事無キニシモアラス例ヘハ囚人ヲ外役ニ引致セシ時ノ如キニ行ハルヘキナリ故ニ之ヲ不問ニ措カサランカタメ「獄舍ヲ毀壞シ護送車ヲ妨害シ」ノ數語ヲ正條ニ増補シタリ

若シ此ノ増補ナクハ唯外ヨリ獄舍ヲ破壊シタルノ場合アラハ必ス適用ス可キノ刑アル可ク其刑ハ則チ第百七十二條ノ刑ニシテ逃走犯ノ共犯又ハ從犯トシテ犯者ニ科ス可シト或ハ說ヲナス者アラン然レモ上來述ヘシ理由ニ據レハ是亦充分ナラサルナリ

草案ノ舊正條ハ三箇ノ情狀ニ對シ各一等ヲ増加スト記セリ今余ハ所謂ル重加ノ情狀トシテハ其第二第三ヲ存スルノミ第一ノ情狀ハ更ニ一箇ノ犯件タルモノニシテ則チ逃走犯人

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

フエール、コンスタンス、エチーフ

ノ罰ハ輕罪ノ刑ニアラスシテ重罪ノ刑ナリ故ニ今余ハ一箇新造ノ犯件ト重加ノ情狀ト混  
視スルヲ勿ラシメンカダメ前條ニ於ルカ如ク此ノ場合ノタメ殊ニ一刑ヲ設ケタリ  
其他二箇ノ重加ノ情狀ニ至テハ刑ノ逐次加等ノ例ニ從フモノナレハ亦更ニ辨テ俟タスシ  
テ明カナリ○唯第二ノ情狀ニ於テ其兇器ハ陽ニ又ハ陰ニ携帯スルト本條ハ區別セサル  
ヲ注意スヘシ本條別ニ其何タルヲ記セスト雖モ若シ陽ニ携帯スルト要スルノ意アラハ  
則チ法文ニ之ヲ明記スル時ニ限ルヘシ

第七十八條ヨリ第八十一條ニ至ル

〔第四百五號〕 此ノ四條ハ俱ニ逃走犯ニ於テ看守人ノ過誤ヲ定ムルモノナリ唯其輕重ノ等  
差アルノミ

第七十八條ノ場合ニ於テハ看守人ノ懈怠ニ過キス其罪頗ル輕シ何トナレハ其意ニ罪ス  
可キモノアラサレハナリ故ニ社會公益上ノ害アルノミ且ツ其害タルヤ囚徒自己ノ盡力ヲ  
以テ逃走シタル時ヨリモ尙ホ輕キモノナリ何トナレハ囚徒逃走セントスルノ盡力ハ絶ヘ  
ス之ヲ爲シ又屢々之ヲ爲シ得ルト雖モ看守人ノ懈怠ハ必ス偶然ノモノダレハナリ且又看  
守人ハ其警戒スヘキ懈怠ノ刑アルノミナラス尙其職務ヲ慎執セサレハ其職ヲ失フノ恐ヲ  
常ニ抱クモノナリ

唯本條ニ爲セル一ノ區別ハ其囚徒入檻ノ原因ニアルノミ若シ其入檻重罪ノ刑ニ處セラレ  
タルニ因ル時ハ監守人ハ更ニ警戒ノ多キヲ加フ可キ責アルヲ以テ其囚徒ノ刑、輕罪ノ禁  
錮ニ過キサルカ又ハ唯未決中ノ入檻ニ關スル時ヨリモ更ニ其懈怠ヲ責罰ス可キナリ且夫  
レ重罪ノ未決囚ト輕罪ノ未決囚トノ間ニハ區別ヲ爲ス可キニ非ス何トナレハ其豫審中該  
犯罪ノ罪ハ多少確實ナラサレハナリ況ンヤ監守人ハ其罪ノ輕重ニ付テ精密ニ之ヲ知り得  
ル者ニ非サルニ於テヤ

〔第四百六號〕 懈怠ニ依テ囚徒ヲ逃走セシメタル監守人又ハ護送人ヲ獎勵シテ其罪過ヲ贖  
フニ盡力セノヲ獎勵センカ爲メ若シ其者一月内ニ逃走者ノ捕獲ヲ助ケテ之ヲ捕縛セシ  
メタル時ハ法律之ニ其刑ノ免除ヲ約セリ

此規則ハ佛蘭西刑法第二百四十七條ヨリ取りシモノト雖モ該刑法ニ比スレハ稍々之ヲ嚴  
ニセリ何トナレハ佛律ニ於テハ捕獲ノ期限四ヶ月ナリト雖モ茲ニハ其期限一ヶ月ニ過キ  
サレハナリ且ツ本條ニ於テハ逃走者ノ捕獲必ス懈怠シタル監守人ノ盡力ニ歸スルヲ要セ  
リ然ルニ佛國ニ於テハ其捕獲他人ノ手ニ成ルトモ監守人ニ同一ノ恩惠ヲ與フ可ケレハナ  
リ

但シ此二律共ニ逃走者其後別ニ犯罪ヲ犯サ、ルコト即チ其逃走ニ依テ社會ノ實害ヲ生セ

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

サルコトヲ要ス

尤モ逃走者唯僅カニ違警罪ヲ犯シタルノ故ヲ以テ監守人ニ本條ノ恩惠ヲ失ハシムルコトナカル可シ

〔第四百七號〕 懈怠ニ依テ囚徒ヲ逃走セシメタル監守人ト故意ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル監守人トノ間ニ大ナル差別アルハ自然ノ理ニシテ第一ノ場合ニ於テハ罪ス可キ惡意ナシト雖モ第二ノ場合ニ於テハ其惡意ヲ存スルヨリ出ルモノナリ  
然リ而シテ爰ニ從犯ノ論理ヲ適用ス可キヤ否ヤヲ論ス可ラサルノミナラス共犯協力ノ論理ヲ適用ス可キヤ否ヤヲ論ス可ラサルナリ

其證據ハ則チ監守人ハ逃走罪ノ從犯ニ比スレハ更ニ重ク罰セラル、ノミナラス其共犯ヨリモ更ニ重ク罰セラル、ニアリ且ツ監守人ニ對シテハ其刑重罪ノ刑ト成ルヲ得ルト雖モ逃走者ニ對シテハ人ニ重大ノ毆打創傷ヲナサ、リシ已上ハ決シテ然ラサルナリ  
監守人第八十條ノ刑ニ處セラレシニハ必シモ獄舍ヲ破壊シ又ハ暴行ヲ爲シテ逃走シタルカ爲メニ逃走者ノ罰セラル可キコアルヲ要スルニ非サルコトヲ注意スヘシ却テ第八十條ノ場合ニ於テハ逃走者破獄ノ罪ヲ犯セシコトナカリシモノト想像セサル可ラス何トナレハ逃走者獄舍ヲ破壊シテ逃走シタルノ場合ハ唯第八十一條ニ於テノミ之ヲ豫定シ監守

人ニ對シテ刑ヲ加重スルモ亦該條ニ屬スレハナリ

囚徒ノ逃走ヲ助ケタル監守人ニ付テ此ノ如ク大ニ其刑ヲ嚴ナラシムルノ趣旨ハ之ヲ證明スルニ難カラス況ンヤ其破壊及ヒ暴行ヲ助ケタル者ヲヤ乃チ其犯罪ニ依テ現出スル道德上及ヒ社會ノ損害ハ頗ル大ナレハナリ

抑々囚徒躬カラ之ヲ犯ス時ノ如キハ其自由ヲ得ントスル天然ノ性情ニ出ルヲ以テ道德上ノ損害減少シ而シテ社會ノ損害ハ監守人ノ巡視ヲ以テ之ヲ防禦シテ容易ニ之ヲ遏制スルコトヲ得ルト雖モ其犯罪監守人自身ノ所爲ニ係ル時ハ非常ニ囚徒ヲ憐憫スルノ念ヨリ起リ又ハ其囚徒ノ親族之ヲ犯シタルコト非レハ道德上ノ本分ヲ破リタルノ罪ヲ宥恕ス可ラス其親族ナルキハ法理上ニアラスシテ實際ノ情ニ因リ其罪ヲ減スルヲ得ヘシ且ツ社會ノ損害ハ其極ニ至レリ何トナレハ監守人ヲ監守スルハ得テ爲ス可ラス而シテ其者ハ司法及ヒ行政官ニ於テ信任シタル所ノ信用ヲ誑クヲ以テナリ

第八十二條

〔第四百八號〕 逃走シタル囚徒獄舍ヲ破壊シ又ハ暴行ヲ爲シタルコト非スシテ唯其監守人ノ

懈怠ニ乘シタルニ過キサル時ハ法律之ヲ罰セスト雖モ公權即チ政權ヲ剝奪セラレタル者ニシテ行政官ノ懈怠ニ乘シテ之ヲ行フタル者ニ當テハ法律之ヲ寬恕セス其之ヲ嚴ニシタ

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

ルノ旨趣ニツアリ其一ハ行政官ニ於テ公權ヲ行フヲ防クハ獄内ノ囚徒ヲ監守スルニ比スレハ其事更ニ難シ其二ハ剝奪セラレタル公權ヲ詐テ行フ者ハ其自然ノ性情ニ從フノ宥恕ヲ得サル是レナリ

本條ノ犯罪ハ政事上ノ犯罪ニ係ルカ故ニ之ヲ科スル禁錮ハ輕禁錮ニシテ即チ定役ナキモノナリ

本條ニ於テハ官吏處刑人ト通謀シ又ハ自己ノ懈怠ニ依リ處刑人ヲシテ公權ヲ行ハシメタル者ニ對シテハ毫モ罰則ヲ記セサルナリ

若シ處刑人ト通謀シタル場合ニ於テハ一般ノ原則ニ依テ從犯ノ論理ヲ適用ス可シト雖モ其懈怠ニ出テタル場合ニ於テハ其所爲ノ輕キヲ以テ不問ニ付ス可シ

第百八十三條

〔第四百九號〕 監視ノ附加刑タル禁制即チ誠令ヲ破ルノ罪ヲ罰スルノ旨趣ハ前條ノ旨趣ト同一ナリ

但シ此刑期ハ前條ノ刑ヨリ短シ其刑期ノ短キ所以ハ該犯ハ自己ノ完全ナル自由ヲ享有セシトシ監視ノ爲メニ受ル所ノ妨碍ヲ免レントスル自然ノ性情アルヲ稍ト宥恕ス可キヲ以テナリ

然レモ其禁錮ハ重禁錮タリ何トナレハ該犯罪ハ毫モ國事犯ノ性質ヲ有スルヲナケレハナリ且ツ其監視國事犯ノ刑ニ附加スルモノタル時ト雖モ亦然リトス○夫レ實ニ爰ニ犯罪トナルノ所爲ハ國事犯ノ所爲ニアラス投票ヲ入レ剝奪サレタル職務ヲ行フタルハ禁制ニ抵抗スルノ所爲即チ禁令ヲ離ル、モノナリ

第百八十四條

〔第四百十號〕 本條ノ規則ハ第百七十二條ノ規則ニ類似シ其旨趣モ亦之ト同一ニシテ即チ其再犯罪ノ性質ニ依リ必ス前ニ處セラレタル刑ノ存スルヲ想像セサルヲ得サルニ於テハ其再犯ノ爲メニ刑ヲ加重スルヲ得サルナリ此情狀ハ常ニ斯ノ如キ別段ノ場合ニ現出スルモノナルヲ以テ輕罪ヲ構成スル所ノ元素ト成ルナリ故ニ裁判官ハ此情狀ヲ酌量シテ以テ其刑ヲ定ムルニ及ハス立法者ニ於テ之ヲ定メタルナリ

之ニ反シテ若シ相踵ヒテ本條ニ定メタル同類ノ二犯罪ヲ犯シタル時ハ其再犯ハ前犯ノ在ルヲ以テ其罪重カル可ク而シテ其罪惡ヲ尙ホ改メサルノ故ヲ以テ再犯ノ爲メ刑ヲ加重スルヲ得可シ

第百八十五條

〔第四百十一號〕 往時日本ニ於テハ往時ノ佛國ニ於ケルカ如ク他人ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シ囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪



タルヲ知リテ温順、柔弱、恐怖ニ依リ若クハ憐憫ヲ以テ故意ニ之ヲ告發セサリシ者ハ法律上ニ於テ之ヲ罰シタリシカ後ニ此制度ヲ廢棄シタリ蓋シ眞ノ疑惑ニ基キ又ハ貴ム可キ謹慎ニ基ヒテ告發セサリシカモ知ル可カラズ然ルニ其怠慢等閑ノ爲メニ其人ヲ罰スルハ甚ク危険ナルヲ以テナリ

然レモ之ヲ以テ人民ハ決シテ犯罪ヲ制止スル處分ニ與關スルノ義務ナシト言フ可キニ非ス

先ツ初メニ法律上ニ於テ人民犯罪ヲ告發スルノ權利ヲ存セリ且ツ現ニ犯罪ノ確タルモノヲ認識シタル者ニ當テハ此權利ハ義務ト爲ル可キモノト言フモ可ナリ然レモ若シ官吏其職權ノ管轄ニ於テ之ヲ知リテ告發セサル者ノ外其之ヲ告發セサルモ之ヲ罰スルノ制定アルニ非サルナリ(治罪法草案、第一百十九條ヲ見ル可シ)

又法律上ニ於テ豫審判事、檢察官若クハ刑事ノ被告人ヨリ證人トシテ喚出サレタル者ハ必ス出頭シテ其知ル所ヲ提供ス可キヲ命セリ而シテ這般ニ方テハ其義務ニ背キタル者ハ刑ヲ以テ之ヲ罰ス(治罪法草案、第九十條、第九十二條ヲ見ルヘシ)

然レモ法律上ニ於テ猶ホ一層嚴ニ要求スル所ノモノハ他人罪人ノ跡ヲ隱蔽シテ以テ裁判所ノ探索ヲ妨碍ス可カラサル事即チ竊ニ罪人ヲ藏匿シテ以テ犯罪ノ制壓ヲ妨ク可カラサルモルシユ

ル事是レナリ是レ則チ本條ノ目的ナリトス

但故意ヲ以テ藏匿又ハ隱蔽セシメタルヲ要スルヲ論チ俟タサルナリ

本條ノ刑ハ前條許多ノ場合ニ於ケルカ如ク本犯處刑ノ輕重又ハ發覺シタル犯罪ノ輕重ニ依テ其等差ヲ立テリ

余ハ舊條ニ記スル一等ノ増等ニ代ルニ一ノ定刑ヲ以テセリ

第八十六條

(第四百十二號) 此犯罪ノ性質ハ前條犯罪ノ性質ト同一ニシテ裁判所ノ探索ヲ妨碍スルモノナリ本條ハ罪人ヲ隱蔽スルニ非スシテ其死體ヲ隱蔽スルモノニ適用ス是ヲ以テ本條ノ規則ハ前條ニ於ケルカ如ク一般適用ノモノニ非ス唯最重ノ犯罪ト看做セル殺人罪ニ之ヲ適用スルノミ

然リト雖モ此「殺人」ト云ヘル語ハ本條ニ在テハ唯一意ニ故意ノ殺人即チ故殺ノ義ト解ス可ラス蓋シ本條ノ深ク慮ル所ハ專ラ此ノ殺人犯ノ場合ナル事ハ照明較著ナリト雖モ過誤不注意ニ因テ人ヲ死ニ致スモノヲ含ムヘシ何トナレハ本條結末ノ文面ニ依レハ誤殺モ亦裁判ノ手ヲ經ヘキ場合ノ一ナレハナリ

都テ此他ノ犯罪ノ場合ニ於テハ其本罪ニ關スル物件ヲ隱蔽シタルニ付テ一般ニ毫モ罰ヲ

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

科スルヲナシ蓋シ第四百四十四條以下ニ於テ盜犯ノ贓物ヲ隠蔽シタルヲ罰スル場合ノ外  
毫モ之ヲ見サル可シ

第百八十七條

〔第四百十三號〕 法律上ニ於テハ血屬及ヒ姻屬ヨリ生スル愛情及ヒ忠實ノ自然ナル感覺ヲ  
酌量セサルヲ得ス〇固ヨリ本條ハ本犯ノ血屬又ハ姻屬ノ親ヲ看テ其追捕又ハ刑ヲ免レシ  
ムルノ權利アルモノト認ムルニ非スト雖モ法律上ノ義務ト正當ノ愛情トノ間ニ在テ遂ニ  
愛情ノ感覺ニ循ヒタル者ニハ前二條ニ定メタル場合ニ於テ宥恕不論罪ヲ與フルナリ  
此宥恕ハ本條ニ類似セル第百四十六條ノ場合ニ於テ既ニ定メタル所ナリ

第百八十八條

〔第四百十四號〕 看守人眞ノ懈怠ニ因テ囚徒ヲ逃走セシメタル場合ノ外上ニ記載シタル諸  
犯罪ハ之ヲ遂ケタルニ非スシテ其目的ヲ闕効シ又ハ唯未遂ニ過キサリシモノアル可シ然  
ル時ハ第百二十五條第百二十六條第百二十九條ニ據テ本刑ニ照シ一等ヨリ三等ヲ減ス可  
シ

第四節 兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪

兵器及ヒ  
其製造  
第百八十九條 政府ノ允許ヲ受ケスシテ兵器、軍用器械、彈藥又ハ政府ニ於テ獨リ製造スル

所又ハ政府ヨリ某者ニ特任スル所ノ破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ六月已上二年已下ノ  
重禁錮ニ處シ五拾圓已上貳百圓已下ノ罰金ヲ科ス  
輸入 允許ヲ受ケスシテ之ヲ日本ニ輸入シタル者亦同シ

販賣 本條ニ記シタル物件ヲ販賣シ又ハ販賣セントシタル者ハ三月已上一年已下ノ重禁錮ニ處シ  
貳拾五圓已上百圓已下ノ罰金ヲ科ス(刑、第百五十七條〇千八百三十四年五月二十四日ノ佛  
法、第二條及ヒ第三條)

禁制ノ兵 第百九十條 一般禁制ノ武器ヲ製造シ又ハ之ヲ日本ニ輸入シタル者ハ二月已上一年已下ノ  
重禁錮ニ處シ貳拾五圓已上百圓已下ノ罰金ヲ科ス

唯其武器ヲ販賣シ又ハ之ヲ販賣セントシタル者ハ一月已上六月已下ノ重禁錮ニ處シ拾圓已  
上五拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(佛刑、第二百十四條第一項〇同佛法、第一條)

職工等ニ 第百九十一條 職工又ハ雇人ノ身分ニシテ情ヲ知テ該物件ノ製造輸入若クハ販賣ニ從事シ  
關スル刑 タルニ過キササル者ハ前記ノ刑ノ二等ヲ減ス(刑、第百五十八條)

未遂犯 第百九十二條 此節ニ記シタル犯罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

監視 第百九十三條 前數條ニ依テ禁錮ニ處セラレタル者ハ六月已上二年已下ノ監視ニ付スルコ  
トヲ得(佛刑、第二百十五條〇同佛法、第四條及第十一條)

兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪

所有ノ罪 第九十四條 前條ニ記載シタル物件ヲ販賣セズ唯之ヲ所有シタルコ止ル者ハ五圓已上貳拾五圓已下ノ罰金ニ處ス(刑)第九十六條○佛刑、第三百十四條第二項○同佛法、第一條)

沒收 第九十五條 上ニ記載シタル諸物件并ニ其物件ヲ製造スルニ用ユ可キ器械ハ何人ノ所有ニ係ルヲ論セス都テ之ヲ沒收ス(刑)第九十一條○佛刑、第三百十四條第二項○佛法、第四條)

要旨

- 第九十九條
- 第一百十五號 兵器ノ製造ハ政府ノ獨占タル理由
- 第一百十六號 私ニ兵器ヲ製造スルノ罪ハ國事犯ノ豫備タル事ヲ得○又別段一箇ノ輕罪トナル事アリ
- 第一百十七號 私ニ日本國ニ武器ヲ輸入スル罪附關稅官ノ過誤ニ付疑問
- 第一百十八號 製造人又ハ其他ノ人武器ヲ賣リ又ハ賣ントスル罪
- 第九十條
- 第一百十九號 禁制ノ武器

- 第九十一條
- 第一百二十號 共犯人ノ事附本犯ノ刑ノ輕キ事
- 第九十二條
- 第一百二十一號 本犯未遂ノ刑
- 第九十三條
- 第一百二十二號 監視刑ヲ附加スル理由
- 第九十四條
- 第一百二十三號 之ヲ所有スルノ罪附本犯ハ必ス現行犯ナルヲ要ス
- 第九十五條
- 第一百二十四號 沒收其經界
- 第八十九條
- 第一百十五號) 凡ソ政治ノ宜キヲ得タル諸邦ニ於テハ兵器及ヒ彈藥ノ製造ハ政府ノ獨占ニ歸ス蓋シ此事項ニ在テ人民ニ工業及ヒ商業ノ自由ヲ委スルハ甚タ危險ニシテ反逆及ヒ内亂ノ場合ニ於テ政府ニ敵スル者官兵ニ抵抗スルヲ得ヘキ兵器、彈藥其他戰爭器械ノ準備ヲ爲スコト屢々之レアル可ケレハナリ

兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪

政府ハ此物件ノ製造ヲ独占スト雖モ人民ニ命シテ其需要ノ全部又ハ一部ヲ製造セシムル  
事ヲ得尤モ然ル時ハ製造ヲ命シタル工場ニ屬スル官吏ヲシテ其製造ヲ監察セシメ以テ政  
府ヨリ命シタル量數ヲ超テ毫モ製出セサル事及ヒ其一部分ヲモ竊取セサル事ヲ検査セシ  
ムルナリ

或人ハ言ハン政府ノ之ヲ独占スルハ更ニ他ノ理由アリ即チ一國ノ外交ヲ保全スルタメナ  
リ若シ兵器ノ製造ヲ人民ノ工業ニ委ヌル時ハ其カタメ外交ノ親和ヲ害スルコトアルヘシト  
然レモ此説ニ於テ混同錯綜ノ點アリ夫レ玆ニ論スル所ノモノハ政府カ兵器ヲ製造スルノ  
權ヲ有シ且之ヲ有セサル可ラサルヤ否ヲ知ルニアラス素ヨリ政府ノ此權ヲ有スル亦疑テ  
容レヌ然レモ政府タルモノ唯獨リ之ヲ專有スヘキカ或ハ人民ノ競争ヲ許スヘキヤ否ヲ知  
ルニアリ○人民ノ兵器ヲ製造スルハ外侮ヲ防クノ方法ヲ貯フルヲ害セサルノミナラス或  
ハ却テ其便方ヲ與ルモノタルヤ炳カナリ故ニ曰ク人民ニ兵器ノ製造ヲ許スノ危險ハ嚮ニ  
陳セシ政府ニ呼クノ恐アルノ一事ナリト

政府ニ於テ此製造ヲ独占スル權ハ大ニ公ケノ安寧ヲ保護スルモノナレハ立法者ハ人民ヲ  
シテ之ヲ犯サ、テシメンカ爲メ之ニ妨害ヲ加フル者ニ對シテ嚴刑ヲ科セサルヲ得サリキ  
本條ハ爰ニ兵器及ヒ彈藥ノ製造ヲ以テ國事犯ノ豫備ノ行爲ト看做セルニ非ス然レモ此製  
造<sup>クリームボリチツク</sup>ニ於テ此製造ヲ独占スル權ハ大ニ公ケノ安寧ヲ保護スルモノナレハ立法者ハ人民ヲ

造<sup>クリームボリチツク</sup>ニ於テ此製造ヲ独占スル權ハ大ニ公ケノ安寧ヲ保護スルモノナレハ立法者ハ人民ヲ  
シテ之ヲ犯サ、テシメンカ爲メ之ニ妨害ヲ加フル者ニ對シテ嚴刑ヲ科セサルヲ得サリキ  
本條ハ爰ニ兵器及ヒ彈藥ノ製造ヲ以テ國事犯ノ豫備ノ行爲ト看做セルニ非ス然レモ此製  
造<sup>クリームボリチツク</sup>ニ於テ此製造ヲ独占スル權ハ大ニ公ケノ安寧ヲ保護スルモノナレハ立法者ハ人民ヲ

〔第四百十六號〕 本條ニ於テハ玆ニ製造ノ目的ヲ措テ論セス其製造ノ所爲ヲ以テ之ヲ罰セ  
リ實ニ法律ハ常ニ或ル行爲ノ未定ノ性質ヲハ論スルコトナク又犯罪ヲ企ツヘキ後來ノ目的  
ヲハ不問ニ付シ以テ唯其本來ノ性質及ヒ其現惡ヲ論スルヲ得テ決シテ之カタメ正理公道  
ニ背クコトナキナリ

余ハ嚮ニ此説ヲ應用シテ其辨解ヲナシ置キタリ(第三百八十一號ヲ看ルヘシ)其他之ニ類  
似スル場合ニ於テ重大ナル犯罪ノ豫備ノ行爲ト看做スヲ得ヘキ所爲ヲ一種ノ輕罪ト定メ  
テ罰スルコト頗ル多シ

此適例ハ之ヲ本章中ニ求ムルヲ要セス直チニ人ノ住所ヲ侵ス罪兇徒聚集ノ罪及ヒ官ノ封  
印ヲ破棄スル罪(本章第六節第六節ノ二及ヒ第七節)ヲ引證スルヲ得ヘシ  
本條ニ記スル罪ヲ罰スルニ國事犯ノ刑ヲ以テセスシテ普通犯ノ刑タル重禁錮ヲ以テスル  
所以ハ則チ此旨趣ニ因ル所ナリ

〔第四百十七號〕 又外國ニ於テ製造シタル同一ノ物件ヲ日本ヘ輸入スルノ罪ヲ以テ之ヲ日

兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪